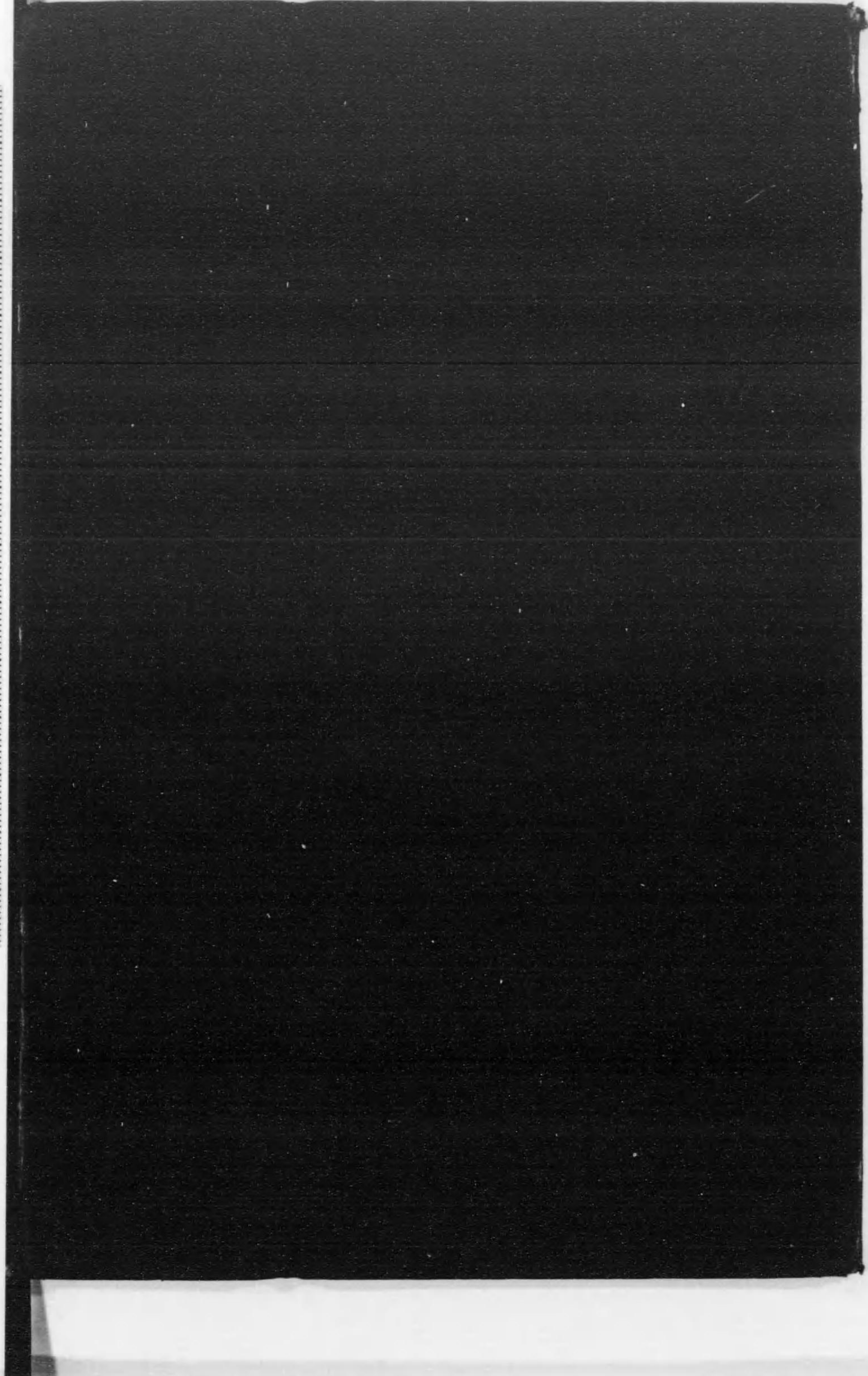
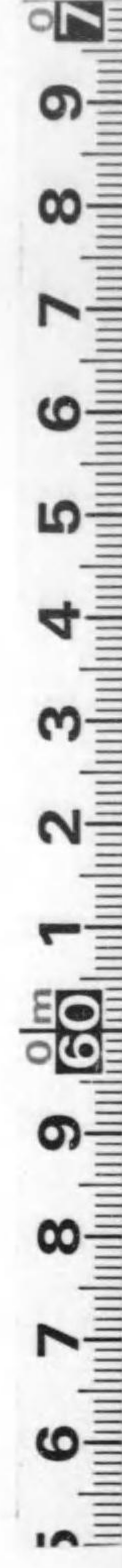




始



322  
443

米國 オスグート氏原著



權 正 董 譯

# 微分積分學

全



東 京

有 朋 堂 發 行

大 正

14. 9. 29

內 交

## 緒 言

予ガ明治三十三年ニ於テ獨國 Oskar Schlömilch 氏著  
Compendium der Höheren Analysis フ譯シタル時ニハ長澤  
龜之助氏ノ「トッドハンター」ノ英譯アリシノミニシテ、他ニ  
コレアリトスルモ比肩スルニ足ルモノナカリキ。

其後比較的高尙ナル數學書ハ世ニ出テタレドモ微分積分  
學ノ書ニシテ今日世ノ學生ノ必要ニ適應スルモノ少ナシ、是  
レ本書 First Course in the Differential and Integral Calculus  
ヲ譯述セシ所以ナリ。但シ著者 William F. Osgood ハ米國  
ニ於ケル有名ナル函數論學者ニシテ佛獨共同ニナル有名ナル  
數學ノ類從 Encyclopédie des Sciences Mathématiques ノ  
内ノ一文ヲ草セシ人ナリ。

同氏ノ本書ガ出版後版ヲ重タルコト數回ナリシハ頗ル  
學界ノ必要ニ迫マラレタルニ依ル、其後ハ新ニ版ヲ改メテ  
Introduction to the Calculus フ公ニセシト雖ドモ予ハ現下日  
本學生ノ必要ニ應ズルハ寧ロ前者ナリトシ、之ヲ用ヒタリキ。

今日我邦學生ニ好適シ特ニ中等教員ノ受験用、工科、  
理科ノ學生及ビ、大學豫科ノ學生等ニ最モ適シタルモノナ  
リ。

本書ヲ公ニスルニ際シ、予ハ大患ヲ受ケ校正ニ困難ヲ感

ズルニ當リ慶應義塾大學教授森吉太郎, 加藤幸重郎 及ビ 幸野  
省三ノ三氏ノ 丁寧ナル忠言校閲ヲ受ケ, 校正上 遺漏ナキヲ得  
タルコトハ感謝ノ至リニ堪ヘズ.

大正十四年八月

樺 正 董

# 微 分 積 分 學

## 目 次

### 第 一 編

#### 緒 論

	頁數
1. 函數.....	1
2. 曲線ノ傾斜.....	5

### 第 二 編

#### 代數函數ノ微分法. 一般ノ定理

	頁數
1. 微係數ノ定義.....	10
2. $x^n$ ノ微分法 .....	12
3. 常數ノ微係數 .....	14
4. 微分法ノ一般ノ公式.....	15
5. 極限ニ就テノ三ツノ定理.....	18
6. 微分法ノ一般ノ公式(終リ).....	24
7. 根式ノ微分.....	28
8. 續キ: $n$ ガ分數デアル $x^n$ .....	30
9. 代數函數ノ微分法.....	38

## 第三編

## 應用

	頁數
1. 切線及ビ法線.....	42
2. 極大, 極少.....	45
3. 續キ, 補助變數.....	49
4. 速度.....	52
5. 増加或ハ減少スル函數.....	56
6. 曲線ヲ畫クコト.....	58
7. 比較的極大, 極少「インフレクション」ノ點.....	61
8. 方程式ノ根ニ就イテ.....	66

## 第四編

## 超越函數ノ微分法

	頁數
1. $\sin x$ , ノ微分法.....	71
2. $\cos x$ , $\tan x$ 等ノ微分法.....	76
3. 反函數.....	78
4. 反三角函數.....	80
5. 對數及指數.....	84

6. $\log x$ ノ微分法.....	89
7. 複利ノ法則.....	93
8. $e^x$ , $a^x$ ノ微分法.....	95

## 第五編

## 無限少及ビ微分

	頁數
1. 無限少.....	97
2. 基礎ノ定理.....	102
3. 極座標ニ於ケル切線.....	103
4. 微分.....	105
5. 微分法ノ技術.....	108
6. 弧ノ微分.....	114
7. 比ト速度.....	116

## 第六編

## 積分

	頁數
1. 曲線ノ下ノ面積.....	121
2. 積分.....	124
3. 積分ノ特別ノ公式.....	128

目次	
4. 代入法.....	130
5. 巧妙ナ工夫デ出来ル積分法.....	133
6. 部分積分法.....	136
7. 表ノ用法.....	138
8. 曲線ノ弧ノ長サ.....	140

### 第七編

#### 曲率・縮閉線

	頁數
1. 曲率.....	146
2. 切觸圓.....	150
3. 縮閉線.....	151
4. 縮閉線ノ性質.....	156

### 第八編

#### 擺線

	頁數
1. 擺線ノ方程式.....	160
2. 擺線ノ性質.....	161
3. 外擺線, 内擺線.....	164

目次	
----	--

### 第九編

#### 定積分

	頁數
1. 曲線ノ下ノ面積ノ新シキ式.....	168
2. 續キ.....	169
3. 廻轉體ノ體積.....	172
4. 他ノ體積.....	174
5. 水壓.....	176
6. 「ドウハアメル」ノ定理.....	179
7. 曲線ノ長サ.....	182
8. 廻轉面ノ面積.....	183
9. 重心.....	186
10. 立體及ビ廻轉體ノ面ノ重心.....	186
11. 平面ノ重心.....	189
12. 一般ノ公式.....	190
13. 惰率.....	191
14. 一般ノ定理.....	194
15. 重力.....	196
16. (3)ナル公式ノ證明.....	199

## 第十編

## 平均ノ法則 不定形狀

	頁數
1. 「ラール」ノ定理.....	203
2. 平均法則.....	203
3. 應用.....	205
4. 不定形狀.....	205
5. $0 \times \infty$ 及 $\infty / \infty$ ナル形狀.....	208
6. $0^0, 1^\infty, \infty^0$ 及 $\infty - \infty$ ノ形狀.....	208

## 第十一編

## 無限級數ノ收斂

	頁數
1. 等比級數.....	212
2. 無限級數ノ定義.....	213
3. 收斂級數ノ驗シ.....	214
4. 發散級數.....	218
5. 試驗比.....	219
6. 交代級數.....	222
7. 正項或ハ負項ノ級數一般ノ場合.....	223

8. 幕級數.....	227
9. 無限級數ニ於ケル運算.....	228

## 第十二編

## 「テーラー」ノ定理

	頁數
1. 「マクロラン」ノ級數.....	232
2. 「テーラー」ノ級數.....	234
3. 「テーラー」ノ定理ノ證明.....	237
4. 餘數ノ第二形式.....	240
5. $e^x, \sin x, \cos x$ ノ展開.....	240
6. 應用.....	242
7. ニツノ曲線ノ切觸ノ度.....	244

## 第十三編

## 偏微分法

	頁數
1. 多クノ變數ノ函數.....	249
2. 立體幾何學ノ公式.....	250
3. 偏微係數.....	255
4. 幾何學ノ解釋.....	256



8	目 次	
5.	高次ノ微係數.....	258
6.	完全微分.....	259
7.	變數ノ變化.....	262
8.	終結.....	265
9.	「ホモゼン」函數ニ於ケル「オイレル」ノ定理.....	267
10.	陰函數ノ微分.....	269
11.	種種ノ陰函數.....	271
12.	正確ノ微分.....	275

### 第十四編

#### 立體幾何學ニ於ケル應用

	頁數
1. 一ツノ面ニ於ケル切平面及ビ法平面.....	278
2. 空間曲線ノ切線及ビ法平面.....	279
3. 接觸平面.....	283

### 第十五編

#### 多クノ變數ヲ有スル函數ノ

#### 「テーラー」ノ定理

	頁數
1. 平均值.....	287

	目 次	9
2.	「テーラー」ノ定理.....	288
3.	極大極小.....	289
4.	第二次微係數ニテノ驗メシ.....	291

### 第十六編

#### 包 圍 線

	頁數
1. 曲線ノ群ノ包圍線.....	294

### 第十七編

#### 一 重 積 分

	頁數
1. 或立體ノ體積.....	299
2. 面ノ下ノ立體ノニツノ式.....	300
3. 續キ.....	304
4. 積分ノ基礎ノ定理.....	304

### 附 錄 第 一

#### 微 分 方 程 式

	頁數
1. 定義.....	307

2. 第一階級ノ一次ノ微分方程式 .....	308
3. 齊次微分方程式 .....	310
4. $(ax+by+c)dx+(a'x+b'y+c')dy=0$ ナル形式 .....	311
5. 第一次階級ノ線の方程式 .....	313
6. 線の方程式ノ擴張 .....	315
7. 正格微分方程式 .....	316
8. 正格ナル方程式ニスル因数 .....	318
9. 第一階級及ビ第二次 .....	322
10. 第二階級ノ微分方程式 .....	324

## 附録第二

### 積分演習及ビ表

	頁數
1. 初步ノ形式 .....	328
2. 有理代數ノ形式 .....	329
3. 無理代數函數 .....	332
4. 三角函數ノ超越函數 .....	339

# 微分積分學

## 第一編

### 緒論

微積分學ハ第十七世紀ニ於テ數學者、天文學者、物理學者ナル英國ノ「ニュートン」(Isaac Newton) ト哲學者ナル獨逸ノ「ライプニツ」(Leipnitz) トニ依テ發明セラレタ。此發明ガ幾何學ト物理學トノ上ニ呈シタ反應ハ甚大デ、現在ノ數學ト物理學トノ大半ノ存在ハ此發見ニ負フノデアル。

1. 函數. 學生ハ既ニ製圖シタ「グラフ」デ函數ノ觀念ヲ得タ、而シテ代數學ヤ解析幾何學ニ用ヒタ。例ヘバ

$$y = 2x + 3$$

デアルトキハ「グラフ」ハ直線デアリ、又

$$y^2 = 2mx, \quad y = \pm\sqrt{2mx}$$

ダト拋物線デアリ、又

$$y = \sin x$$

ダト週期的ニ循環スル弓狀ノ連續デアル。カヤウニ次ノヤウニ函數ハ本來ハ  $x$  ヲ含ム式デ、 $x$  ニ特別ノ値ヲ與ヘルト一定ノ値ヲ有スルヤウナモノデアルト考ヘラレル：

$$f(x) = 2x + 3,$$

$$f(x) = \pm\sqrt{2mx},$$

$$f(x) = \sin x.$$

他ノ文字デ函数ヲ表ハスコトモアル、ソレハ  $\phi(x), \psi(x), F(x)$  等デアル。  $f(x)$  ハ  $x$  ノ  $f$  ト讀ム。

函数ノ其外ノ例ハ次ノヤウナモノデアル。

(a) 球ノ體積  $V$  ハ半径ノ長サ  $r$  ノ長サノ函数デアル：

$$V = \frac{4}{3}\pi r^3.$$

(b) 石ヲ静止ヨリ落シタトキ落ちタ距離  $s$  ハソレニ要シタ時  $t$  ノ函数デアル：

$$s = 16t^2.$$

(c) 等比級數ノ初メノ  $n$  項ノ和：

$$S_n = a + ar + ar^2 + \dots + ar^{n-1}$$

ハ  $n$  ノ函数トシテ

$$S_n = \frac{a - ar^n}{1 - r}$$

デ表ハサレル。

高等數學デハ函数ノ觀念ハ擴張セラレテ、 $y$  ガ實際數學公式トシテ  $x$  ノ項デ表ハサレナクトモ  $x$  ガ與ヘラレルトキ  $y$  ガ定メラレルトキニハ、ドンナ場合デモ此用語ヲ用ヒル、此觀念ヲ函数ノ形式的定義ト云フ。

函数ノ定義.  $x$  ガ與ヘラレルトキ  $y$  ガ定マルトキニ、 $y$  ヲ  $x$  ノ函数ト云フ。

例ヘバ自記溫度計ノペン先ハ一日ニ一廻轉スル直立セル太キ管狀ノ周圍ニ卷キタル紙ノ上ニペン先キガ壓迫シテ溫度ノ昇降ニ從ヒ上下ニ運動シテ曲線ヲ書ク。カラシテ其管ガ其上リ、下リハ時ノ函数デアル。又或容器ニ密閉シタ瓦斯ノ一平方「メートル」ニ於ケル壓力ハ溫度ノ函数ト見做サル。又彈丸ノ運動ニ於ケル大氣ノ抵抗ハ速度ノ函数デアル。

函数ハ一ツ或ハ多クノ常數ヲ含ム、例ヘバ：

$$f(x) = ax + b, \quad \phi(x) = \tan ax$$

ニ於テ常數  $a, b$  ヲ含ム。其研究中ハ其値ハ固持サレ、ソウシテ  $x$  ト共ニ變化シナイモノデアル。

若シ  $y$  ガ  $x$  ノ函数デアルトキハ  $x$  ハ自變數ト云ハレ、 $y$  ハ屬變數ト云ハレル。自變數トスルモノハ任意ニ選ブコトガ出來ルモノデ或ハ問題ノ條件デ定マツテアル場合モアル。斯ク自變數ヲ定メタ以上ハ其函数即チ屬變數モ定メラレル。

例ヘバ：

$$s = 16t^2$$

ニ於テ  $t$  ヲ自變數ト考ヘ、 $s$  ヲ屬變數ト考ヘル。然シ  $t$  ニ就テ解クトキハ：

$$t = \frac{\sqrt{s}}{4},$$

但シ  $s, t$  何レモ正量ニ限ルコト、シテ  $s$  ヲ自變數トシ  $t$  ヲ屬變數ト考ヘルコトガ出來ル。一般ニ二ツノ變數ガーツノ方程式テ結付キタルトキ例ヘバ  $c$  ガ常數デアアル所ノ

$$pv = c$$

ニ於テ  $v, p$  ノ何レカヲ自變數トナセバ他ノモノハ函數デアアル。

函數ハ一ツヨリ多イ自變數ニ屬スルコトガアル、例ヘバ矩形ノ様ニ二ツノ相隣ル二邊ノ積ニ等シイ場合ハソレデアアル。又他ノ例ガアル：

$$f(x, y) = \frac{1}{2} \log(x^2 + y^2),$$

$$\phi(x, y, z) = ax^2 + by^2 + cz^2.$$

又  $x$  ノ一ツノ値ニ  $y$  ノ多クノ値ガ對應スルコトガアル：

$$x^2 + y^2 = a^2, \quad y = \pm \sqrt{a^2 - x^2}.$$

斯様ナトキニハ  $y$  ハ  $x$  ノ衆値函數ト云フ。然シ普通此ヤウナ場合ニハ單值的函數ヲ作り得ラレルヤウニ幾ツカノ群ニ分ツヤウナコトガ自然デアアル、即チ次ノ如シ：

$$y = \sqrt{a^2 - x^2}, \quad y = -\sqrt{a^2 - x^2}.$$

本書ニテハ函數ハ他ガ言明セラレス以上ハ單值デアアルト理解セラレル。

函數ハ自變數ニ少許ノ變化ヲ與ヘルトキ函數ニ少許ノ變化ヲ生ズルトキ連續的デアアルト云フ、例ヘバ

$$y = \frac{1}{x}$$

ト云フ函數(双曲線)ハ一般ニ連續的デアアル。然シ  $x$  ガ 0 ニ近ヅクトキ  $y$  ノ數值ハ無限ニ増加シ  $x=0$  ナル點ニテハ不連續デアアル。

一量ノ數值即チ絶對值ヲ用ヒタイコトガ度々アル、ソウシテソレニ一ツノ記法ヲ要スルコトガアル。其記法ハ  $|x|$  デアル、コレヲ  $x$  ノ絶對值ト讀ム、例ヘバ  $|-3| = 3, |3| = 3$  ナルヤウナモノデアアル。又  $a$  ガ正量デモ、負量デモ

$$\sqrt{a^2} = |a|.$$

2. 曲線ノ傾斜。解析幾何學ニ於テ簡單ナ曲線ノ傾斜ヲ求メルコトヲ知ツタ。其法ハ微積分デ基礎的必要ナモノデアアル。今ソレヲ再出シヤウ。

例ヘバ次ノ拋物線アリトシヤウ：

$$(1) \quad y = x^2.$$

其上ノ點  $P$  ガ坐標  $(x_0, y_0)$  ヲ有シ、此曲線上ノ任意ノ點  $P'(x', y')$  ヲ取り、 $P$  ト  $P'$  トヲ過ル割線ヲ引キ

$$x' = x_0 + h, \quad y' = y_0 + k$$

トセバ割線ノ傾斜ハ

$$\tan \tau' = \frac{y' - y_0}{x' - x_0} = \frac{k}{h}.$$

$P'$  ガ  $P$  ニ近ヅクニ從ヒ割線ハ  $P$  ノ周リニ廻轉シ、切線ニ近

迫シ、其傾斜ハ切線ノ傾斜ニ近ヅク：

$$\lim_{P \rightarrow P'} \tan \tau' = \tan \tau.$$

今此極限ノ値ヲ求メタイノデアル。

P ハ (1, 1) デアルトシ、h ノ小キ値ニ對シテ k ノ値ヲ計算スルトシヤウ。茲ニ  $x_0 = 1$ ,  $y_0 = 1$  デアル、 $h = 0.1$  デアルト

$$x' = x_0 + h = 1.1, \quad y' = y_0 + k = 1.21,$$

ソウシテ

$$k = y' - y_0 = 0.21,$$

$$\tan \tau' = \frac{k}{h} = 2.1$$

次ノ表ハ h, k ノ其他ノ値ヲ表ハシ且同時ニ  $\tan \tau'$  ヲ表ハ

ス

h	k	$\tan \tau'$
0.1	0.21	2.1
0.01	0.0201	2.01
0.001	0.002001	2.001

コノ終リノ行ハ注目スベキモノデアル。tan  $\tau$  ガ段々ト極限トシテ 2 ニ近迫スルヤウニ見ユル。コレガ實際ソウデアル。

證明ハ簡單デアルカラ、一般ニ任意ノ點 P ニツイテ説明シヤウ。

P ト P' トハ曲線 (1) ノ上ニアルカラ：

$$(2) \quad y_0 = x_0^2,$$

$$(3) \quad y_0 + k = (x_0 + h)^2 = x_0^2 + 2x_0h + h^2.$$

(3) カラ (2) ヲ減ズルト

$$(4) \quad k = 2x_0h + h^2,$$

$$\text{終ニ} \quad \tan \tau' = \frac{k}{h} = 2x_0 + h,$$

P' ガ P ナル極限ニ近ヅクト h ハ 0 ニ近ヅクカラ

$$\lim_{P \rightarrow P'} \tan \tau' = \lim_{h \rightarrow 0} \frac{k}{h} = \lim_{h \rightarrow 0} (2x_0 + h),$$

$$(5) \quad \tan \tau = 2x_0.$$

特ニ  $x_0 = 1$  デアルト、 $\tan \tau = 2$ . 是レハ證明シヤウト

シタモノデアル。

## 演習

1.  $f(x) = x^3 - 3x + 2$  デアルト  $f(1) = 0$  デアルコトヲ證明セヨ、又  $f(0)$ ,  $f(-1)$ ,  $f\left(1\frac{1}{3}\right)$  ヲ計算セヨ。

2.  $f(x) = \frac{2x-3}{x+7}$  デアルト  $f(\sqrt{2})$  ヲ計算セヨ。(三ツノ有效數字ヲ有スルヤウニ)

3.  $F(x) = (x-x^2) \sin x$  ヲ  $F(x) = 0$  トナルスベテノ x ヲ求メヨ。

4.  $\phi(x) = 2^x$  ダトスルト  $\phi(0)$ ,  $\phi(-3)$ ,  $\phi\left(\frac{1}{3}\right)$  ノ値ハ如何。

5.  $f(x) = x - \sqrt{a^2 - x^2}$  タトシテ  $f(a), f(0)$  ヲ求メヨ.

6. 上ノ問題デ,  $a = \cos \frac{5\pi}{6}$  タトシテ  $f(0)$  ヲ三ツノ有效數字ヲ有スルマデ計算セヨ.

7.  $\phi(x) = x^{\frac{2}{3}} - x^{-\frac{2}{3}}$  ニ於テ  $\phi(8)$  ヲ計算セヨ.

8.  $f(x) = x \log_{10}(12 - x^2)$  ニ於テ  $f(-2), f\left(3\frac{1}{3}\right)$  ヲ計算セヨ. (但シ  $\log_{10} 2 = 0.30103, \log_{10} 3 = 0.47712$ )

9.  $x^2 - xy + 3 = 5y$  ニ於テ  $y$  ニツイテ方程式ヲ解ケ, 即チ  $y$  ヲ  $x$  ノ函數トシテ表ハセ.

10.  $f(x) = a^x$  デアルト

$$f(x)f(y) = f(x+y)$$

デアルクトヲ證明セヨ.

11. 第2款ノ表ヲ更ニ2行續ケヨ ( $h = 0.0001$  及ビ  $h = 0.00001$  トシテ).

12. 點  $(2, 3)$  ニ於テ曲線

$$8y = 3x^2$$

ノ傾斜ヲ見出セ, 且第2條ノ表ト同様ナルモノヲ作り, 外見的ノ極限ガ實際極限デアルクトヲ證明セヨ.

13.  $(x_0, y_0)$  ナル點ニ於テ曲線

$$y = x^3 - x^2$$

ノ傾斜ヲ求メヨ.

14.  $(x_0, y_0)$  ナル點ニ於テ曲線

$$y = ax^2 + bx + c$$

ノ傾斜ヲ求メヨ.

15.  $(x_0, y_0)$  ナル點ニ於テ曲線

$$y = \frac{1}{x}$$

ノ傾斜ヲ求メヨ.

## 第二編

## 代數函数ノ微分法

## 一般ノ定理

1. 微係數ノ定義. 微積分法ハ變量ヲ取扱フモノデ,  $y$  ガ  $x$  ノ函数デアルト  $x$  ハ一ツ或ハ他ノ特別ノ値ヲ有セザルモノ, 流走スルモノ或ハ成長スルモノナルコト, 丁度時ニ就テ或ハ靜カナル池中ニ石ヲ落下シクルトキ擴ガル波紋ノヤウナモノデアル. ソウシテ  $y$  ハ  $x$  ト共ニ時トシテ増加シ, 時トシテ減少スル.  $x$  ガ  $x_0$  カラ  $x=x'$  マデ或範圍内ノ總ベテノ値ヲ取ルトキ  $y$  ガ相當シテ  $y_0$  カラ  $y'$  ニ變ジ其量ハ一般ニ  $x$  ノ變化ニ略ボ比例スルコトハ函数ノ「グラフ」ニ就テ見ルデアラウ. 何トナレバ其變化ノ比ハ

$$\frac{y'-y_0}{x'-x_0} = \tan \tau',$$

ニシテ此  $\tan \tau'$  ハ極限  $\tan \tau$  ニ近ヅク, 之ヲ再言セバ切線ノ傾斜  $\tan \tau$  ニ近ヅクカラデアル.

此比ノ極限即チ

$$\lim_{x' \rightarrow x_0} \frac{y'-y_0}{x'-x_0} = \tan \tau$$

ノ定メルノハ必要ナ問題デアルカラ既知ノ函数ニツイテ之ヲ

解キ其結果ノ種々ノ應用ヲ與ヘルコトニ次ノ僅少ノ編ヲ費スデアラウ.

定義トシテ前ニ説明シタ觀念ヲ形式化シヤウ.  $x$  ノ函数ヲ

$$(1) \quad y = f(x)$$

$x$  ノ  $x_0$  ナル値ニ對シテハ

$$(2) \quad y_0 = f(x_0)$$

今  $x_0$  ニ  $\Delta x$  ナル變化ヲ與ヘルト, 即チ  $x'$  ナル  $x$  ノ第二ノ値ニ對シテ  $x'-x_0$  ナル差ヲ  $\Delta x$  トスルト,

$$x' = x_0 + \Delta x.$$

函数  $y$  ハ  $y_0$  ヨリ變ジテ

$$(3) \quad y' = f(x')$$

トナリ,

$$y' - y_0 = \Delta y, \quad y' = y_0 + \Delta y$$

ナル増加ヲ受ク. (3) ヨリ

$$(4) \quad y_0 + \Delta y = f(x_0 + \Delta x),$$

此レト (2) トカラ減法ニヨリ:

$$\Delta y = f(x_0 + \Delta x) - f(x_0),$$

ソレヨリ

$$(5) \quad \frac{\Delta y}{\Delta x} = \frac{f(x_0 + \Delta x) - f(x_0)}{\Delta x}$$

微係数ノ定義  $\Delta x$  ガ 0 ニ近ヅクトキ (5) ナル比ノ極限

$$(6) \quad \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta y}{\Delta x} \quad \text{或ハ} \quad \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{f(x_0 + \Delta x) - f(x_0)}{\Delta x}$$

ヲ  $x$  ニ關スル  $y$  ノ微係数ト云ヒ  $D_x y$  ニテ表ハス (之ヲ  $y$  ノ

$D_x$  ト讀ム)

$$(7) \quad \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta y}{\Delta x} = D_x y.$$

上ノ定義デ  $\Delta x$  ハ負或ハ正デアル  $\Delta x$  ガ負ノ側カラ 0  
ニ近ヅイテモ, 正ノ側カラ 0 ニ近ヅイテモ (6) ナル極限ガ同  
ジ値ヲ有スルコトガ必要デアル.

然ルトキハ問題ハ種々ノ函数ノ微係数ヲ計算スルコトデア  
ル.

函数ヲ微分スルト云フノハ其微係数ヲ求メルコトデア  
ル.

微分法ノ解析的手段ノ幾何學的説明ハ函数ノ「グラフ」ノ  
傾斜ヲ求メルノデアル,

2.  $x^n$  ノ微分法  $n$  ハ正ノ整数ナルトキ

$$(8) \quad y = x^n$$

ナル函数ヲ微分スルニハ先  $x = x_0$  ナル任意ノ値ヲ入レ, 函  
数ノ相當スル値  $y_0$  ヲ計算スルノデアル:

$$(9) \quad y_0 = x_0^n.$$

次ニ  $x$  ニ増加  $\Delta x$  ヲ與ヘルト  $y$  ノ相當スル増加  $\Delta y$ :

$$(10) \quad y_0 + \Delta y = (x_0 + \Delta x)^n.$$

此右邊ヲ二項定理デ展開スルト

$$(11) \quad y_0 + \Delta y = x_0^n + nx_0^{n-1}\Delta x + \frac{n(n-1)}{1 \cdot 2} x_0^{n-2}\Delta x^2 + \dots + \Delta x^n$$

(11) カラ (9) ヲ減ジ  $\Delta x$  ニテ除スルト

$$\frac{\Delta y}{\Delta x} = nx_0^{n-1} + \frac{n(n-1)}{1 \cdot 2} x_0^{n-2}\Delta x + \dots + \Delta x^{n-1}$$

$\Delta x$  ガ 0 ニ近ヅクト第二項以下ハ各項ハ 0 ニ近ヅキ從  
テ其和モ 0 ニ近ヅク, ソウシテ右邊ノ初項ハ常數デアル從テ:

$$\lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta y}{\Delta x} = nx_0^{n-1}.$$

$x_0$  ノ下ノ記號ハ  $x_0$  ハ  $\Delta x$  ト共ニ變ゼシコトヲ注意セシ  
メルタメデアツテ終局ノ結果ニハソレヲ除去スルコトガ出來  
ル, 何トナレバ  $x_0$  ハ  $x$  ノ或値デアルカラデアル. ソウシテ  
公式ニヨリ或ハ定理ヲ得, 之ヲ添數ト云フ:

$$(12) \quad D_x x^n = nx^{n-1}.$$

特ニ  $n=1$  ナルトキハ

$$(13) \quad D_x x = 1$$

## 演習

1.  $c$  ガ常數ナルトキハ

$$D_x (cx^n) = ncx^{n-1}$$



ナルコトヲ證明セヨ。

2.  $\sqrt{\quad}$  次ノ函数ノ微係數ヲ求メヨ:

$$x^2, x^3, x^{10}, 7x, -9x^4.$$

3.  $\sqrt{\quad}$   $y = \frac{1}{x^2}$  ヲ微分セヨ。 答  $-\frac{2}{x^3}$ .

4.  $\sqrt{\quad}$   $u = t^2 - t$  ヲ微分セヨ。  $t-1$

3. 常數ノ微係數  $f(x)$  ガ常數:

$$y = f(x) = c$$

デアルト函数ノ圖ハ  $x$  ノ軸ニ平行デ、傾ハ 0 デアル。故

ニ

$$(14) \quad D_x c = 0.$$

此結果ヲ解析的ニ導クコトガ利益ニナル。

$$y_0 = f(x_0) = c$$

カラ

$$y_0 + \Delta y = f(x_0 + \Delta x) = c,$$

ソレヨリ

$$\Delta y = 0 \quad \text{及ビ} \quad \frac{\Delta y}{\Delta x} = 0$$

$\Delta x$  ガ其極限トシテ 0 ニ近ヅクトセバ  $\Delta y/\Delta x$  ナル變量ノ値ハ常ニ 0 デアルカラ極限モ 0 デアル。

$$\lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta y}{\Delta x} = 0 \quad \text{或ハ} \quad D_x c = 0.$$

#### 4. 微分法ノ一般ノ公式.

[定理 I] 常數ト一函数トノ積ノ微係數ハ其函数ノ微係數ト其常數ノ積ニ等シ.

$$(I) \quad D_x(cu) = c D_x u.$$

何トナレバ

$$y = cu$$

トセバ

$$y_0 = cu_0,$$

$$y_0 + \Delta y = c(u_0 + \Delta u)$$

デアルカラ

$$\Delta y = c \Delta u$$

從テ

$$\frac{\Delta y}{\Delta x} = c \frac{\Delta u}{\Delta x}$$

ソウシテ

$$\lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta y}{\Delta x} = \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \left( c \frac{\Delta u}{\Delta x} \right).$$

左邊ノ極限ハ  $D_x y$  デ右邊ノ極限ハ  $c D_x u$  ナリ (此點ノ嚴密ナル證明ハ第 5 款ニアリ).

[定理 II] 二ツノ函数ノ和ノ微係數ハ各微係數ノ和ニ等シ.

$$(II) \quad D_x(u+v) = D_x u + D_x v$$

ナリ何トナレバ

$$y = u + v$$

トセヨ。然ルトキハ

$$y_0 = u_0 + v_0$$

$$y_0 + \Delta y = u_0 + \Delta u + v_0 + \Delta v,$$

即チ

$$\Delta y = \Delta u + \Delta v$$

$$\frac{\Delta y}{\Delta x} = \frac{\Delta u}{\Delta x} + \frac{\Delta v}{\Delta x}$$

$\Delta x$  が 0 に近づく = 従ヒ右邊ノ第一項ハ  $D_x u$ , 第二項ハ  $D_x v$  = 近づくカラ右邊ノ全部ハ  $D_x u + D_x v$  = 近づく。(注意シタル厳密ナル證明ハ第5款ニアリ)

$$\lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta y}{\Delta x} = \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \left( \frac{\Delta u}{\Delta x} + \frac{\Delta v}{\Delta x} \right) = \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta u}{\Delta x} + \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta v}{\Delta x}$$

故ニ

$$D_x y = D_x u + D_x v.$$

[系] 三ツノ函数ノ和ヲ有スルトキハ

$$u + v + w = u + (v + w)$$

$$D_x (u + v + w) = D_x u + D_x (v + w)$$

$$= D_x u + D_x v + D_x w$$

次ニ同様ニ四項ノ和, 次ニ五項ノ ..... 和ノ場合ヲ論ズルコトガ出来ル。定理ノ證明ヲ直チニ  $n$  個ノ函数ノ場合ニ

擴張スルコトガ出来ル。

多項式 多項式ヲ微分スルコトガ出来ル。例ヘバ

$$D_x (7x^4 - 5x^3 + x + 2)$$

$$= D_x (7x^4) + D_x (-5x^3) + D_x x + D_x 2$$

$$= 7 D_x x^4 - 5 D_x x^3 + 1 = 28x^3 - 15x^2 + 1.$$

### 演習

次ノ函数ヲ微分セヨ:

1.  $5x^5 - 8x^4 + 7x^3 - x + 1.$

3.  $\pi x^3 - 4 \frac{3}{4} x^2 - \sqrt{2}$

2.  $\frac{8x^7 - 6x + 5}{9}$

4.  $\frac{ax^2 + 2bx + b}{2c}$

5. 微分セヨ.

(a)  $v_0 t - 16 t^2$ ,  $t$  = 關シテ.

(b)  $a + ls + cs^2$ ,  $s$  = 關シテ.

(c)  $0.01 l y^4 - 8.15 m y^2 - 0.9 l m$ ,  $y$  = 關シテ.

6. 曲線

$$4y = x^4 - 8x - 1$$

ノ點  $(1, -2)$  = 於テ傾度ヲ求メヨ.

7. 二ツノ曲線  $y = x^2$  ト  $y = x^3$  トガ如何ナル角ヲナス

カ.

$$(x, y_1)$$

答  $0^\circ$  及  $807'$ .

$$Y - y_1 = 2x(X - x_1)$$

$$Y - y_1 = 3x(X - x_1)$$

$$\tan \theta = \frac{2x - 3x}{1 + 6x^2}$$

## 5. 極限ニ就テノ三ツノ定理.

[定理 A] 二ツノ變數ノ和ノ極限ハ各極限ノ和ニ等シ.

$$\lim(x+y) = \lim x + \lim y.$$

今  $\lim x = A, \lim y = B$  トセヨ. 又  $x-A=\varepsilon$  即チ  $x=A+\varepsilon$  トセヨ.

( $x$ ガ  $A$  ヨリ小ナルトキハ  $\varepsilon$ ハ負ノ數).  $\lim \varepsilon = 0$  デアラウ.

同様に

$$y-B=\eta, \text{ 即チ } y=B+\eta, \lim \eta = 0 \text{ デアラウ.}$$

今

$$x+y = A+B+\varepsilon+\eta.$$

此右邊ノ極限ハ  $A+B$  ナルカラ

$$\lim(x+y) = A+B \quad q. e. d.$$

[系]  $n$  個ノ變數ノ和ノ極限ハ各變數ノ極限ノ和ニ等シ, 但シ  $n$ ハ有限ナル.

$$\lim(x_1+x_2+\dots+x_n) = \lim x_1 + \lim x_2 + \dots + \lim x_n$$

[定理 B] 積ノ極限ハ各數ノ極限ノ積ニ等シ.

$$\lim(xy) = (\lim x)(\lim y),$$

何トナレバ

$$\begin{aligned} xy &= (A+\varepsilon)(B+\eta) \\ &= AB + \varepsilon B + A\eta + \varepsilon\eta, \end{aligned}$$

定理 Aノ系ニ依リテ左邊ノ極限ハ

$$AB + \lim(A\eta) + \lim(B\varepsilon) + \lim(\varepsilon\eta)$$

ニ等シイ. 此最後ノ項ハ 0 デアル. 其前ノ二ツノ項ハ 0ニ近ヅク變數 (例ヘバ  $\eta$ ) ト常數 (例ヘバ  $A$ ) ノ積デアアルカラ, 0ニ近ヅクモシ都合悪ルク常數ガ非常ニ大デ, 100000000 デアルナラバ, 變數ガ非常ニ減少シ  $10^{-7} = \frac{1}{100000000}$  ヨリ小サキ數値ヲ持タセルト積ハ 1 ヨリ小サクナリ, 變數ヲ十分小サクスルト積ハ  $\frac{1}{10}, \frac{1}{100}, \frac{1}{1000}, \dots$  ヨリ小サクナル, 故ニ此等ノ積ノ極限ハ 0 ナリ.

前ノ式ニ於ケル第二項以下ノ各極限ハ 0 デアルカラ

$$\lim(xy) = AB. \quad q. e. d.$$

特ニ變數ト常數トノ積ノ極限ハ變數ノ極限ニ常數ヲ乘ジタルモノニ等シ.

何トナレバ常數ハ變數ノ特別ノ場合デアアルカラデアアル.

[定理 C] 二ツノ變數ノ商ノ極限ハ二ツノ變數ノ極限ノ商ニ等シ, 但シ分母トナル變數ノ極限ハ 0 ナラザルモノト假定ス:

$$\lim \frac{X}{Y} = \frac{\lim X}{\lim Y} \quad \text{但シ } \lim Y \neq 0.$$

$$\text{何トナレバ } \frac{X}{Y} - \frac{A}{B} = \frac{A+\varepsilon}{B+\eta} - \frac{A}{B} = \frac{B\varepsilon - A\eta}{B(B+\eta)}$$

$$\text{デアアルカラ } \frac{X}{Y} = \frac{A}{B} + \frac{B\varepsilon - A\eta}{B^2} \frac{1}{1 + \frac{\eta}{B}}.$$

此最後ノ項ノ第一ノ分數ノ極限ハ定理 A, Bニ依ツテ

0 デアル, 第二ノ分数ハ  $\eta$  ガ負數デアツテ、結局正デ、2 ヨリモ小サイ。何トナレバ  $\lim \eta = 0$ , デアルカラ  $\eta/B$  ハ結局  $-\frac{1}{2}$  ヨリ大イカラデアル:

$$-\frac{1}{2} < \frac{\eta}{B}, \quad \frac{1}{2} < 1 + \frac{\eta}{B}, \quad \frac{1}{1 + \frac{\eta}{B}} < 2.$$

ソレカラシテ最後ノ項ノ絶対値ハ第一ノ因數ノ2倍ヨリハ小サイ, ソウシテ其項ノ極限ハ0ナリ。

$$\therefore \lim \frac{X}{Y} = \frac{A}{B}.$$

特別ニ一變數ガ極限トシテ1ヲ有スルトキニハ其逆數ノ極限ハ又1デアアル:

$$\lim X = 1 \quad \text{ナルトキ} \quad \lim \frac{1}{X} = 1.$$

[注意]  $y$  ナル分母ガ其極限トシテ0ニ近ヅクトキニハ分母ノ極限ニ就テ一般ノ推論ハ出来ナイコトハ次ノ例デワカル。  $y$  ハ次ノ値ヲ取ルトセヨ:

$$y = \frac{1}{10}, \quad \frac{1}{100}, \quad \frac{1}{1000}, \dots, \frac{1}{10^n}, \dots$$

(1)  $X$  ノ相當スル値ガ次ノヤウデアルトセヨ:

$$X = \frac{1}{10^2}, \quad \frac{1}{100^2}, \quad \frac{1}{1000^2}, \dots, \frac{1}{10^{2n}}, \dots$$

$$\text{ソノトキニハ} \quad \lim \frac{X}{Y} = \lim \frac{1}{10^n} = 0.$$

$$(2) \text{ 若シ } X = \frac{1}{\sqrt{10}}, \quad \frac{1}{\sqrt{100}}, \quad \frac{1}{\sqrt{1000}}, \dots, \frac{1}{10^{\frac{n}{2}}}, \dots$$

デアルトキハ  $X/Y = 10^n$  ハ一ツノ極限ヲ有シナイデ、スベテノ數ヨリモ大キクナル。

$$(3) \text{ 若シ } X = \frac{c}{10}, \quad \frac{c}{100}, \quad \frac{c}{1000}, \dots, \frac{c}{10^n}, \dots \text{ デアルト}$$

セヨ, モシ  $c$  ガ任意ニ選バレタ一定ノ數デアルトセバ

$$\lim \frac{X}{Y} = c$$

$$(4) \text{ 若シ } X = \frac{1}{10}, \quad -\frac{1}{100}, \quad \frac{1}{1000}, \quad -\frac{1}{10000}, \dots$$

ダトスルト  $X/Y$  ハ交リ々々  $+1$  ト  $-1$  ナル値ヲ取ル, 從テ有限デアアルケレドモ一ツノ極限ヲ有シナイ。

之ヲ結論スルト  $X, Y$  ガ二ツトモ其極限ガ0デアルト, 其比ハドンナカノ或極限ニ近ヅキ得ルコトアリ, 絶対値ハ如何ナル數ヨリモ大トナルコトアリ, 又有限デアアルガーツノ極限ニ近ヅクコトガ出来ナイコトガアル。

無限大  $\lim X = A \neq 0, \lim Y = 0$  デアルトキ  $X/Y$  ハ絶対値ガスベテノ數ヨリモ大ナルコトアリ即チ無限大トナル。  $Z$  ナル變數ガドンナニ大キナ數ヨリモ尙大キクナルナラバ  $Z$  ハ無限大トナルト云フ。若シ  $Z$  ノ取ル値ガ唯正量ノミナラバ正ナル無限大ト云ヒ, 負量ノミナラバ負ナル無限大ト云フ。

此後次ノ記法ヲ用ウ:

$$\lim Z = \infty \quad \text{或ハ} \quad \lim Z = +\infty, \quad \lim Z = -\infty$$

シカシ此記法ハ無限大ガ極限デアノ意ヲ含マナイ。實ニ此場合ニハ變數ハ極限ヲ有シナイノデア。コレヲZハ無限大ニ近ヅクトカ、無限大ニ等シト讀ンデハナラナイ、Zハ無限大トナルト讀ムノガヨロシイ。

例ヘバ函数ノ「グラフ」ガ或點ニ於テ縦軸ニ平行ナル切線ヲ有スルトキニハ其點ニ於テ

$$\lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta y}{\Delta x} = \infty,$$

之ヲ  $\Delta x$  ガ0ニ近ヅクトキ  $\Delta y/\Delta x$  ハ無限大トナルト讀ム。

或著者ハ變數ハ一ツノ極限ニ近ヅクト云フ語ヲ用ヒルヲ便利デアルトシタ、ソウシテ變數ガ無限大トナル場合ヲ含マセタ。今此イフ語ヲ用ヒナイデ極限ニ近ヅクト云フ語ハ厳格ナ意味ヲ用ヒタ。

若シ  $x$  ガ或値  $a$  ニ近ヅクトキ函数  $f(x)$  ガ無限大トナルトキ 例ヘバ、

$$f(x) = \frac{1}{x}$$

ニ於テ上述ノ  $a$  ガ0デアルトキハ

$$f(a) = \infty$$

ト書イテ之ヲ表ハス (或ハ事實ニ注意ヲスル必要ガアルトキニハ  $f(a) = +\infty$  或ハ  $f(a) = -\infty$  ト書ク)。

連続函数ノ定義 第一編ニ與ヘタ定義ヲ比較的明了ニ表ハスト  $x=a$  ノ點デ

$$\lim_{x \rightarrow a} f(x) = f(a)$$

デアルト  $f(x)$  ハ連続的デアルトイフ。

次ノ演習 1-3 デ多項式ハ  $x$  ノスベテノ點デ連續デアリ分數モ分母ガ消失スルホカ連續デアルコトガワカル。

### 演習

1.  $n$  ガ正ノ整数デアルト

$$\lim (X^n) = (\lim X)^n.$$

デアルコトヲ證明セヨ。

2.  $G(x) = C_0 + C_1x + C_2x^2 + \dots + C_nx^n$  デアルト

$$\lim_{x \rightarrow a} G(x) = G(a) = C_0 + C_1a + C_2a^2 + \dots + C_na^n.$$

3.  $G(x)$  ト  $F(x)$  トガ二ツトモ多項式デアツテ  $F(a) \neq 0$  ナラバ

$$\lim_{x \rightarrow a} \frac{G(x)}{F(x)} = \frac{G(a)}{F(a)}$$

4.  $X$  ガ有限デ、 $Y$  ガ其極限0ニ近ヅクト

$$\lim (XY) = 0.$$

5.  $\lim_{x \rightarrow \infty} \frac{x^2+1}{3x^2+2x-1} = \frac{1}{3}$

$$\lim_{x \rightarrow \infty} \frac{x^2+1}{3x^2+2x-1} = \frac{1}{3}$$

デアルコトヲ證明セヨ。

Handwritten notes and calculations for problem 5:

$\lim_{x \rightarrow \infty} \frac{x^2+1}{3x^2+2x-1} = \frac{1}{3}$

Dividing numerator and denominator by  $x^2$ :

$$\lim_{x \rightarrow \infty} \frac{1 + \frac{1}{x^2}}{3 + \frac{2}{x} - \frac{1}{x^2}} = \frac{1}{3}$$

As  $x \rightarrow \infty$ ,  $\frac{1}{x^2} \rightarrow 0$  and  $\frac{2}{x} \rightarrow 0$ .

[暗示]  $x^2$  を分母分子で除せ.

6. 次の極限を算せよ.

$$(a) \lim_{x \rightarrow \infty} \frac{x+1}{x^3-7x+3} \quad (d) \lim_{x \rightarrow 0} \frac{ax+b^{-1}x}{cx+dx^{-1}}$$

$$(b) \lim_{x \rightarrow \infty} \frac{12x^6+5}{4x^6+3x^4+7x^2-1} \quad (e) \lim_{x \rightarrow \infty} \frac{\sqrt{1+x^2}}{2}$$

$$(c) \lim_{x \rightarrow \infty} \frac{ax+bx^{-1}}{cx+dx^{-1}} \quad (f) \lim_{x \rightarrow \infty} \frac{x}{\sqrt{1+x^4}}$$

6. 微分法ノ一般ノ公式 終り.

[定理 III] 積ノ微係數ハ次ノ公式デ與ヘラレル:

$$(III) \quad D_x(uv) = uD_xv + vD_xu.$$

何トナレバ

$$y = uv$$

トセバ

$$y_0 = u_0v_0,$$

$$y_0 + \Delta y = (u_0 + \Delta u)(v_0 + \Delta v),$$

$$\Delta y = u_0\Delta v + v_0\Delta u + \Delta u\Delta v,$$

$$\frac{\Delta y}{\Delta x} = u_0 \frac{\Delta v}{\Delta x} + v_0 \frac{\Delta u}{\Delta x} + \Delta u \frac{\Delta v}{\Delta x}.$$

第 5 款ノ定理 A = 依リ

$$\lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta y}{\Delta x} = \lim_{\Delta x \rightarrow 0} u_0 \frac{\Delta v}{\Delta x} + \lim_{\Delta x \rightarrow 0} v_0 \frac{\Delta u}{\Delta x} + \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \left( \Delta u \frac{\Delta v}{\Delta x} \right).$$

同款ノ定理 B = 依リテ

最後ノ極限ハ,  $\lim \Delta u = 0$ ,  $\lim (\Delta v / \Delta x) = D_x v$  デアルカラ, 0

デアル. 初メノ二ツノ極限ハ夫々  $u_0 D_x v$ ,  $v_0 D_x u$  デアル. ソレカラ下ニ記シタル記號ヲ取りテ:

$$D_x y = u D_x v + v D_x u. \quad q. e. d.$$

但シ嚴格ニ云フト下ニ記シタル記號ヲ取ルマヘニ一度  $[D_x v]_{x=x_0}$  トスルノガヨロシイ, 定理 I, II モ同様デアル.

上ノ定理ヲ繰リ返ヘシテ用フルト若干個ノ函數ノ積ニ擴張スルコトガ出來ル. ニツ以上ノ函數ガアルト, 次ノヤウニ書クノガ便利デアル, 即チ

$$(15) \quad \frac{D_x(uvw)}{uvw} = \frac{D_x u}{u} + \frac{D_x v}{v} + \frac{D_x w}{w}.$$

之レヲ  $uvw$  ノ對數微係數ト云フ其理由ハ後ニ説ク.

[定理 IV] 商ノ微係數ハ次ノ公式デ與ヘラレル:

$$(IV) \quad D_x \left( \frac{u}{v} \right) = \frac{v D_x u - u D_x v}{v^2}. \quad (\text{之レヲ分母ト分子ノ微係數トヲ乗ジ, ソレカラ分子ト分母ノ微係數トヲ乗ジタルモノヲ減ジ, ソレヲ分母ノ平方ニテ除スト云フ語ニテ云ヒ表ストセバ此定理ヲ記憶スルニ便利デアル}).$$

何トナレバ  $y = \frac{u}{v}$  トセバ

$$y_0 = \frac{u_0}{v_0}, \quad y_0 + \Delta y = \frac{u_0 + \Delta u}{v_0 + \Delta v},$$

$$\Delta y = \frac{u_0 + \Delta u}{v_0 + \Delta v} - \frac{u_0}{v_0}$$

$$\frac{\Delta y}{\Delta x} = \frac{v_0 \frac{\Delta u}{\Delta x} - u_0 \frac{\Delta v}{\Delta x}}{v_0(v_0 + \Delta v)}$$

第5条ノ定理 C カラ

$$\lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta y}{\Delta x} = \frac{\lim_{\Delta x \rightarrow 0} (v_0 \frac{\Delta u}{\Delta x} - u_0 \frac{\Delta v}{\Delta x})}{\lim_{\Delta x \rightarrow 0} [v_0(v_0 + \Delta v)]}$$

第5条ノ定理 A, B ヲ適用シ, 最後ニ下ノ記號ヲ取ルト

$$D_x y = \frac{v D_x u - u D_x v}{v^2}$$

[例]

$$y = \frac{ax+b}{cx+d}$$

トセバ  $D_x y = \frac{(cx+d)a - (ax+b)c}{(cx+d)^2} = \frac{ad-bc}{(cx+d)^2}$

[定理 V] u が y ノ函数デアリ, ソウシテ y が x ノ函数デアラナラバ:

即  $u = f(y), y = \phi(x)$  ナルトキ

$$(V) \quad D_x f(y) = D_y f(y) D_x y$$

或ハ

$$(V') \quad D_x u = D_y u \cdot D_x y$$

何トナレバ

$$y_0 = \phi(x_0), \quad u_0 = f(y_0), \\ y_0 + \Delta y = \phi(x_0 + \Delta x), \quad u_0 + \Delta u = f(y_0 + \Delta y),$$

$$\Delta u = f(y_0 + \Delta y) - f(y_0),$$

$$\frac{\Delta u}{\Delta x} = \frac{f(y_0 + \Delta y) - f(y_0)}{\Delta y} \cdot \frac{\Delta y}{\Delta x}$$

$\Delta x$  ガ 0 ニ近ヅクトキハ  $\Delta y$  モ亦 0 ニ近ヅクカラ, 右邊ノ極限ハ

$$\left( \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{f(y_0 + \Delta y) - f(y_0)}{\Delta y} \right) \left( \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta y}{\Delta x} \right) = D_y f(y) D_x y,$$

左邊ノ極限ハ  $D_x u$  デアルカラ

$$D_x u = D_y u \cdot D_x y \dots \dots \dots q. e. d.$$

上ノ定理ノ真ナコトハ變數ノ表ハサレル特別ノ文字ニハ關係シナイ. 例ヘハ  $x$  ヲ  $t$  ニ置キ換ヘ,  $y$  ヲ  $x$  ニ置キ換ヘテモヨロシイ. コノヤウニ置キ換ヘタ後右邊ノ第二ノ因數ヲ除スルト次ノ公式ガ出來ル:

$$(V') \quad D_x u = \frac{D_t u}{D_t x}$$

[例]  $u = (ax+b)^n$  トセヨ, 但シ  $n$  ハ正ノ整数ナリ.

今  $y = ax+b$  トスレバ  $u = f(y) = y^n,$

$$D_x u = D_x y^n = D_y y^n \cdot D_x y = n y^{n-1} \cdot a = na (ax+b)^{n-1}.$$

### 演習

次ノ函数ヲ微分セヨ.

1.  $y = \frac{x}{1-x^2}$  . 答  $D_x y = \frac{1+x^2}{(1-x^2)^2}$  .

2.  $y = \frac{1}{1+x^2}$  . 3.  $y = \frac{x^3}{1-x}$  .

4.  $s = \frac{1-t}{1+t}$ .      5.  $y = \frac{x^2}{(1-x)^2}$ .
6.  $y = x(a+bx)^n$       答  $D_x y = [a+(n+1)bx](a+bx)^{n-1}$ .
7.  $y = \frac{1}{x^m}$ , 但シ  $m$  ハ正ノ整数トス.
8.  $y = \frac{1+x+x^2}{x}$ .      9.  $y = \frac{5-x^3+5x^5}{x^3}$ .

10. 公式 (12) ハ  $n$  ガ負ノ整数デアルトキ用キラルルコトヲ證明セヨ.

次ノモノヲ微分セヨ:

11.  $(t+3)(2-t)$ .      15.  $\frac{z^2+a}{z+a}$ .
12.  $(a-x)^3$ .      16.  $(a+bx+cx^2)^n$ .
13.  $y = \frac{1-3x-x^3}{9}$ .      17.  $\frac{1}{(1-x^2)^3}$ .
14.  $\frac{s}{(2s+3)^2}$ .      18.  $x = \frac{3y-1}{y}$ .
19.  $(1, 1)$  ニ於テ  $y = \frac{1}{x}$  ナル曲線ノ傾度ヲ求メヨ.
20.  $x=0, y = \frac{1}{10}$  ナル點ニ於テ

$$240 y = (1-x)(2-x)(3-x)(4-x)$$

ナル曲線ノ傾度ヲ求メヨ.

答  $-\frac{5}{24}$

7. 根式ノ微分. 今

$$y = \sqrt{x}$$

ヲ微分スルトセヨ.

$$y_0 = \sqrt{x_0}, \quad y_0 + \Delta y = \sqrt{x_0 + \Delta x},$$

$$\frac{\Delta y}{\Delta x} = \frac{\sqrt{x_0 + \Delta x} - \sqrt{x_0}}{\Delta x}.$$

$\Delta x$  ガ 0 ニ近ヅクトキ右邊ガ如何ナル極限ニ近ヅクカヲ知ルコトガ出來ナイ, 何トナレバ分母, 分子ガ何レモ 0 ニ近ヅキ  $\frac{0}{0}$  ハーツノ意味ヲ有セスカラデアル, (第 5 款ヲ比較セヨ). 然レドモ代數學ノ初歩ニ依リ分子ヲ有理化スレバ:

$$\begin{aligned} \frac{\Delta y}{\Delta x} &= \frac{\sqrt{x_0 + \Delta x} - \sqrt{x_0}}{\Delta x} \cdot \frac{\sqrt{x_0 + \Delta x} + \sqrt{x_0}}{\sqrt{x_0 + \Delta x} + \sqrt{x_0}} \\ &= \frac{1}{\Delta x} \cdot \frac{\Delta x}{\sqrt{x_0 + \Delta x} + \sqrt{x_0}} = \frac{1}{\sqrt{x_0 + \Delta x} + \sqrt{x_0}} \end{aligned}$$

ソレカラ

$$\lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta y}{\Delta x} = \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{1}{\sqrt{x_0 + \Delta x} + \sqrt{x_0}} = \frac{1}{2\sqrt{x_0}}$$

$x$  ノ下ノ指數ヲ取リテ

$$(16) \quad D_x \sqrt{x} = \frac{1}{2\sqrt{x}}.$$

今種々ノ函數ヲ微分スルデアラウ.

[例]  $y = \sqrt{a^2 - x^2}$  ヲ微分スルコト.

新變數ヲ入レヨ

$$z = a^2 - x^2$$

定理 V ヲ用ヒヨ



$$y = \sqrt{z}$$

$$D_x y = D_x \sqrt{z} = D_z \sqrt{z} \cdot D_x z = \frac{1}{2\sqrt{z}} \cdot (-2x) = \frac{-x}{\sqrt{a^2 - x^2}}$$

$$\therefore D_x \sqrt{a^2 - x^2} = \frac{-x}{\sqrt{a^2 - x^2}}$$

## 演習

次ノ函数ヲ微分セヨ.

1.  $y = \sqrt{a^2 + x^2}$

6.  $y = \frac{1}{\sqrt{x}}$  答  $-\frac{1}{2x^{\frac{3}{2}}}$

2.  $u = \sqrt{a+x} + \sqrt{a-x}$

7.  $\frac{1}{\sqrt{a^2 - x^2}}$

3.  $y = x\sqrt{1-x}$

8.  $y = \sqrt{2mx}$

4.  $u = x^3\sqrt{a^2 + x^2}$

9.  $\frac{x+1}{\sqrt{x}}$

5.  $\frac{x}{\sqrt{1-x^2}}$  答  $\frac{1}{(1-x^2)^{\frac{3}{2}}}$

10.  $\sqrt{\frac{1-x}{1+x}}$

8. 續キ:  $n$  ガ分数デアル  $x^n$ .

分数指数ノ法則.  $n = p/q$  ニ於テ  $p$  ト  $q$  トハ互ニ素ナリトシ,  $n$  ノ正量ニ於テ

$$(17) \quad y = x^n = x^{\frac{p}{q}}$$

ナル函数ヲ論ズルコトトシヤウ.  $q$  ガ奇数デアルト函数ハ唯一ツノ値ヲ表ハシ, 偶数デアルト (17) ノ函数ハ  $\pm(\sqrt[q]{x^p})$  ノヤ

ウニ二重ノ根ヲ有ス. シカシコレハ無益デアツテ習慣上 (17) ナル記法ハ正根ヲ意味スルモノト定メラレル;

$$x^{\frac{p}{q}} = (\sqrt[q]{x})^p.$$

モシ  $n$  ガ負ノ分数デアルト即チ  $n = -m$  デアルト

$$x^n = \frac{1}{x^m}. \quad \text{マタ} \quad a^0 = 1.$$

代数学初歩ニ於テ

$$(A) \quad \begin{cases} \text{I. } a^m \cdot a^n = a^{m+n}, \\ \text{II. } (a^m)^n = a^{mn}, \\ \text{III. } a^n \cdot b^n = (ab)^n. \end{cases}$$

此法則ハ  $a$  ト  $b$  トガ二ツトモ正数ナルトキ,  $m$  ト  $n$  トガ正或ハ負ノ整或ハ分数デアルトキ除外ナシニ用ヒラレル, ソウシテ 0 ノ場合ヲ含ム.

函数  $x^n$  ノ「グラフ」  $n$  ガ整数デアルトキ  $n = 1, 2, 3, \dots, 10, \dots$  デアルトキハ次圖ニ示サレルトホリデアル. (17) ナル曲線ノ傾度:

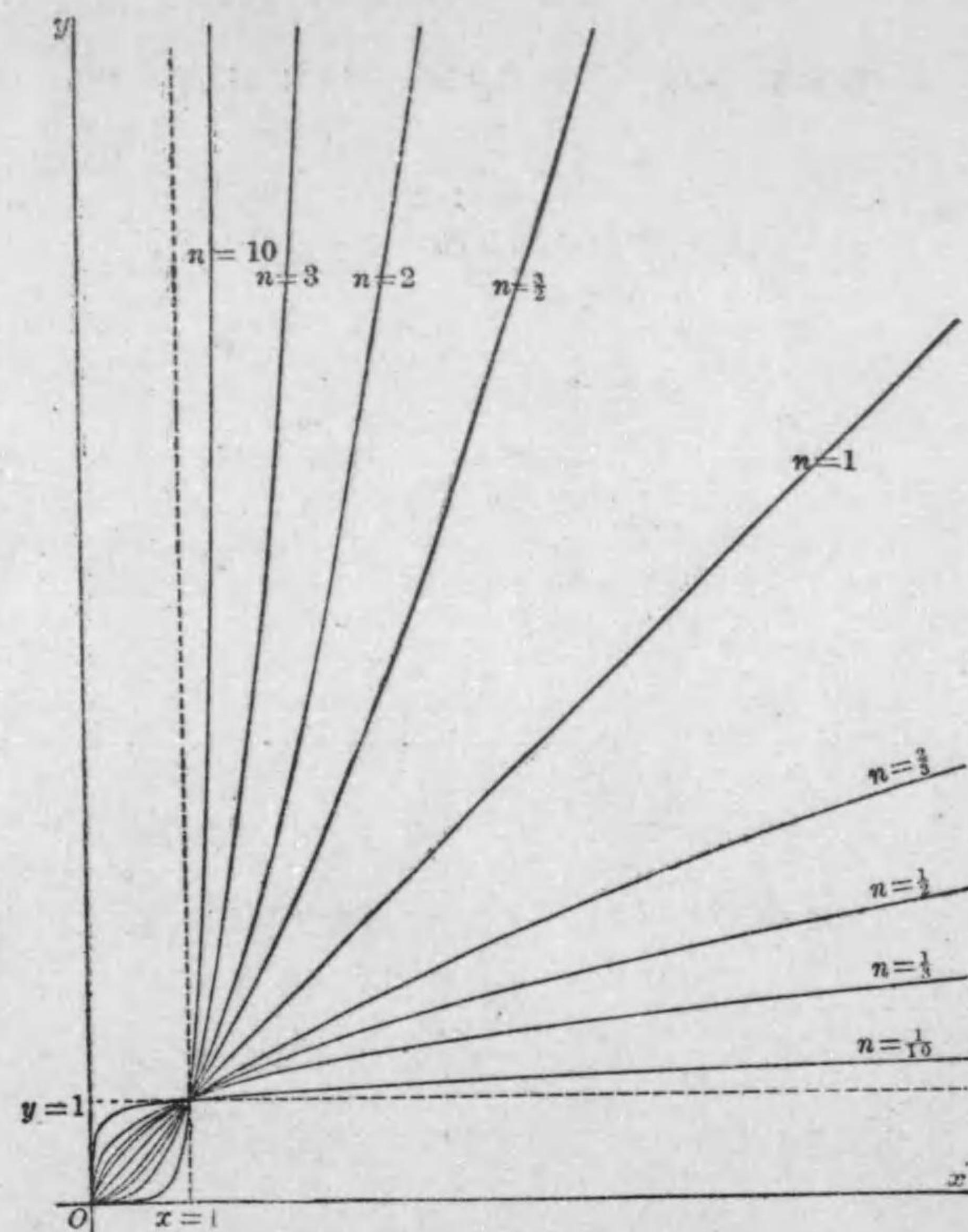
$$\tan \tau = D_x y = n x^{n-1}.$$

ソウシテコレハ正ノ量デ  $n > 1$  デアルトキ  $x$  ガ増加スルニ從ヒ確カニ増加スル.

次ニ  $p = 1, q > 1$  ナル場合ニ

$$(18) \quad y = x^{\frac{1}{q}} \quad \text{或ハ} \quad x = y^q$$

( $q = 2, 3, \dots, 10, \dots$ ) ノヤウナ圖ヲ得.



$n$  が整数デアルト同ジ圖形デアツテ上ノ圖デ  $y$  フ横線、 $x$  フ縦線トスルマデノコトデアル。例ヘバ  $y = x^{\frac{1}{3}}$  ノヤウナ曲線ハ  $y = x^3$  ノヤウナ曲線カラ得ラレル。

此二ツノ曲線ハ縦横二軸ガ正ノ方向ニ於テ成ス角ノ二等分線ニ就キテ對稱トデアル。

$n = p/q$  ナル一般ノ場合ハ本款ノ終リニ示ス。

$x^n$  ノ微係數 先ヅ (18) ナル曲線ノ傾度ヲ見出ソウ。  $\sigma$  ガ

切線ト  $y$  軸トノ間ノ角ヲ表ハセバ

$$\tan \sigma = D_y x = q y^{q-1}.$$

今  $\sigma$  ガ  $\tau$  ノ餘角デアルカラ

$$\tan \tau = \frac{1}{\tan \sigma},$$

ソレカラ

$$D_x y = \frac{1}{q y^{q-1}} = \frac{1}{q} y^{1-q},$$

コレハ

$$D_x y = \frac{1}{D_y x}$$

ナル關係ト等値ナリ。次ノヤウニ此關係ノ證明ヲ與ヘルコトガ出來ル：

$$y = f(x)$$

ノ逆函數

$$x = \varphi(y)$$

ガ微係數ヲ論ジツ、アル  $(x_0, y_0)$  ナル點ノ近所デ單值的ナルトキ、 $\varphi(x)$  ハ  $x$  ノ連續函數デアルトキ

$$\frac{\Delta y}{\Delta x} = \frac{1}{\frac{\Delta x}{\Delta y}}$$

デアルカラ、 $\lim \Delta x / \Delta y \neq 0$  ナラバ

$$\lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta y}{\Delta x} = \frac{1}{\lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta x}{\Delta y}} \quad \text{或ハ} \quad D_x y = \frac{1}{D_y x}$$

$y$  ヲ其値  $x^{\frac{1}{q}}$  ニ買キ替ヘルトキハ

$$y^{1-q} = \left(x^{\frac{1}{q}}\right)^{1-q} = x^{\frac{1-q}{q}} = x^{\frac{1}{q}-1}$$

従ツテ

$$(19) \quad D_x x^{\frac{1}{q}} = \frac{1}{q} x^{\frac{1}{q}-1}$$

コレハ  $n=1/q$  ナルトキデモ (12) ハ正シキコトヲ示ス。

今一般ノ場合ニ移ル:

$$y = x^{\frac{p}{q}}$$

$z = x^{\frac{1}{q}}, y = z^p$  トスルト第5款定理 V ト上ノ (19) トラカ

$$D_x y = D_x z^p = D_z z^p \cdot D_x z = p z^{p-1} \cdot \frac{1}{q} x^{\frac{1}{q}-1},$$

$$z^{p-1} = \left(x^{\frac{1}{q}}\right)^{p-1} = x^{\frac{p-1}{q}},$$

ソレカラ

$$D_x y = \frac{p}{q} x^{\frac{p-1}{q}} x^{\frac{1}{q}-1} = \frac{p}{q} x^{\frac{p}{q}-1},$$

従テ  $n$  ガ正ノ整数、分数ナルトキ

$$D_x x^n = n x^{n-1}.$$

$n$  ガ負數ノ整数或ハ分数ナルトキ:  $n = -m$  ナルトキ

$$x^n = \frac{1}{x^m}$$

ナリ。従テ  $x^n$  ハ第5款ノ定理 IV ノ助ケテ

$$D_x \frac{1}{x^m} = \frac{x^m \cdot 0 - m x^{m-1}}{x^{2m}} = -m x^{-m-1},$$

或ハ  $D_x x^n = n x^{n-1}.$

従テ公式 (12) ハ  $n$  ガ有理數ナルトキ正シキコトヲ知ル。

然ルトキハ  $n$  ガ無理數ナルトキ正シキコトヲ後ニ示ソウ。

$n = \frac{1}{2}$  ナルトキ (16) ト一致スル次ノ公式ヲ得:

$$x^{\frac{1}{2}} = \sqrt{x}, \quad D_x x^{\frac{1}{2}} = \frac{1}{2} x^{-\frac{1}{2}} = \frac{1}{2\sqrt{x}}.$$

[例]

$$y = \sqrt[3]{a^2 - x^2}$$

ヲ微分スルトセヨ。

$$z = a^2 - x^2$$

トセバ

$$y = z^{\frac{1}{3}}$$

$$D_x y = D_x z^{\frac{1}{3}} = D_z z^{\frac{1}{3}} \cdot D_x z = \frac{1}{3} z^{-\frac{2}{3}} (-2x) = \frac{-2x}{3(\sqrt[3]{a^2 - x^2})^2}$$

$x^n$  ノ不等式  $n$  ガ正ノ整数デアルト

$$I \begin{cases} x > 1 & \text{ナルトキハ} & x^n > 1, \\ 0 \leq x < 1 & \text{ナルトキハ} & x^n < 1. \end{cases}$$

$n = \frac{1}{q}$  ガ正ノ分数デアルトキ正シ、何トナレバ  $x > 1$  デアル

トキ

$$y = x^{\frac{1}{q}} < 1$$

トセバ, Iニ依ツテ  $y' < 1$

然ルニ  $y' = x$ ,  $x < 1$ ハ假定ニ反スルカラデアアル. 同様ニ  
 $n = \frac{1}{q}$ ナルトキ Iノ第二關係モ亦真ナリ.

終リニ  $n = p/q$ ガ或正ノ分數デアルトキニモ真デアアルコ  
 トヲ證明セン.

何トナレバ

$$x^{\frac{p}{q}} = (x^{\frac{1}{q}})^p,$$

モシ  $x > 1$ デアルトキハ

$$x^{\frac{1}{q}} > 1, \text{ソレカラ } (x^{\frac{1}{q}})^p > 1.$$

$x < 1$ デアルトキデモ同様デアアル.

シカシ  $n < 0$ デアルト Iノ各行ノ不等式ハ記號ガ逆ト  
 ナル, 但シ  $x = 0$ ナル場合ヲ除ク. シカシ  $x^n$ ナル函數ハ  
 $x > 0$ ナルトキ常ニ正ナリ.

**[定理]**  $n' > n$ ナルトキ  
 $x^{n'} > x^n$   $x > 1$ ナルトキ  
 $x^{n'} < x^n$   $x < 1$ ナルトキ

$n' = n + h$ トセバ

$$x^{n'} - x^n = x^{n+h} - x^n = x^n(x^h - 1),$$

$h > 0$ デアアルカラ Iナル關係カラ,  $x > 1$ デアルトキ上ノ最  
 後ノ式ハ正ノ數デアアルコト,  $x < 1$ デアルト負ノ數デアアルコ  
 トガワカル. 從テ定理ノ正シキコトガワカル.

$x^n$ ナル函數ノ「グラフ」上ニ定メテ定理カラ  $n$ ノ種々  
 ノ正ナル分數値ニ對シテ  $x^n$ ノ圖ハ前圖ニ示シタ様デアアル.

何レモ原點ト (1, 1)ナル點ヲスギ, 其他ニ交點ヲ有セナ  
 イコトガワカル. 其傾度ハ常ニ正ノ數デ,  $n$ ト  $n' > n$ ニ相  
 應スルニツノ圖ノ内  $x < 1$ ノ場合ニハ後者ハ前者ノ下ニア  
 リテ,  $x > 1$ ノ場合ニハ位置相反スルコトガワカル.

學生ハ  $n < 0$ ナル場合ニハ同ジ様ニ陳述ヲナシ, 同ジ  
 様ニ「グラフ」ヲ引クコトヲ要求セラル. シカシ最後ノ圖ト前  
 ノ圖トヲ混同サセテハナラス. ケレドモ何か必要ガアツタト  
 キ前ノ圖カラ導クヲ要スル. ソウスルト混亂ハ避ケラレ, 前  
 ノ圖ハ永ク目標的ノモノトスルコトガ出來ル. 學生ハ精密ニ  
 自分デ此ノ如キ圖ヲ方眼紙ノ上ニ作ルノガヨロシイ(平方, 立  
 方ノ表ヲ用ヒテ).

## 演習

次ノ函數ヲ微分セヨ.

- $y = 10x^{\frac{2}{3}} - 4x^{-\frac{1}{2}} - 1.$
- $y = x^{\frac{2}{3}} - x^{-\frac{1}{3}} + \pi.$
- $\frac{1+x^2}{\sqrt{x}}.$
- $y = \sqrt[3]{ax^2}.$
- $y = \frac{1-x^{-\frac{1}{2}}}{x^{\frac{1}{3}}}.$
- $y = x\sqrt{2x}.$
- $y = \frac{1}{\sqrt[3]{a^2-x^2}}. \quad D_x y = \frac{2x}{3(a^2-x^2)^{\frac{4}{3}}}.$

$$8. y = x(1-x^2)^{\frac{3}{7}}. \quad 9. 4\sqrt[3]{t} + \frac{3}{\sqrt{t}} - \frac{1}{t}.$$

$$10. (y^2+1)\sqrt{y^3-y}. \quad \text{答} \quad \frac{7y^4-2y^2-1}{2(y^3-y)^{\frac{1}{2}}}.$$

$$11. \sqrt[3]{\frac{1-x}{1+x^2}}. \quad 13. \frac{x^c+x^d}{cd}.$$

$$12. x^a-ax+a. \quad 14. x^{a+b}-x^{a-b}.$$

$$15. \frac{(s^2-a^2)^{\frac{3}{2}}}{s^3}. \quad \text{答} \quad \frac{3a^2\sqrt{s^2-a^2}}{s^4}.$$

$$16. \frac{a-x}{\sqrt{2ax-x^2}}. \quad 17. r = \sqrt{a\theta}.$$

$$18. \frac{\sqrt{a-x} + \sqrt{a+x}}{\sqrt{a-x} - \sqrt{a+x}}. \quad \text{答} \quad \frac{a^2+a\sqrt{a^2-x^2}}{x^2\sqrt{a^2-x^2}}.$$

19.  $x=2$  デアル點ニ於テ  $y=x^{\frac{1}{5}}$  ナル曲線ノ傾度ヲ求メ  
 ヨ. (三ツノ有效數字ヲ有スルマデ) 答  $\tan \tau = 6.115$ .

20.  $pv^{1.4} = C$  デアリトシ  $D_v y$  ヲ求メヨ.

21.  $y\sqrt{x} = 1+x$  デアリトシ  $D_x p$  ヲ求メヨ.

$$\text{答} \quad \frac{x-1}{2x\sqrt{x}}.$$

9. 代数函数ノ微分法  $x$  ト  $y$  トガ

$$x^2+y^2 = a^2$$

$$\text{或ハ} \quad x^3-xy+y^3 = 0$$

$$\text{或ハ} \quad xy \sin y = x+y \log x$$

ノヤウナ關係ヲ結付イテアルトキハ、委シクイヘバ

$$F(x, y) = 0 \quad \text{或ハ} \quad \Phi(x, y) = \Psi(x, y)$$

ナル關係ヲ結付イテアルトキ後ノ場合ニハ  $\Phi, \Psi$  ガ  $y$ , 他ガ  
 $y$  ヲ含マザルトキニ  $y$  ハ  $x$  ノ陰函数デアルト云フ.  $y$  = 就  
 テ解クトキ

$$y = f(x)$$

トナルトキニハ  $y$  ハ  $x$  ノ陽函数デアルト云フ. 例ノ第一ノ  
 方程式ニ於テ  $x$  = 關シテ解セラレタトシテ

$$D_x x^2 + D_x y^2 = D_x a^2,$$

$$\text{從テ} \quad 2x + 2y D_x y = 0$$

$$\therefore D_x y = -\frac{x}{y}.$$

次ニ第二ノ方程式ヲ微分スルト:

$$3x^2 - x D_x y - y + 5y^4 D_x y = 0$$

$$\therefore D_x y = -\frac{3x^2 - y}{5y^4 - x}$$

$F(x, y)$  ガ  $x$  ト  $y$  トニ關シテ多項式デアルト

$$F(x, y) = 0$$

ニテ定メラレタ  $y$  ハ  $x$  ノ代数函数ト唱ヘラレル. 多項式ヤ分  
 數式ハ代数函数デアル. 又次ノヤウニ表ハサレタル根式:

$$y = \sqrt{a^2-x^2} \quad \text{或ハ} \quad y = \sqrt[3]{\frac{1-x}{1+x}} - \sqrt[5]{4-\sqrt{x}}$$

ハ代数函数デアル, 何トナレバ根號ハ除去セラレ, 其結果ハ上

ノ形式ニ移サレルカラデアル。其反對ハ眞ナラズ、何トナレバスベテノ代數方程式ヲ根式ニテ解クコトハ不能デアル。

一般ニ代數函數ハ連續デアアルコトヲ示スコトガ出來ル。

函數ガ衆值的デアルト分枝ノ若干ヨリ成リ各分枝ハ單値デアルト見做サレル。此定理ヲ假定シテ前ノ微分法ニ示セル通り代數函數ノ微係數ヲ求メルコトガ出來ル。

上ノ假定ニ依ツテ第2款ノ公式(12)ノ短キ證明ハ  $n=p/q$ ノ場合ニ與ヘラレル。

$$y = x^{\frac{p}{q}}, \text{ 即チ } y^q = x^p$$

$x$ ニ關シテ兩邊ヲ微分スルト

$$D_x y^q = D_x x^p = p x^{p-1},$$

$$\text{今 } D_x y^q = D_y y^q D_x y = q y^{q-1} D_x y$$

$$\therefore D_x y = \frac{p x^{p-1}}{q y^{q-1}} = \frac{p}{q} \frac{x^{p-1}}{x^{\frac{p}{q}(q-1)}} = \frac{p}{q} x^{\frac{p}{q}-1}.$$

第8款ニ與ヘタ此公式ノ證明ハ上ノ假定ニ屬シナイ完全ノ證明デアル。

## 演習

1. ニツノ仕方デ次ノ式ノ  $y$ ヲ微分シテ、結果ガ一致スルコトヲ示セ、

$$xy + 4y = 3x.$$

2. 次ノ函數ニ就テ上ノヤウニセヨ：

$$y^2 = 2mx.$$

3. 次ノ曲線ニ於テ(2, 1)ノ傾度ヲ示セ：

$$x^4 - 2xy^2 + y^5 = 13. \quad \text{答 10.}$$

4.  $3y = 2x + x^4 y^2$ ,  $2y + 3x + y^5 = x^3 y$ ナル曲線ハ原點ニテ直交スルコトヲ示セ。

## 第三編

## 應用

1. 切線及法線 點  $(x_0, y_0)$  をスギテ傾斜  $\lambda$  を有スル直線ノ方程式ハ

$$y - y_0 = \lambda(x - x_0).$$

同ジ點ヲスギ前ノ直線ニ垂直線ノ方程式ハ

$$y - y_0 = -\frac{1}{\lambda}(x - x_0) \quad \text{或ハ} \quad x - x_0 + \lambda(y - y_0) = 0.$$

$(x_0, y_0)$  を過キル曲線

$$y = f(x) \quad \text{或ハ} \quad F(x, y) = 0$$

ノ傾斜ハ  $[D_x y]_{x=x_0}$  テアルカラ其點ニ於ケル切線ノ方程式ハ

$$(1) \quad y - y_0 = [D_x y]_{x=x_0}(x - x_0)$$

同様ニ法線(即チ切線ニ垂直ナル線)ノ方程式ハ

$$(2) \quad y - y_0 = -\frac{1}{[D_x y]_{x=x_0}}(x - x_0) \quad \text{或ハ} \quad x - x_0 + [D_x y]_{x=x_0}(y - y_0) = 0.$$

[例 I]  $x = \frac{1}{2}, y = \frac{1}{8}$  ナル點ニ於テ  $y = x^3$  ナル曲線ノ切線ノ方程式ヲ作ルコト.

コトニ

$$D_x y = 3x^2, [D_x y]_{x=\frac{1}{2}} = [3x^2]_{x=\frac{1}{2}} = \frac{3}{4}.$$

從テ切線ノ方程式ハ

$$y - \frac{1}{8} = \frac{3}{4}\left(x - \frac{1}{2}\right) \quad \text{式ハ} \quad 3x - 4y - 1 = 0.$$

[例 II] 曲線ガ橢圓

$$\frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1$$

ナリトセヨ.

$$\frac{2x}{a^2} + \frac{2y}{b^2} D_x y = 0, \quad \text{從テ} \quad D_x y = -\frac{b^2 x}{a^2 y}.$$

從テ切線ノ方程式ハ

$$y - y_0 = -\frac{b^2 x_0}{a^2 y_0}(x - x_0).$$

コレハ次ノヤウニ變形サレル.

$$a^2 y_0 y - a^2 y_0^2 = -b^2 x_0 x + b^2 x_0^2,$$

$$b^2 x_0 x + a^2 y_0 y = a^2 y_0^2 + b^2 x_0^2 = a^2 b^2,$$

$$\frac{x_0 x}{a^2} + \frac{y_0 y}{b^2} = 1.$$

## 演習

1. 曲線  $y = x^3 - x$  ノ原點ニ於ケル切線ノ方程式ヲ求メ、次ニ曲線ガ  $x$  ノ正軸ヲ截ル點ニ於ケル切線ノ方程式ヲ求メヨ.

答  $x + y = 0, 2x - y - 2 = 0.$

2. 圓

$$x^2 + y^2 = 4$$

ニ於テ  $(1, \sqrt{3})$  ノ切線ト法線トノ方程式ヲ求メ、ソウシテタ  
ダセ.

3.  $(x_0, y_0)$  ナル點ニ於テ双曲線ノ切線ノ方程式ハ

$$\frac{x_0 x}{a^2} - \frac{y_0 y}{b^2} = 1$$

デアルコトヲ示セ.

4. 原點ニ於テ曲線

$$x^3 + y^3 = a^2(x - y)$$

ニ切線ノ方程式ヲ求メヨ.

答  $x = y$ .

5. 双曲線

$$xy = a^2$$

ニ於ケル、任意ノ點ノ切線ト坐標二軸トテ作ツタ三角形ノ面  
積ハ常數ナルコトヲ示セ.

6. 曲線

$$x^3 = a^3 y^2$$

ト坐標ノ兩軸ガ正ノ方向ニ於テ成ス角ノ二等分線トノ交點ニ  
於ケル切線ト法線ノ方程式ヲ求メヨ. (原點ニ於ケルモノハ  
取除ク).

7. 曲線

$$x^{\frac{2}{3}} + y^{\frac{2}{3}} = a^{\frac{2}{3}}$$

ノ何レノ點ニテモ切線ノ坐標軸ノ間ノ部分ガ常數ナルコトヲ  
表ハセ.

8. 拋物線  $y^2 = 2ax$  ガ曲線

$$x^3 - 3axy + y^3 = 0$$

ヲ原點ト他ノ一點トテ截ル. 此第二ノ點ニ於ケル各曲線ノ切  
線ノ方程式ヲ書キ下セ.

9. 上問ノ二ツノ曲線ハ  $32^\circ 12'$  ノ角テ第二ノ點テ交ル  
コトヲ證明セヨ.

2. 極大、極小.

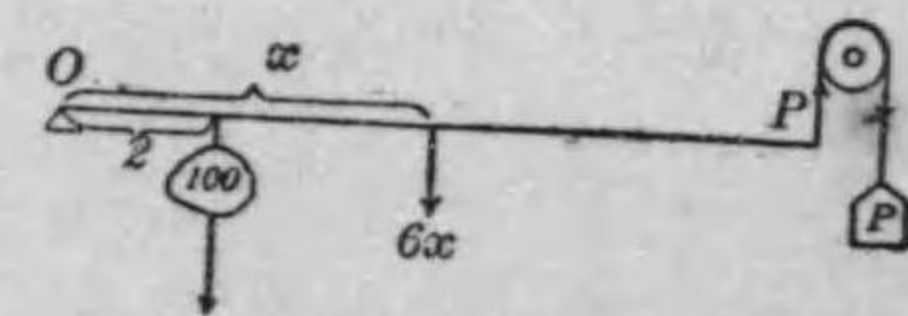
[問題] 槓杆アリ 100「ポンド」ノ重量ヲ持上グルニ支點  
カラ重點マデノ距離ハ 2 尺デ、槓杆ノ重サハ一尺デ 3「ボン  
ド」デアル. 槓杆ニテ動スニ有益ナル長サハ幾何ナルカ.

槓杆ヲ長クスルト其目方ノ増加ノタメニ槓杆ノ利益ヲ減  
少セラレ、持上ゲルタメニ要スル力ハ増大スル.

一方ニハ非常ニ槓杆ヲ短クスルト例ヘバ支點ヨリ 2 尺離  
レルコト、スルト槓杆ノミヲ持上ゲル力ハ少ナクナレドモ槓  
杆ヨリ僅少ノ利益ヲ受ケルコト、ナリ力  $P$  ハ大キクナル. 從  
テ中間ノ長サハ最モ少ナキ  $P$  ヲ與ヘル最有利ナル結果ヲ與へ  
ル.

$x$  ハ槓杆ノ長サノ半ヲ表ハストセバ  $P$  ハ  $x$  ノ函數デア  
ル.

然ルトキハ「グラフ」ヲ想  
像スルコトガ出來ル、ソウシ  
テドコニ  $x$  ノ軸ニ最近ク來ル





カヲ見ルコトガ出來ル。今支點 0 ノ周リニ槓杆ヲ廻轉サセル力ノ能率ハ時針ノ運動ト同ジ方向ニ對シテ

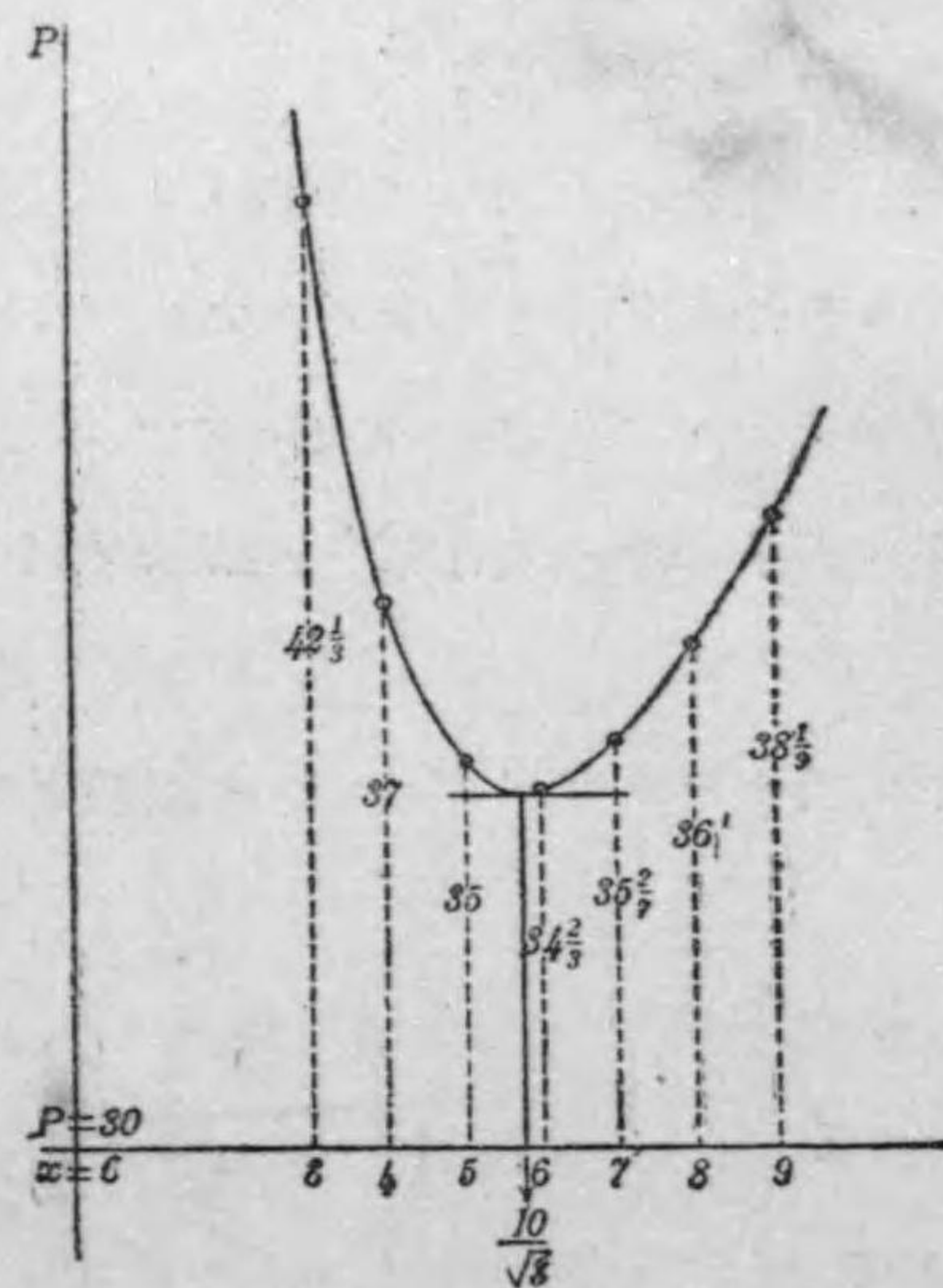
(a)  $100 \times 2 \dots \dots 100$  「ポンド」ノ目方ニ拂フモノ、

(b)  $3 \times 2x \times x \dots$  槓杆ノ目方ニ拂フモノ、

ソレニ依リ其和ハ反對ノ方向ニ於テ P ノ能率ニ等シ、即チ  $P \times 2x =$  等シ。故ニ

$$200 + 6x^2 = 2Px \quad P = \frac{100 + 3x^2}{x}$$

$x$  ノ僅少ノ値ヲ試ミルコト、シ P ノ相當スル値ハ何デア  
ルカヲ求ムルトセン。



$x$	$P$
3	$42\frac{1}{3}$
4	37
5	35
6	$34\frac{2}{3}$
7	$35\frac{2}{3}$
8	$36\frac{1}{3}$
9	$38\frac{1}{3}$

此圖カラ最モヨキ長サハ 5 ト 7 トノ間ノ  $x$  ノ値ニ相當スルコトガワカル。此二ツノ數ノ間ニアル  $x$  ノ十分多クノ値ニ對シテ P ヲ計算スルト欲スル所ノ最モ都合ヨキ値ヲ見出スコトガ出來ルデアラウ。シカシ微分法ノ助ケテ計算ノ煩シサヲ除去シ能ハスカ。函數ノ「グラフ」ヲ見ルト  $x$  ノ値ハ最小サイ縦線ヲ有スル點ヲ求メルノニ歸着シ、而カモ此點ハ切線ガ  $x$  ノ軸ニ平行ナルモノデ、即チ曲線ノ傾度ガ 0 デアル場合デアアル：

$$\tan \tau = D_x P = 0.$$

今  $D_x P$  ヲ計算シ 0 ニ等シト置ケバ

$$D_x P = -\frac{100}{x^2} + 3 = 0$$

$$x^2 = \frac{100}{3}, \quad x = \frac{10}{\sqrt{3}} = 5.77.$$

從テ槓杆ノ最良ナル長サハ  $2x = 11.4$  尺デ、相當スル P ノ値ハ 34.6 「ポンド」デアアル。

[例] 正方形ノ板紙アリ其一邊ハ 4 寸ナリ、其四隅カラ小サイ同大ノ正方形ヲ切り取り其殘リノ部分ヲ折り曲ゲテ箱ヲ作クラウトスル。此仕方デ最大ナル箱ヲ作ルトキハ何程大キイモノガ出來ルカ。

先切取ル正方形ノ一邊ノ長サヲ  $x$  トシ、箱ノ體積ヲ V トシ V ノ「グラフ」ヲ作レバ近似的ニ  $x$  ノ最都合ヨキ値ヲ定メルコトガ出來ル。シカシ微分法ニテ其勞ヲ省クコトガ出來ル。

上ノ例ハ極大極小ノ簡單ナル試ヲ暗示スル。

極大ノ試ミ. 函數

$$y = f(x)$$

ガ  $a < x < b$  ナル間隙ニ連續的デアツテ, 此各端或ハ近クニ於テ有スル値ヨリハ中間ノ一點ニ於テ比較的大キイ値ヲ有スルトキニハ其間隙中ノ一點ニ於テ極大ノ値ヲ有スル

上ノ條件ノ下ニ  $x = x_0$  ノトキ

$$D_x y = 0,$$

モシ方程式ガ上ノ間隙ニ於テ唯一ツノ根ヲ有スルトキニハ此根ハ  $x = x_0$  デアルデアラウ。

極小ニツイテノ試ミモ同様デアル, 上ノ比較的大, 極大ト云フ語ヲ比較的小, 極小ニ變スルマデノコトデアル。

## 演習

- $y = x^2 + 6x + 10$  ノ極小値ヲ問フ. 答 1.
- $x$  ノ正值ニ對シテ  $y = 3x - x^3$  ノ極大ナル場合ヲ問フ.
- $x$  ノ如何ナル値ニ對シテ

$$\frac{12\sqrt{x}}{1+4x}$$

ガ最も大ナル値ヲ有スルカ.

$$\text{答 } x = \frac{1}{4}.$$

4.  $a < x < b$  ナル間隙ノ如何ナル點ニ於テ ( $a$  ハ正ナリトス) 函數

$$\frac{x}{(x-a)(b-x)}$$

ガ最小ナル値ヲ有スルカ 答  $x = \sqrt{ab}$

5. 二等邊三角形ノ等邊ノ長サ6寸デアル. 面積ガ極大ナルタメニ底邊ヲ何程トナスベキカ. 答  $6\sqrt{2} = 8\frac{1}{2}$  寸.

6. 2町歩ノ矩形狀ノ牧場ヲ直線ノ河岸ニ沿ヒテ取ルニ河ノアル側ニハ柵ヲ要セザルモノトス. 出來ル限リ柵ヲ短ク作ルニハ其形ヲ如何ニシテヨロシイカ.

答 長サヲ幅ノ2倍ニ取ル.

3. 續キ, 補助變數 極大極小ノ問題ヲ公式的ニ表ハストシ極大, 極小ヲ求メル其函數ヲ二ツノ變數(一ツノ關係ガアル)ニテ表ハストガ利益ナルコトガ度々アル. 次ノ例ハ之ヲ説明スル.

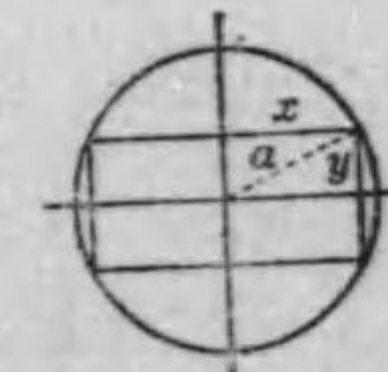
圓ニ内接スル最大ナル矩形ヲ求メルコト.

矩形ノ面積ハ, 高サガ小サクナルトキ, 小サクナリ, 底ガ小サクナルトキ小サクナル.

故ニ面積ハ中間ノ形ヲ有スルト

キニ最大デアル.

$$u = 4xy, \quad x^2 + y^2 = a^2$$



ト云フ方程式カラ  $y$  ヲ驅逐シテ  $u$  ヲ  $x$  ノ函數トシテ表ハセバ  
ヨロシ.

シカシ普通ハ驅逐スルノハヨクナイ此マ、デ微分スルノ  
ガヨロシ.

$$D_x u = 4(y + x D_x y) = 0, \quad 2x + 2y D_x y = 0,$$

故ニ 
$$D_x y = -\frac{x}{y}.$$

此値ヲ第一ノモノニ代入スルト

$$y - \frac{x^2}{y} = 0 \quad \text{或ハ} \quad y = x,$$

即チ正方形デアル

### 演習

1. 100 ガロン入りノ容器ヲ作ルニ底ハ正方形ヲナシ、側ハ  
垂直デアル。内方ハ銅ヲ以テ蓋フニ經濟的ノ容器ノ作り方如  
何。 答 長サト幅トハ高サノ2倍ニスル。

2. 圓柱體ノ最大ナルモノヲ、與ヘラレタ圓錐體ニ内容セ  
ヨ。

3. 圓柱體ヲ與ヘラレタル圓錐體ニ内容センニ、其曲面積ノ  
最大ナルモノ如何。

4. 與ヘラレタル球ニ内容セラレル圓錐體ノ最大ナルモノ  
ヲ求メヨ。

5. 1「バイント」ヲ容ル圓柱體狀ノ「ブリキ」ノ柄杓ヲ經濟  
的ニ作ル法如何。 答  $h = r.$

6. アカ茄子ノ1「クオート」ヲ容レル器ノ製作ニ出來得ラ  
ル、ダケ小サキ「ブリキ」ヲ要スル器ノ作り方如何。

7. 正六邊形ノ錫板ヨリ圓形ノカンノ底ト上部トヲ取ラン  
トス。其残りハ全く不用ニシテ損失ナリ。最良ノ比例(即チ  
經濟的)ノ切り方ハドウスルカ。

8. 「ノルマン」風ノ窓ハ上部ハ半圓形、下部ハ矩形デアル。  
窓ノ周圍ガ與ヘラレテオルト光線ヲ成可ク多ク入レルニハド  
ンナ割合デ作ルベキカ。 答 幅ト高サトヲ等シクス。

9. 梁ノ強サハ幅ニ比例シ、厚サノ立方ニ比例スル。直徑  
ガ1尺ノ丸太カラ強イ梁ヲ作ルニハ如何ニスルカ。

10. 靜水デ汽船ヲ走ラス一時間ノ費用ハ速度ノ立方ニ比  
例スル。4「マイル」ノ流レニ逆ツテ汽船ヲ走ラス經濟的速度  
ヲ問フ。 答 一時間ニ6「マイル」

11. 或人ノ家ノ前ニアル門ハ車道カラ20「ヤード」離レテ  
ヲル。其人ハ毎時4「マイル」ノ速サデ歩行スル。毎時12  
「マイル」ノ速サデ歸リ來ル車ヲドコデ降ルト最早ク家門ニ達  
シ得ラレルカ。 10.15 yard

12. 與ヘラレタ汽船ガ行クニ要スル石炭ノ費用ハ毎時速  
度ノ立方ニ比例シ10「ノット」ノ速度ニ對シ毎時20「ダラ」ナ  
リ。他ノ費用ヲ入レテ合算スルト毎時135「ダラ」デアルト一

時間ニ走ラス經濟的ノ速度如何. 答 毎時15「ノット」

13. 電柱ガ少シ曲ガリタルヲ支ヘタルニ20尺ノツッカヒヲシテ柱ト地上ノ棒トヲ, シツカリ結ビ付ケントスル. 柱カラ何程離レタ所ニ棒ヲウツベキカ.

14. 圓柱體ノ錫ノ容器ニ何程ノ深サマデ水ヲ入レルト重心ガ出來ルダケ下ニアルカ.

15. 直線的ノ河岸ニ最モ近イA點カラ3「マイル」離レタ處ニアルボウトニ乗ツテ居ル. Aカラ5「マイル」離レタ點ニ最モ短キ時間ニ行カウト思フ. 其人ハ一時間ニ4「マイル」ノ割合デ歩ルキ, 一時間ニ3「マイル」ノ割ニテ漕ク. 河岸ノドコノ點マデ漕クベキカ.

4. 速度  $t$  時デ與ヘラレタ長サ  $s$  ヲ行ク平均速度トハ, 時ヲ以テ路程ヲ除シタモノデアアル, 即チ

$$\text{平均速度} = \frac{s}{t}.$$

汽車ガ半時間ニ二ツノ停車場ノ間ノ距離15「マイル」ヲ行ク平均速度ハ  $15/\frac{1}{2} = 30$ 「マイル」デアアル.

シカシ今考ヘテキル速度ガ時トシテハ速ク, 時トシテハ遅キトキニハ或ル與ヘラレタ時ニ於テ近似的ニ其速度ヲ表ハスコトヲ得ルニハ問題上ノ時ニ續ク短少時ヲ取り其平均速度ヲ論ズルノデアアル.

例ヘバ靜止カラ石ヲ落ストキハ  $t$  秒時ニ  $s$  呎落チ

$$s = 16t^2$$

ト云フ法則ニ從フ.  $t_0$  時經過ノ後何程落チルカラ求メルニハ

$$(1) \quad s_0 = 16t_0^2,$$

此レヨリ少シオクレテ初メヨリ  $t'$  時ノ後デ

$$(2) \quad s' = 16t'^2$$

$t' - t_0$  ナル間ノ平均速度ハ毎秒

$$(3) \quad \frac{s' - s_0}{t' - t_0} \text{ 「フイート」}$$

特ニ1秒時ノ後ノ平均速度ハ

$$t_0 = 1, \quad s_0 = 16.$$

$t' - t_0$  ト云フ瞬間ヲ0.1秒トスルト

$$s' = 16 \times 1.1^2 = 19.36,$$

$$\frac{s' - s_0}{t' - t_0} = \frac{3.36}{0.1} = 33.6 \text{ 呎} \dots \text{ 毎秒}$$

次ニ  $\frac{1}{100}$  秒ト云フ時ノ瞬間ニハ同様ナ計算ヲ三個ノ有

效數字マデナスト毎秒

$$\frac{s' - s}{t' - t_0} = 32.2 \text{ 呎}$$

デアアル.  $\frac{1}{1000}$  秒ノ瞬間ニハ平均速度ハ32.0呎デアアル.

カヤウニ任意ノ時ニ石ノ速サヲ何程ニテモ直接ノ計算デ精密ニ得ルコトガ出來ルガ畢竟問題ノ時ニ後レタ十分短キ時

ニ於ケル平均速度ヲ得ルノデアアル。

同ジ仕方デ或法則ニ從テ動ク點ニ就テ取扱フコトガ出來ル。シカシ微分法ノ助ケデ計算ノ勞ヲ避ケルコトハ出來ナイ又同時ニ與ヘラレタ瞬間ノ點ノ速度トハ何ヲ意味スルカラ精密ニ定メルコトハ出來ナイ。 $t-t_0$  ナル時ノ間隔ヲ  $t$  ナル變數ノ増加ト見テ  $t-t_0 = \Delta t$  ト記シ、 $s'-s_0 = \Delta s$  ハ函數ノ相當スル増加ヲ表ハスナラバ

$$\text{平均速度} = \frac{\Delta s}{\Delta t}.$$

今  $\Delta t \rightarrow 0$  ニ近ヅクトキハ平均速度ハ一般ニ極限ニ近ヅク。

此時  $t_0$  時ニ於ケル速度ノ定義トシテ此極限ヲ採ル。

故ニ點ノ速度

$$\begin{aligned} \lim(t=t_0, \text{ヨリ } t=t' \text{ マデノ平均速度}) \\ = (t=t_0) \text{ 時ノ實際ノ速度,} \end{aligned}$$

或ハ

$$v = \lim_{\Delta t \rightarrow 0} \frac{\Delta s}{\Delta t} = D_t s.$$

故ニ一點ノ速度ハ其レカ運動シタル路程ノ時間的微係數デアアル。

同様ニ二點(一ツダケ或ハ二ツトモ)ガ動クトキ相互ノ距離ガ變ズル割合ハ相離レタ距離ノ時ニ關スル微係數デアアル。ソウシテ如何ナル量ニテモ變シツ、アル割合ハ例3ノヤウニ

其時間的微係數デアアル。

## 演習

1. 垂直ニ上ノ方ニ投ゲタ石ノ高サ ( $s$  呎) ハ次ノ公式デ與ヘラレル(但シ  $t$  ハ投ゲテカラノ秒數):

$$s = 48t - 16t^2.$$

ソレガ一秒間上リツ、アツタトキ (a) 次ノ  $\frac{1}{10}$  秒ノ間ニ平均速度, (b) 次ノ  $\frac{1}{100}$  秒ノ平均速度, (c) 初メノ1秒ノ終リニ於ケル實際ノ速度, (d) 何程高く上ルカラ計算セヨ。

答 (a) 一秒時 = 14.4 呎, (b) 15.84 呎, (c) 16 呎, (d) 36 呎

2. 身長 6 呎高キ人ガ一時間ニ 4「マイル」ノ速サデ 10 呎高キ「ランプ」臺カラ真直ニ立チテ離レルト、敷石ニ於ケル其影ノ一端ハドンナ速サデアアルカ。

3. 上問ノ影ガドンナ割合デ長クナリツ、アルカ。

4. 太陽ノ光線ガ地平面ト  $30^\circ$  ノ傾ヲナス、球ガ垂直ニ上方ニ 64 尺ノ高サニ投ゼラル。地上ニ於ケル影ガ地面ニ到着スルマデニドンナ速サデ動クカ。

5. 同時ニ同港ヲ出發シタ二船ガアル、一ツハ 9「ノット」ノ速サデ東方ニ、一ツハ 12「ノット」ノ速サデ南方ニ行ツタ、2 時間ノ後ニドンナ速サデ離レツ、アルカ。

6. 上問ニ於テ第一ノ船ガ第二ノ船ヨリ一時間前ニ出港ス

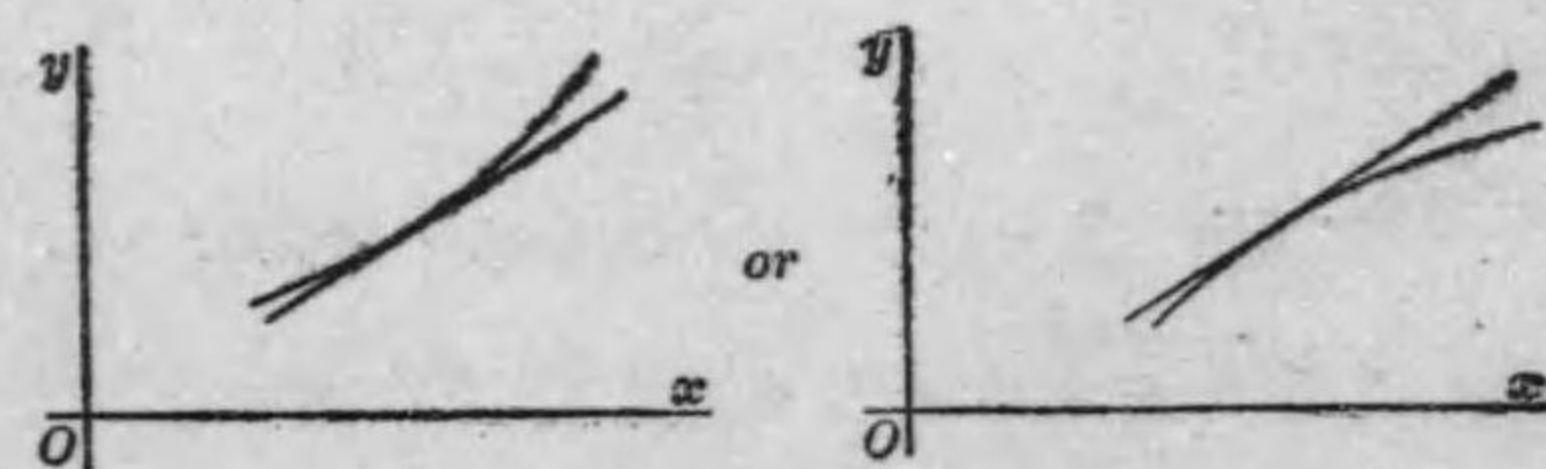
ルト第二ノ船ガ港ヲ離レルトキドンナ速サデ離レルカ。

7. 一船ハ正午ニ他船ノ 20「マイル」北方ニアリテ一時間ニ 10「ノット」ノ割合デ南方ニ向ヒ進行シテヲリ, 第二船ハ一時間ニ 12「ノット」ノ割合デ西方ニ向ヒ進行シテヲル. 互ニ相近ヅクコトガ何程長ク續クカ。

8. 石ガ池ニ投ゼラレ同心圓, 波紋ヲ送ル, 波紋ノ半径ガ一秒間ニ 6 尺ノ割ニテ増加スルトキ其ノ面積ハ第 2 秒ノ終リニ何程ヅ、増加スルカ。

9. 人ガ一時間ニ 4「マイル」ノ割ニテ橋ノ上ニ行キ, 船ハ其直下ヲ一時間ニ 8「マイル」ノ割合デ漕ギツ、アツタ. 橋ハ船ノ上ニ 20 尺アリ. 3 分後船ト人トガドンナ速サデ離レツ、アルカ。

5. 増加或ハ減少スル函数 微分法ハ函数ハ獨立變數ガ増加スルトキ, 増加スルカ減少スルカラ定メル簡單ナル手段ヲ與ヘル, 「グラフ」ノ傾度ハ  $D_x y$  ニテ與ラレルカラ,  $D_x y$  ガ正デアルト  $x$  ノ増加ト共ニ  $y$  ハ増加ス,  $D_x y$  ガ負デアルト  $y$



ハ  $x$  ノ増加ト共ニ減少ス. 前ノ圖ハ一般ニ  $D_x y$  ノ正ナルトキデアル.

定理  $x$  ガ増加スルトキ

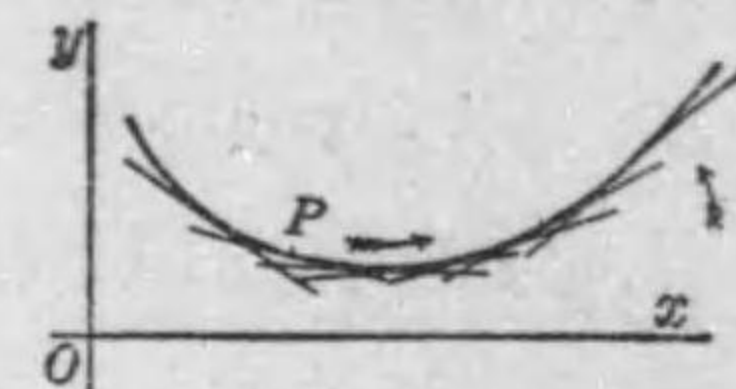
(a)  $D_x y > 0$  ナラバ  $y$  ハ増加ス,

(b)  $D_x y < 0$  ナラバ  $y$  ハ減少ス.

$y = f(x)$  ナル曲線ハ次ノ圖ノヤウニ凹ナル側ヲ上方ニ向ケル條件ヲ論ゼンニ, 曲線ノ傾度ガ  $x$  ノ函数デアル:

$$\tan \tau = \phi(x)$$

變化スル點  $P$  ニ於テ切線ヲ論ゼン.



$P$  ガ曲線ヲ畫キ同時ニ切線ガ

ソレニ沿ヒテ動クトセバ切線ハ時計ノ反對方向ニ廻轉シ傾度ハ  $x$  ノ増加ト共ニ代數的ニ増加シ曲線ハ上方ニ向ツテ凹ム. 逆ニ傾度ガ  $x$  ノ増加ト共ニ減ズルトキ切線ハ時計ノ反對方向ニ廻轉シ, 曲線ノ凹方ハ下ノ方ニ向フ.

上ノ定理ニ依ツテ

$$D_x \tan \tau > 0$$

デアルトキ  $x$  ノ増加ト共ニ  $\tan \tau$  ハ増加スルカラ曲線ハ凹方ヲ上ニ向ケル.

然ルニ微係數  $D_x \tan \tau$  ハ  $y$  ノ微係數ノ微係數デアル, コレヲ  $y$  ノ第二次微係數ト云ヒ之ヲ次ノヤウニ書ク.

$$D_x (D_x y) = D_x^2 y$$

曲線が下方に凹ヲ受クルトキノ驗メシハ同様ニ得ラレル、カクシテ次ノ必要ナル定理ニ達スル。

曲線が上方に凹ヲ受クル驗メシ。

曲線 (63 頁ノ圖ヲ見ヨ)

$$y = f(x)$$

ハ  $D_x^2 y > 0$  ナラバ 凹ヲ上方ニ向ケル、

$D_x^2 y < 0$  ナラバ 凹ヲ下方ニ向ケル。

曲線が或點マデ凹ヲ上方ニ向ケテオレルモ其點ニ至テ下方ニ向ケルトキニハ其點ヲ「インフレクション」ノ點ト云フ、即チ  $D_x^2 y$  が其點デ記號ヲ變ズル。シカルニ函數が連続性ヲ有スルカラ其點デ  $D_x^2 y$  ハ 0 トナル。

「インフレクション」ノ點トナル必要ノ條件ハ

$$D_x^2 y = 0$$

デアルコトデアル。

6. 曲線ヲ畫クコト 其方程式カラ曲線ヲ畫クコトハ最初ニ於テハ多クノ點ノ坐標ヲ計算シ函數ノ「グラフ」ニ似タモノヲ作ルコトニ歸着ス。今「グラフ」ノ性質ヲ定メル僅カノ計算デ出來ル有力ナ方法ヲ有スル、何トナレバ最初ニ或點ニ於ケル曲線ノ傾度ヲ見出し、次ニドンナ間隙ニ凹ヲ上方ニ向ケテオルカ下方ニ向ケテオルカヲ定メルコトガ出來ルカラデアル。

例ヘバ次ノ函數ヲ作圖スルトシヤウ:

$$(1) \quad y = x^3 + px + q$$

最初ニ  $q = 0$  トセバ

$$(2) \quad y = x^3 + px$$

$$D_x y = 3x^2 + p$$

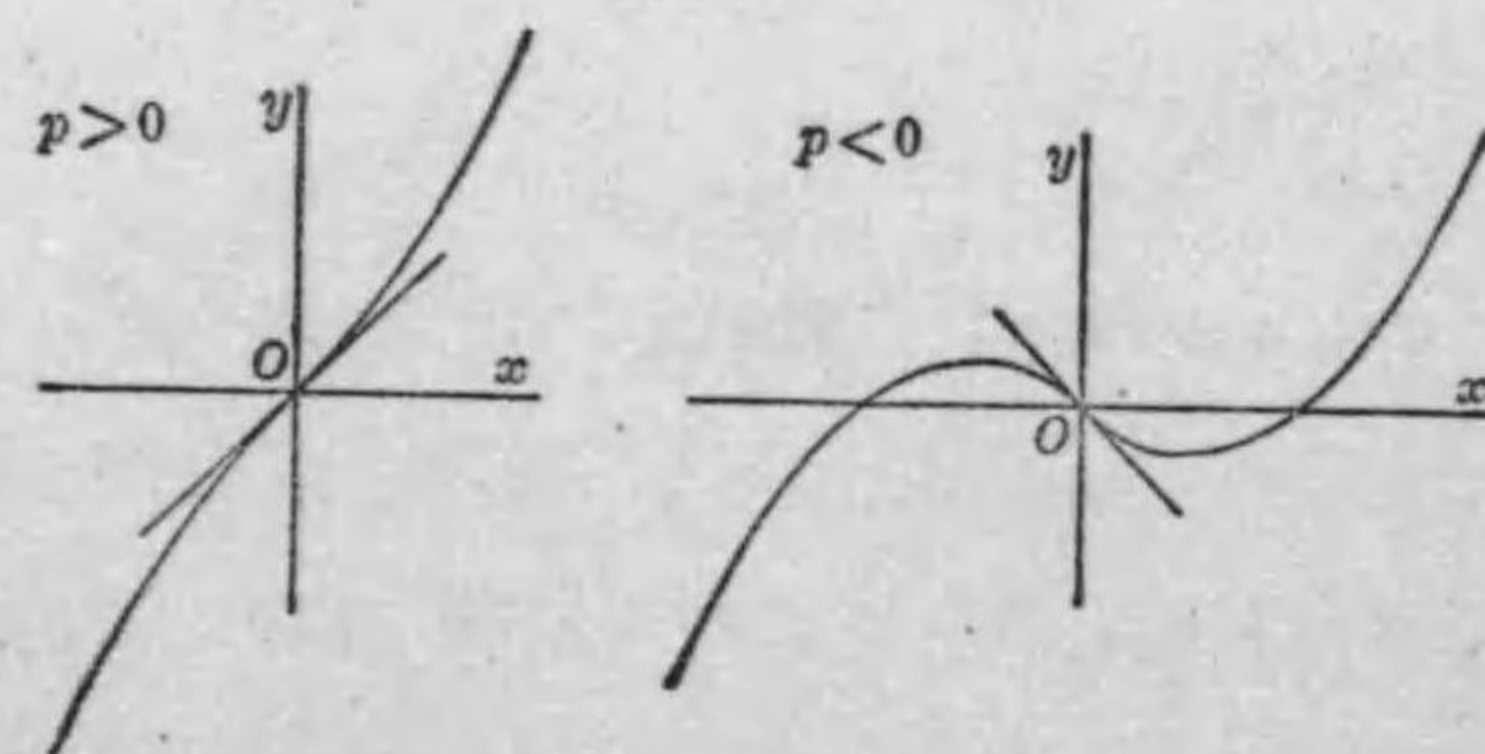
$$D_x^2 y = 6x.$$

最後ノ方程式カラ曲線ハ  $x$  ノ正值ニ對シテ凹ヲ上方ニ向ケテオレル、又  $x$  ガ正デ無限大ナルトキ  $D_x y$  ハ正デ無限大トナル ( $p$  ノ如何ニ拘ラズ)。

故ニ曲線ハ原點ヲスキ其傾度ハ

$$[D_x y]_{x=0} = p.$$

從テ圖形ハ  $x$  ノ正值ニ對シテ次ノ圖ノヤウナ性質ヲモツ。



$x$  ノ負ナル場合ニ於ケル「グラフ」ヲ得ルニハ曲線ハ原點ニ關シテ對稱ナルコトヲ見ルニアリ、何トナレバ  $(x, y)$  ガ曲線上ノ點デアルナラ  $x' = -x, y' = -y$  モ曲線ノ點デアルカラ

デアル。故ニ一度  $x$  ノ正ナル場合ニ就テ圖ヲ作ルナラバ  $180^\circ$  ダケ圖ヲ廻轉スレバ圖ノ殘部ヲ得ル。

終リニ  $x$  ノ軸ヲ平行ナル軸ニ移セバ (1) ノ「グラフ」ヲ (2) ノ「グラフ」カラ得ラレル、其ノタメニハ變形ハ

$$x = x', \quad y = y' - q$$

デアル即チ (2) ハ

$$y' - q = x'^3 + px'$$

トナル  $q$  ヲ移項シアクセントヲ取レバ (1) ナル方程式ヲ得ル。此曲線ハ  $x=0, y=q$  ナル點ニ關シ對稱デアル、

## 演習

此演習ヲナスニハ方眼紙ヲ用意スルノガヨロシイ。

### 1. 曲線

$$y = \frac{3}{3+x^2}$$

ハ  $-1 < x < 1$  ナル間隙ニ於テ凹ヲ下方ニ向ケル、 $x$  ノ他ノ値デハ上方ニ向ケル。インフレクションノ點ニ於テ傾度ヲ求め、又此等ノ點ニ於テ傾度ヲ求め、ソウシテ曲線ヲ作圖セヨ。

2. 次ノ事項ヲ定メテ  $4y = x^4 - 6x^2 + 8$  ナル曲線ヲ作圖セヨ。

(a) 坐標軸トノ交點。

(b) 凹ヲ上方ニ向ケタ間隙、凹ヲ下方ニ向ケタ間隙。

(c) 「インフレクション」ノ點。

(d) 其切線ガ  $x$  軸ニ平行ナル點。

精密ニ (a), (c), (d) ヲ作圖シ (單位トシテ 2「センチメートルヲ用ヒテ)、又此等ノ點ニ於テ精密ニ切線ヲ引キテ曲線ヲ作レ。

次ノ曲線ヲ作圖セヨ:

3.  $10y = x^3 - 12x + 9.$

(曲線ハ  $x=3$  ナル點デ  $x$  軸ヲ截ルコトヲ注意セヨ)。

4.  $y = x^3 + 2x^2 - 13x + 10.$

9.  $y^2 = x^2 + x^3.$

5.  $y = x - x^2.$

10.  $y^2 = x(x-1)(x-2).$

6.  $y = \frac{x}{1+x^2}.$

11.  $y = \frac{1}{1-x^2}.$

7.  $y = \frac{x^2}{1+x^2}.$

12.  $y^2 = \frac{x}{1-x}.$

8.  $y = \frac{1}{1-x}.$

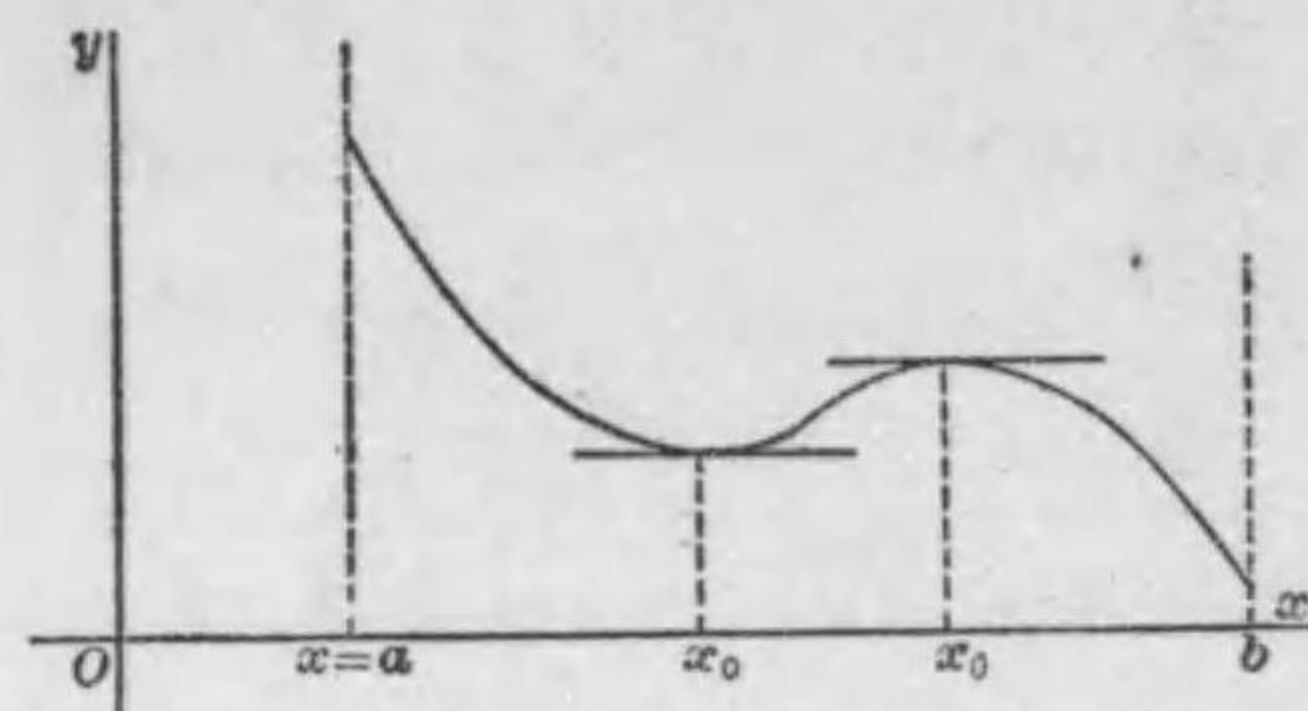
13.  $y^2 = \frac{x^2}{1+x^2}.$

### 7. 比較的極大、極小「インフレクション」ノ點、函數

(1)  $y = f(x)$

ガ  $x = x_0$  ニ於ケル値ガ  $x_0$  ノ近隣ニアル點ニ於ケル値ヨリ大ナルトキハ  $x = x_0$  ニ於テ極大ナリト云フ。シカシ此様ナ極大ハ  $a \leq x \leq b$  ナル完全ノ間隙ニ於テ函數ノ最大值トハ異ツテオル。(次ノ圖ノ如シ)





此ワケデ比較的極大トイワレル、極大或ハ絶対極大トハ異ツテキル。同様ニ極小ニ就テイワレル(最大ヲ最小ナル語デ云ヒ替ヘテ)

極大特異性ハ切線ガx軸ニ平行スルコトデアル。ソウシテ曲線ハ凹ヲ下ノ方ニ向ケル。同様ニ極小ニ就テハ曲線ハ凹ヲ上ノ方ニ向ケル。故ニ

#### 極大、極小ノタメシ。

- (a)  $[D_x y]_{x=x_0} = 0, [D_x^2 y]_{x=x_0} < 0$  ナラバ  $x=x_0$  ニ於テ極大デ、  
 $[D_x y]_{x=x_0} = 0, [D_x^2 y]_{x=x_0} > 0$  ナラバ  $x=x_0$  ニ於テ極小ナリ。  
 此條件ハ十分ナル條件ナレドモ必要ナル條件ニアラズ。

例ヘバ

- (2)  $y = x^4$  ナル函数ニ於テ  $x = 0$  ニ於テ極小デアルケレドモ  $D_x^2 y$  ハ正デナイ、0デアル。尙上ノタメシハ實際ニ起ル場合ノ大半デアル。此後ニ廣イ一般ノ場合ヲ得ルデアラウ。

[例]

$$y = x^3 - 3x^2 + 1$$

ト云フ函数ヲ取レ。

$$D_x y = 6x^2 - 6x = 6x(x-1)(x+1)$$

夫レヨリ  $x = -1, 0, 1$  ニ於テ  $D_x y = 0$ 。

$$\text{尙} \quad D_x^2 y = 30x - 6$$

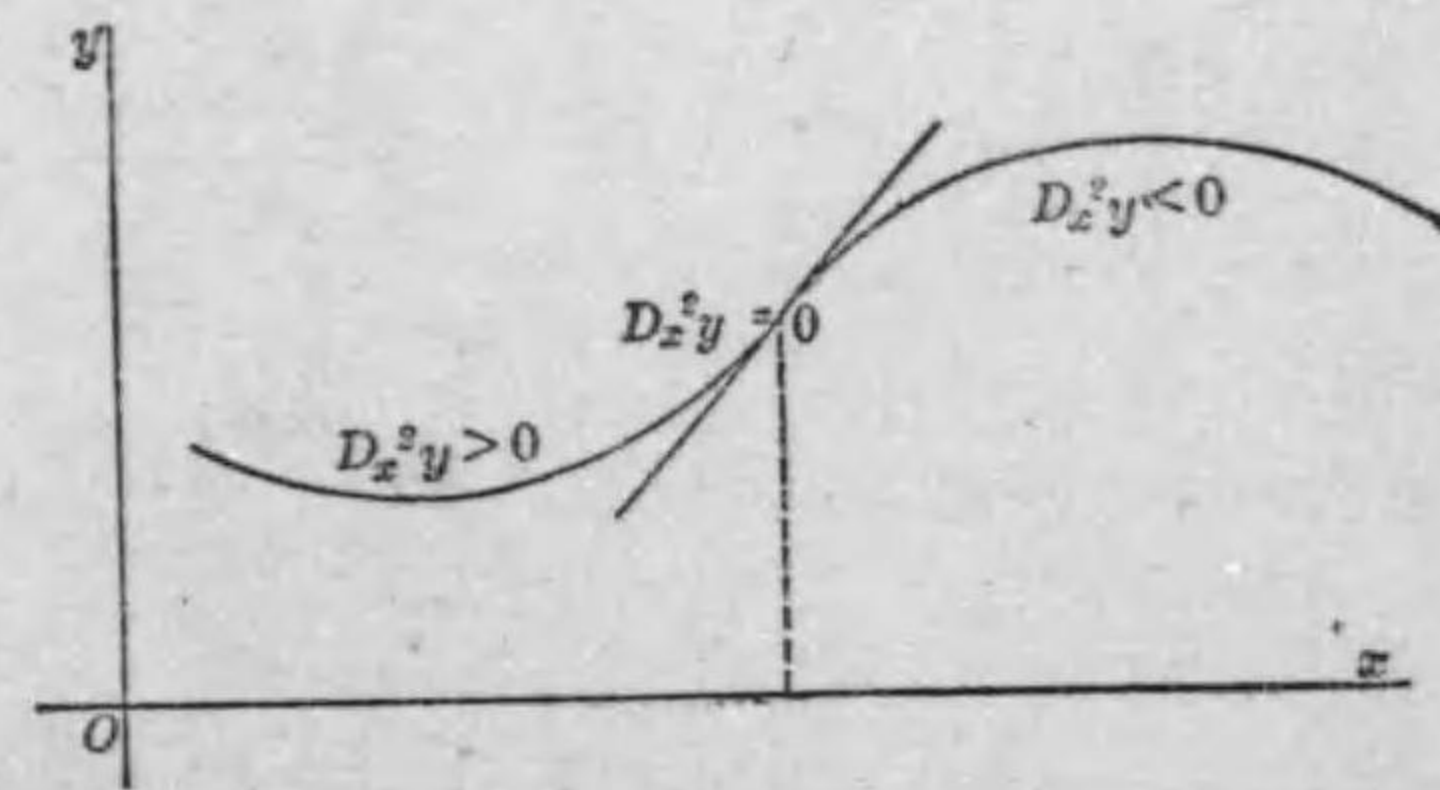
カラ

$$[D_x^2 y]_{x=-1} = 24 > 0, \therefore x = -1 \quad \text{ハ極小,}$$

$$[D_x^2 y]_{x=0} = -6 < 0, \therefore x = 0 \quad \text{ハ極大,}$$

$$[D_x^2 y]_{x=1} = 24 > 0, \therefore x = 1 \quad \text{ハ極小ナル場合ニ相當ス。}$$

丁度見出シタ驗メシノ應用トシテ「インフレクション」ノ點ノタメニ十分ナル條件ヲ與ヘル。必要ナル條件トシテ  $D_x^2 y = 0$  ヲ得タ、シカシ「インフレクション」ノ點ハ幾何學的



ニ、P 點ガ曲線ヲ作成スル間ニ P ニ於ケル切線ガ一ツノ方向ニ廻轉スルコトヲ止メ、反対方向ニ廻轉スルヤウニ始メタ場合ノ現象デ性質ヅケラル。從テ  $\tan \tau$  ナル曲線ノ傾度ガ「インフレクション」ノ點デ極大、極小ノ何レカヲ有ス。

逆に  $\tan \tau$  が極大或ハ極小トナル點ニ於テ曲線ハ「インフレクション」ヲ有ス、何トナレバ  $x = x_0$  ニ於テ  $\tan \tau$  が極大ナリトセン。然ルトキハ  $x_0$  デ出發シ増加スルトキハ  $\tan \tau$  即チ曲線ノ傾斜ハ代數的ニ減少シ、曲線ハ  $x_0$  ノ右方ニ凹ヲ下ニ向ケル。一方ニ  $x$  ガ減少スルトキ  $\tan \tau$  ハ減少シ、曲線ハ  $x_0$  ノ左ニ凹ヲ上ニ向ケル

上ノ定理ニ依リ  $\tan \tau$  ハ極大、極小ノ何レカヲ有ス：

$$D_x \tan \tau = 0, \quad D_x^2 \tan \tau \neq 0.$$

ソレカラシテ  $\tan \tau = D_x y$  ナルコトヲ記憶シテ次ノ定理ヲ有スル。

「インフレクション」ノ點ノタメシ。

$$[D_x^2 y]_{x=x_0} = 0, \quad [D_x^3 y]_{x=x_0} \neq 0.$$

デアルト曲線ハ  $x = x_0$  ナル點ニ於テ「インフレクション」ノ點ヲ有ス。

此レハ前ノヤウニ極大、極小ノタメノタメシハ十分ナル條件デアル、シカシ必要ナル條件デハナイ。

[例]  $12y = x^4 + 2x^3 - 12x^2 + 14x - 1.$

然ルトキハ

$$12 D_x y = 4x^3 + 6x^2 - 24x + 14$$

$$12 D_x^2 y = 12x^2 + 12x - 24 = 12(x-1)(x+2)$$

$$12 D_x^3 y = 12(2x+1).$$

$D_x^2 y = 0$  ト置キテ  $x = 1, x = -2$  ナル點ヲ得。ソウシテ

$$12 [D_x^3 y]_{x=1} = 36 \neq 0,$$

$$12 [D_x^3 y]_{x=-2} = -36 \neq 0,$$

故ニ此二ツトモ「インフレクション」ノ點デアル。

此等ノ點ニ於テ曲線ノ傾度ハ

$$12 [D_x y]_{x=1} = 0, \quad 12 [D_x y]_{x=-2} = 54,$$

故ニ曲線ハ二點ノ内ノ第一ノモノニ於テハ  $x$  ノ軸ニ平行シ第二ノモノニ於テ傾度ハ  $4\frac{1}{2}$  ナリ。

## 演習

次ノ曲線ニ極大、極小、「インフレクション」ノ點ヲ檢シ、「インフレクション」ノ點ニ於テ曲線ノ傾度ヲ求メヨ。

1.  $y = 4x^3 - 15x^2 + 12x + 1.$       4.  $y = (x-1)^2(x+2)^2.$

2.  $y = x^3 + x^4 + x^5.$       5.  $y = \frac{x}{2+3x^2}.$

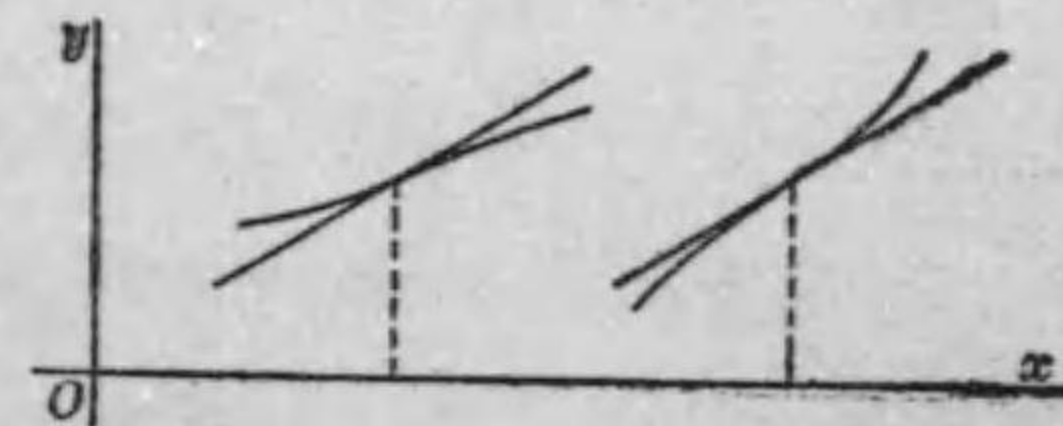
3.  $6y = x^6 - 3x^4 + 3x^2 - 1.$       6.  $y = (1-x^2)^3.$

7. 次ノ圖ニ示スヤウ

ナ「インフレクション」ノ

二種ニ就テ區別ノアルコ

トヲタメセ。



## 8. 方程式ノ根ニ就テ. 方程式

$$f(x) = 0$$

ヲ解クコトノ問題ハ幾何學的ニ次ノヤウニ形式ツケラレル.  
 $x$  軸ト曲線トノ交點ヲ求ムルコトニ歸ス, 即チ

$$y = f(x), \quad y = 0.$$

十分精密ニ  $x$  軸ニ近キ部分ヲ表ハストキハ根ニ近キ値ヲ  
 得.

度々與ヘラレタ間隙ノ中ニ何程ノ根ヲ有スルカラ知ル重  
 要ノ事實ガ起ル, 例ヘバ方程式ガ有スル正根ノ數ヲ求ムル場  
 合ノ如シ, 此問題ニ答ヘル一手段ハ曲線ヲ畫クコトデアル.

例ヘバ方程式

$$x^6 - 3x^2 + 1 = 0$$

ナル方程式ニ於テハ

$$y = x^6 - 3x^2 + 1$$

ナル函數ハ十分大キイ  $x$  ノ値ノタメニ正デアル, 何トナレバ

$$y = x^6 \left( 1 - \frac{3}{x^4} + \frac{1}{x^6} \right)$$

ナル函數ノ括弧ノ中ハ  $x$  ノ増加ト共ニ正數トナリ, 第一函數  
 ハ無限ニ大キクナルヲ以テ積ハ無限ニ大キクナル.

再ビ函數ハ  $x = 0$  (第7款) ノトキハ其値ハ正デ極大ヲ有  
 ス. (其値ハ1).  $x = 1$  ニ於テ其値ハ負デ極小デアル.

從ツテ  $x = 0$  ト  $x = 1$  トノ間デ  $x$  ノ正軸ヲ截ルデアラウ.

再ビ上ノ方程式ハ  $x > 1$  ニ於テ同様デアルカラニツノ正  
 ナル實根ヲ有ス. 更ニ多ク有スルカ否カ.

$0 < x < 1$  ナル間隙ニ於テ

$$D_x y = 6x(x^2 - 1)(x^2 + 1)$$

ハ負デアツテ, 函數ハ減少スルカラ「グラフ」ハ  $x$  軸ヲ截ルベ  
 ク, ソウシテ唯一回ナルベシ. ソウシテ  $x > 1$  デアルトキ  
 $D_x y$  ハ正デアルカラ函數ハ増加スルカラ「グラフ」ハ  $x$  ノ軸  
 ヲ截ル, シカシ唯一回デアル.

カヤウニ方程式ハニツノ正根ヲ有ス, 且ツ各正根ニ各負  
 根ガ相應スルカラニツノ負根トニツノ正根トガアル, 從ツテ  
 四個ノ實根ガアルコトガワカル.

一般ノ原則ハ此例ノヤウニ次ノ様ニイワレル.

[定理]  $f(x)$  ナル連續函數ガ  $a < x < b$  ニ於テ記號ガ變

ハリ其微係數ガ正デアルト (或ハ常ニ負デアルト) 其間隙ニ於  
 テ丁度一點ニ於テ函數ハ0トナル.

三次方程式

$$(1) \quad x^3 + px + q = 0$$

ハ上ト同様ニ取扱ハレル. 第6款デ示シタ函數

$$(2) \quad y = x^3 + px$$

ハ特ニ簡單デアル. 此曲線ガ

$$(3) \quad y = -q$$

ナル線ヲ截ラレタ點ノ横線ハ(1)ナル三次方程式ノ根デアル。

今  $p \geq 0$  デアルナラバ第59頁ノ二ツノ圖ノ初メノモノニ相當ス。(3)ナル線ハ曲線(2)ヲ一點ニテ截ルカラ(1)ハ一實根ヲ有ス。然レドモ  $p < 0$  ハ第59頁ノ第二ニ相當スルカラ三個ノ交點アルカ或ハソレヨリ少ナキカハ  $p$  ト  $q$  トノ大小ノ關係ニヨル。

(2)ナル函數ノ極大ト極小トハ

$$D_x y = 3x^2 + p = 0, \quad x = \pm \sqrt{-\frac{p}{3}}.$$

カラ得ラレル。極小ハ

$$x = \sqrt{-\frac{p}{3}}, \quad y = \frac{2p}{3} \sqrt{-\frac{p}{3}},$$

極大ハ

$$x = -\sqrt{-\frac{p}{3}}, \quad y = -\frac{2p}{3} \sqrt{-\frac{p}{3}}.$$

故ニ  $q$  ノ絶對値ガ  $y$  ノ絶對値ヨリ大ナルトキ、即チ  $q^2 > -\frac{4p^3}{27}$  デアルトキ(1)ハ一實根ヲ有ス。シカシ  $q$  ノ數値ガ  $q^2 < -\frac{4p^3}{27}$  ナルトキハ三ツノ實根ヲ有ス。モシ  $q^2 = -\frac{4p^3}{27}$  ナラバ二實根ヲ有シ、其一ツハ二回ト算ス、但シ  $p = q = 0$  デアルト三重根トシ、ソレヲ算ス。

スベテノ場合ヲ集メルト:

$$x^3 + px + q = 0$$

ナル三次方程式ハ

$$(a) \quad \frac{q^2}{4} + \frac{p^3}{27} > 0 \quad \text{ナラバ 一實根,}$$

$$(b) \quad \text{,,} \quad < 0 \quad \text{ナラバ 3實根,}$$

$$(c_1) \quad \text{,,} \quad = 0 \quad \text{ナラバ 2實根, (但シ } p, q \text{ トハ二ツトモ } 0 \text{ ナラズ)}$$

$$(c_2) \quad \text{,,} \quad = 0 \quad \text{ナラバ 1實根, (} p = q = 0 \text{)}$$

(c<sub>1</sub>)ノ場合ニハ一實根ヲ二ツト算シ、(c<sub>2</sub>)ノ場合ニハ根ヲ三ツト算ス。

## 演習

1. 次ノ方程式ハ何程ノ實根ヲ有スルカ。

$$(a) \quad x^5 - 5x - 1 = 0. \quad (c) \quad 3x^4 - 4x^3 + 12x^2 + 7 = 0.$$

$$(b) \quad 3x^4 + 4x^3 + 6x^2 - 1 = 0. \quad (d) \quad x^{2n+1} + px + q = 0.$$

答 (a) 三ツ, (b) 二ツ, (c) 何モナシ.

2. 次ノ三次方程式ハ何程ノ實根ヲ有スルカ。

$$(a) \quad x^3 + 7x - 1 = 0. \quad (c) \quad x^3 - 3x - 2 = 0.$$

$$(b) \quad x^3 - 4x + 1 = 0. \quad (d) \quad x^3 - x + 3 = 0.$$

3. 次ノ方程式ハ何程ノ正根ヲ有スルカ。

$$6x^4 + 8x^3 - 12x^2 - 24x - 1 = 0. \quad \text{答 一ツ}$$

4. 函數

$$f(x) = \frac{3}{(x-1)^8} + \frac{7}{(x-2)^9}$$

ハ  $1 < x < 2$  ナル間隙ニ唯一根ヲ有スルコトヲ表ハセ.

5. 次ノ方程式ハ何程ノ實根ヲ有スルカ:

$$4x^3 - 15x^2 + 12x + 1 = 0. \quad \text{答 三ツ}$$

6. 平行ニ軸ヲ適當ニ變化シテ(新原点ハ  $x$  軸ニアラシム),

即チ

$$x = x' + h, \quad y = y'$$

トスレバ方程式

$$y = x^3 + p_1x^2 + p_2x + p_3$$

ハ新方程式

$$y = x'^3 + px + q$$

トナリ元ノ三次方程式ガ三ツノ實根ヲ有スル條件ヲ得ルコトヲ示セ.

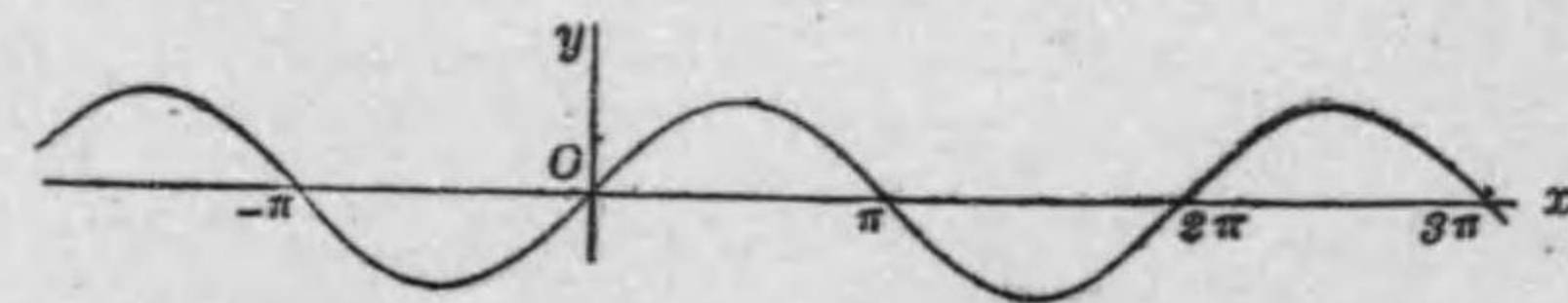
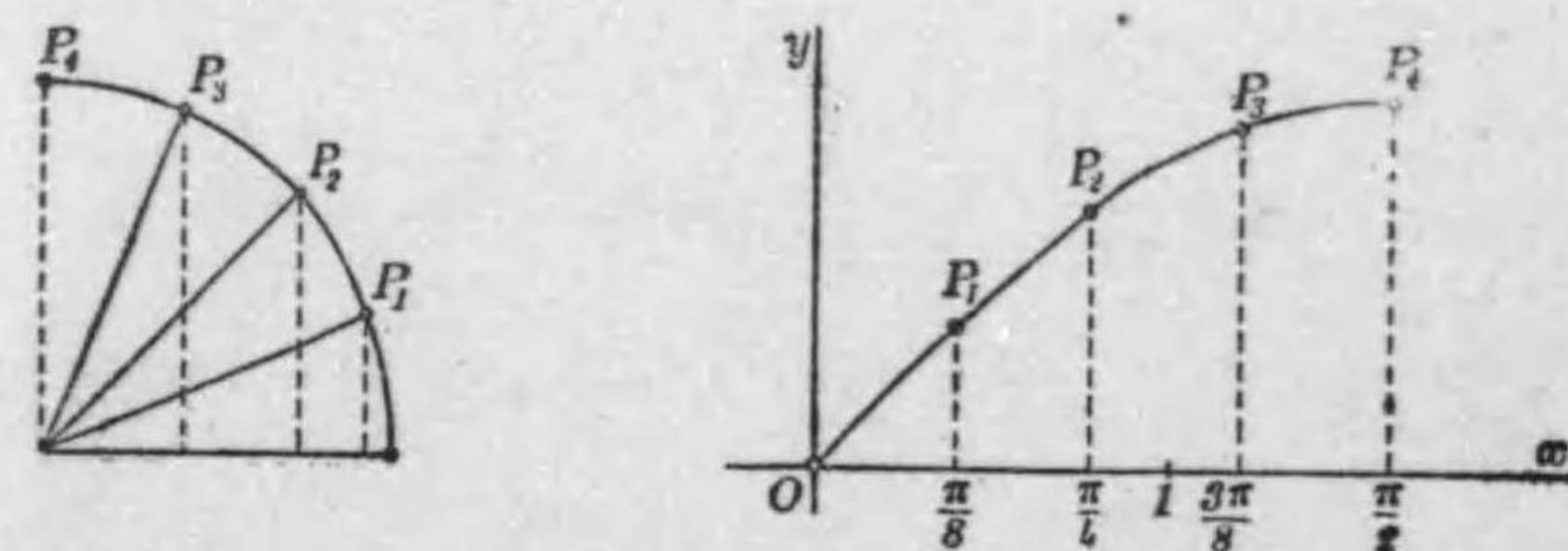
## 第四編

### 超越函数ノ微分法

1.  $\sin x$  ノ微分法. 第一法.

$$(1) \quad y = \sin x$$

ノ「グラフ」ヲ幾何學的ニ作ルニハ單位ノ半徑ノ圓ヲ引き種々ノ角ニ相應スル縦線ヲ作り、角ハ「ラジアン」ニテ計リ之レデ横線ヲ作ルニアリ.



$\sin x$  ヲ微分スルタメ  $x$  ニ任意ノ値  $x_0$  ヲ與ヘ、ソレニ相應スル  $y$  ノ値ヲ計算ス.

$$y_0 = \sin x_0$$

$x$  ニ  $\Delta x$  ナル増加ヲ與ヘ再ビ  $y$  ノ相當スル値ヲ計算ス

$$y_0 + \Delta y = \sin(x + \Delta x)$$

ソレヨリ  $\Delta y = \sin(x + \Delta x) - \sin x$

$$(2) \quad \frac{\Delta y}{\Delta x} = \frac{\sin(x_0 + \Delta x) - \sin x_0}{\Delta x}$$

續ク大キサヲ作りテ幾何學的ニ

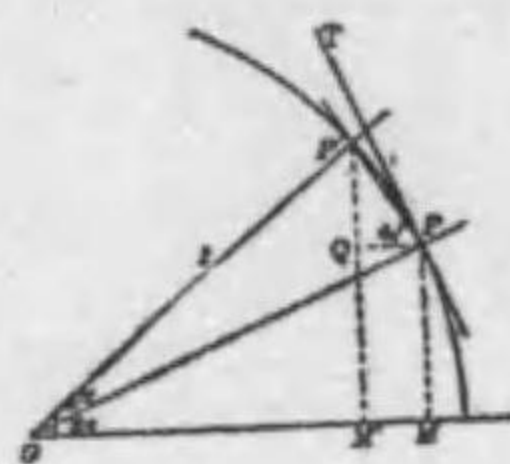
此步ミヲ取ラシムレバ次ノ圖ハ

此圓ノ半径ハ1デアルカラ

$$MP = \sin x_0,$$

$$M'P = \sin(x_0 + \Delta x)$$

$$QP' = \sin(x_0 + \Delta x) - \sin x_0 = \Delta y, \quad \overline{PP'} = \Delta x.$$



夫レカラ

$$(3) \quad \frac{\Delta y}{\Delta x} = \frac{QP'}{\overline{PP'}}.$$

此終リノ比ハ P' ガ P ニ近ヅクニ從ヒ如何ナル極限ニ近ヅクカラ見ルコト容易ナリ. 分母ハ弦  $\overline{PP'}$  ニ近ヅク

$$\frac{QP'}{\overline{PP'}} = \sin \phi.$$

$$\text{然ルニ} \quad \lim_{P' \rightarrow P} \phi = \angle QPT = \frac{\pi}{2} - x_0,$$

$$\lim_{P' \rightarrow P} \frac{QP'}{\overline{PP'}} = \cos x_0$$

シカシ小ナル角ノ弦ト弧トノ差ハ甚小ナリ. 從テ容易ニ

$$(4) \quad \lim_{P' \rightarrow P} \frac{\overline{PP'}}{\overline{PP'}} = 1.$$

ナルコトガワカル. 學生ハ  $30^\circ$  ノ角及ビ從テ  $15^\circ$  ノ弧ト弦ト

ヲ表ハス所ノ精密ノ圖ヲ引クコトヲ要求セラレル

(3) ナル比ニ還リテ且ツ

$$\frac{QP'}{\overline{PP'}} = \frac{QP'}{\overline{PP'}} \cdot \frac{\overline{PP'}}{\overline{PP'}}$$

ナル形ニソレヲ書キテ P' ハ極限トシテ P ニ近ヅクトキ

$$\lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta y}{\Delta x} = \left( \lim_{P' \rightarrow P} \frac{QP'}{\overline{PP'}} \right) \left( \lim_{P' \rightarrow P} \frac{\overline{PP'}}{\overline{PP'}} \right) = \cos x_0$$

下ノ記號ヲ取ルトキハ

$$(5) \quad D_x \sin x = \cos x.$$

## 演習

同ジヤウニシテ

$$(6) \quad D_x \cos x = -\sin x$$

ヲ證明セヨ.

第二法 前法ハ容易ニ記憶ガ出來ルノデ利益ガアル. シカシ, 解析的歩度ハ幾何學的作法ニ反照セラレン, 從テ不完全ナルコトノ不利益ヲ有ス, 何トナレバ最初  $\Delta x$  ハ正ノ數デ 0 ニ近ヅクトシタ, 又  $x_0$  ハ 0 ト  $\pi/2$  トノ間ニアリトシタ, ソレカラ全體トシテ又七ツノ論ズベキ場合ガアルカラデアアル.

解析方法ハ次ノヤウニ簡單デ同時ニ一般デアアル.  $\sin$  ノ加法定理:

$$\sin(a+b) = \sin a \cos b + \cos a \sin b,$$

$$\sin(a-b) = \sin a \cos b - \cos a \sin b,$$

ソレヨリ

$$\sin(a+b) - \sin(a-b) = 2 \cos a \sin b,$$

$$a+b = x_0 + \Delta x, \quad a-b = x_0$$

トセヨ,  $a$  ト  $b$  トニ就テ此方程式ヲ解ケバ

$$a = x_0 + \frac{\Delta x}{2}, \quad b = \frac{\Delta x}{2}.$$

$$\text{從テ } \sin(x_0 + \Delta x) - \sin x_0 = 2 \cos\left(x_0 + \frac{\Delta x}{2}\right) \sin \frac{\Delta x}{2},$$

之ヲ微分レバ

$$\frac{\Delta y}{\Delta x} = \cos\left(x_0 + \frac{\Delta x}{2}\right) \frac{\sin \frac{\Delta x}{2}}{\frac{\Delta x}{2}}.$$

右邊ノ第一因數ハ  $\cos x_0$ , 第二因數ハ

$$\lim_{a \rightarrow 0} \frac{\sin a}{a}$$

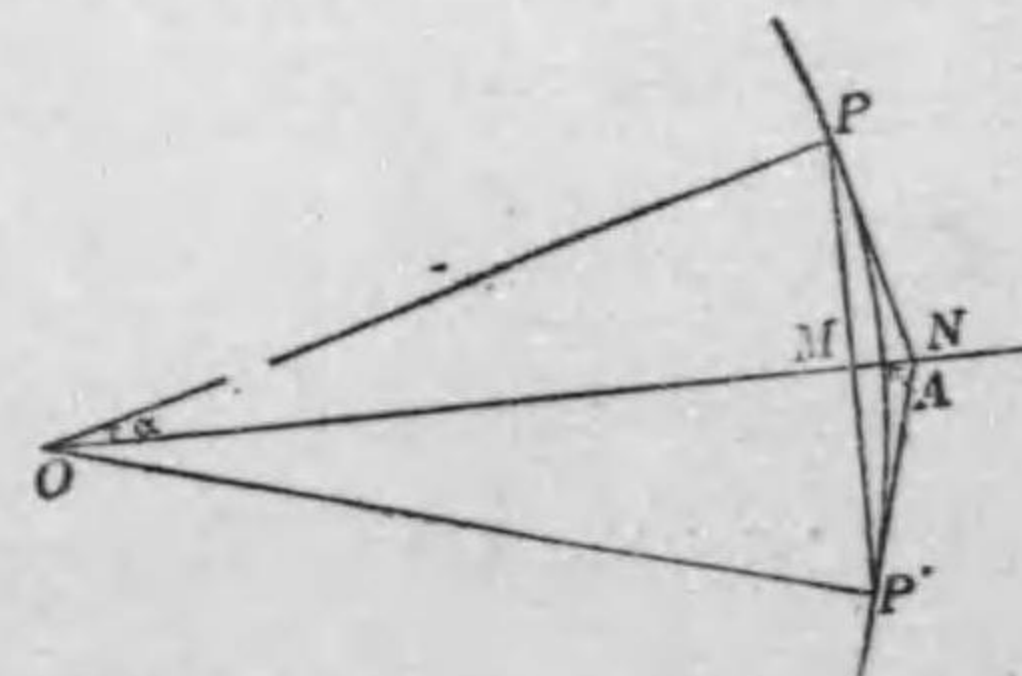
ナル形トナリ, 再ビ弧ト弦トノ比ノ極限ヲ論ズルコト、ナル。

$$\overline{PP'} = 2 \sin a, \quad \check{PP'} = 2a,$$

然ルニ (4) ナル極限ハ

圖ノ直接ノ觀察ヨリ 1 ナルコトガワカル。

正式ノ證明ハ次ノヤウ



ニ幾何學的公理ニ基礎ヲ置ク即チ第一ハ二點ノ間ノ最短距離ハ直線ナリト云フ公理即チ

$$\overline{PP'} < \check{PP'}$$

ト, 第二ハ  $N$  ニ會スル  $P$  ト  $P'$  トノ切線ハ, 凹狀線ハ之ヲ含ム同ジ端ヲ有スル凹狀線ヨリ小ナリト云フ公理即チ

$$\check{PP'} < PN + NP' = 2PN$$

從テ  $\overline{PP'} < \check{PP'} < 2PN$

$$PP' = 2PM$$

ニテ除スルニ

$$\frac{PN}{PM} = \frac{1}{\cos a}$$

ナルコトヲ注意スルト

$$1 < \frac{\check{PP'}}{PP'} < \frac{1}{\cos a}.$$

$a$  ガ 0 ニ近ヅクトキ  $1/\cos a$  ハ 1 ニ近ヅク, 從テ  $\check{PP'}/PP'$  ハ定マリタル數 1 ト極限トシテ 1 ニ近ヅク變數トノ間ニアルヲ以テ

$$\lim_{\check{PP'} \rightarrow 0} \frac{\check{PP'}}{PP'} = 1.$$

*q, e, d.*

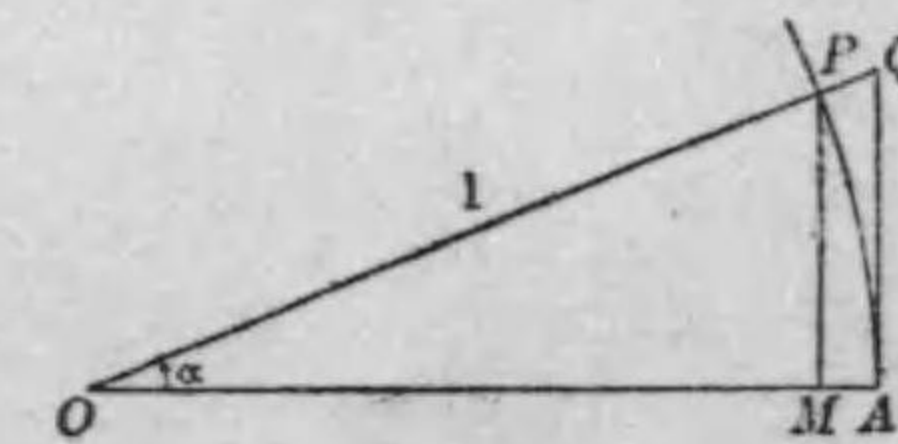
第二編第 5 款ニ示サレタ通り此反數モ極限 1 ヲ有ス。

(4) ノ他ノ證明. 分圓

OAP ノ面積ハ  $\frac{1}{2} a$  デアル。

ソレガ三角形 OMP ト

OAQ トノ間ニアリ, ソレカラ



$$\frac{1}{2} \sin a \cos a < \frac{1}{2} a < \frac{1}{2} \tan a,$$

或ハ  $\cos a < \frac{a}{\sin a} < \frac{1}{\cos a},$

$a$  が 0 に近づくとき両端の項は 1 に近づくから中央の項も亦然らざら得スカラデアル, *q. e. d.*

表カラ  $\sin 4^\circ 40' = 0.814$ , 「ラジアン」ニテ計リタル  $a$  ハ 0.814 ナル故ニ  $\sin a$  ハ  $a$  トハ三ツノ有効数字相等シク  $1/800$  ヨリ小ナル誤差ヲ有スルノミデアル.

[注意] 上ニハ「ラジアン」法ヲ用ヒタ, 一般ニカヤウニスルニハ理由ガアル. モシ度数ヲ用ヒルト

$$\frac{\Delta x}{360} = \frac{\overset{\sim}{PP'}}{2\pi}, \text{ 或ハ } \Delta x = \frac{180}{\pi} \overset{\sim}{PP'},$$

依ツテ (3) ハ

$$\frac{\Delta y}{\Delta x} = \frac{\pi}{180} \cdot \frac{QP'}{\overset{\sim}{PP'}}$$

微分法ノ公式ハ

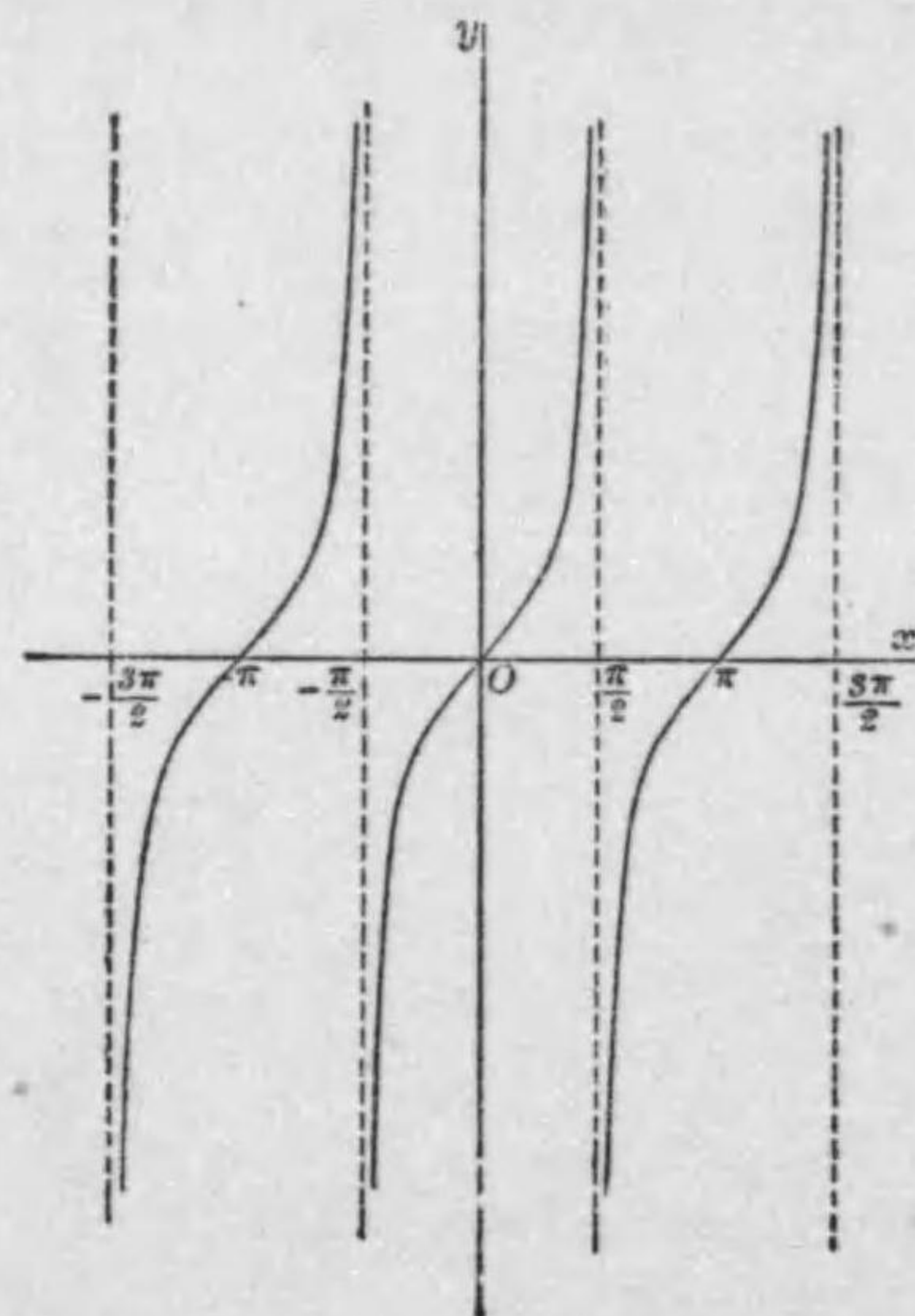
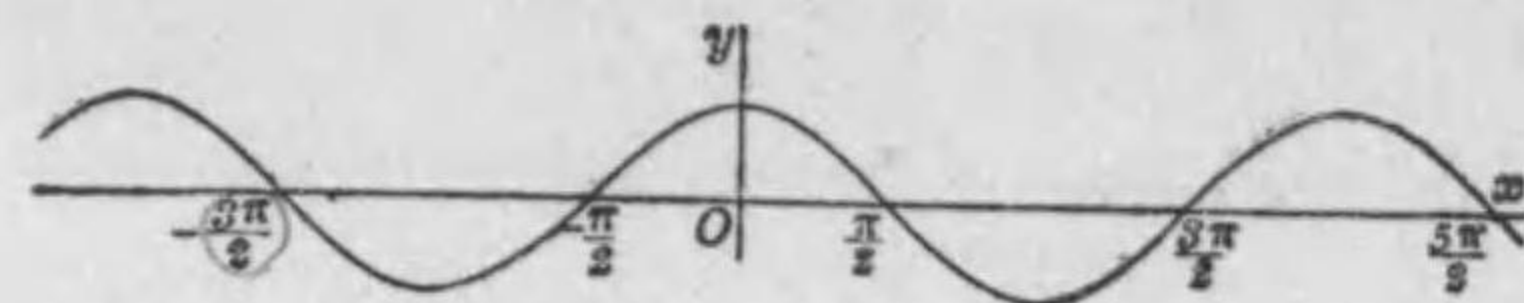
$$D_x \sin x = \frac{\pi}{180} \cos x$$

トナル. 微分スル毎ニ此常数ヲ乗ズルノ勞ヲ避クルタメニ「ラジアン」法ヲ用フル.

2.  $\cos x, \tan x$  等ノ微分法  $\cos x$  ヲ微分スルニハ

$$x = \frac{\pi}{2} - y$$

ト置ク



ソレデアルト.

$$\cos x = \sin y$$

$$D_x \cos x = D_x \sin y = D_y \sin y D_x y = -\cos y$$

$$(7) \quad \therefore D_x \cos x = -\cos y.$$

$\tan x$  ヲ微分スルニハ

$$\tan x = \frac{\sin x}{\cos x}$$

トスル. 従テ



$$D_x \tan x = \frac{\cos^2 x - \sin x (-\sin x)}{\cos^2 x} = \frac{1}{\cos^2 x}.$$

$$(8) \quad \therefore D_x \tan x = \sec^2 x$$

## 演習

1. 次ノコトヲ證明セヨ:

$$(a) \quad D_x \cot x = -\csc^2 x.$$

$$(b) \quad D_x \sec x = \sin x \sec^2 x.$$

$$(c) \quad D_x \csc x = -\cos x \csc^2 x.$$

$$(d) \quad D_x \text{vers } x = \sin x. \quad (\text{vers } x = 1 - \cos x)$$

次ノ函数ヲ微分セヨ.

$$2. \sin 2x.$$

$$6. 1 - \sin x.$$

$$10. \cos^2 x.$$

$$3. \cos 2x.$$

$$7. x - \tan x.$$

$$11. \sec^2 x.$$

$$4. \tan \frac{x}{2}.$$

$$8. x \sin x.$$

$$12. \sin x \cos x.$$

$$5. \frac{\sin x}{a + b \cos x}.$$

$$9. \frac{1}{a \sin x + b \cos x}$$

$$13. \frac{1 - \cos x}{1 + \cos x}.$$

14. 74頁ノ圖ニ於テ直線デ分子, 分母ヲ表ハシ, 次ニ三角法變化デ  $1 - \cos a$  ヲ半角  $a/2$  ノ項デ表ハシ

$$\lim_{a \rightarrow 0} \frac{1 - \cos a}{a} = 0$$

ナルコトヲ證明セヨ.

## 3. 反函数 與ヘラレタ函数

$$y = f(x)$$

ヲ  $x$  ニ就テ解ヒテ得タ

$$x = \phi(y)$$

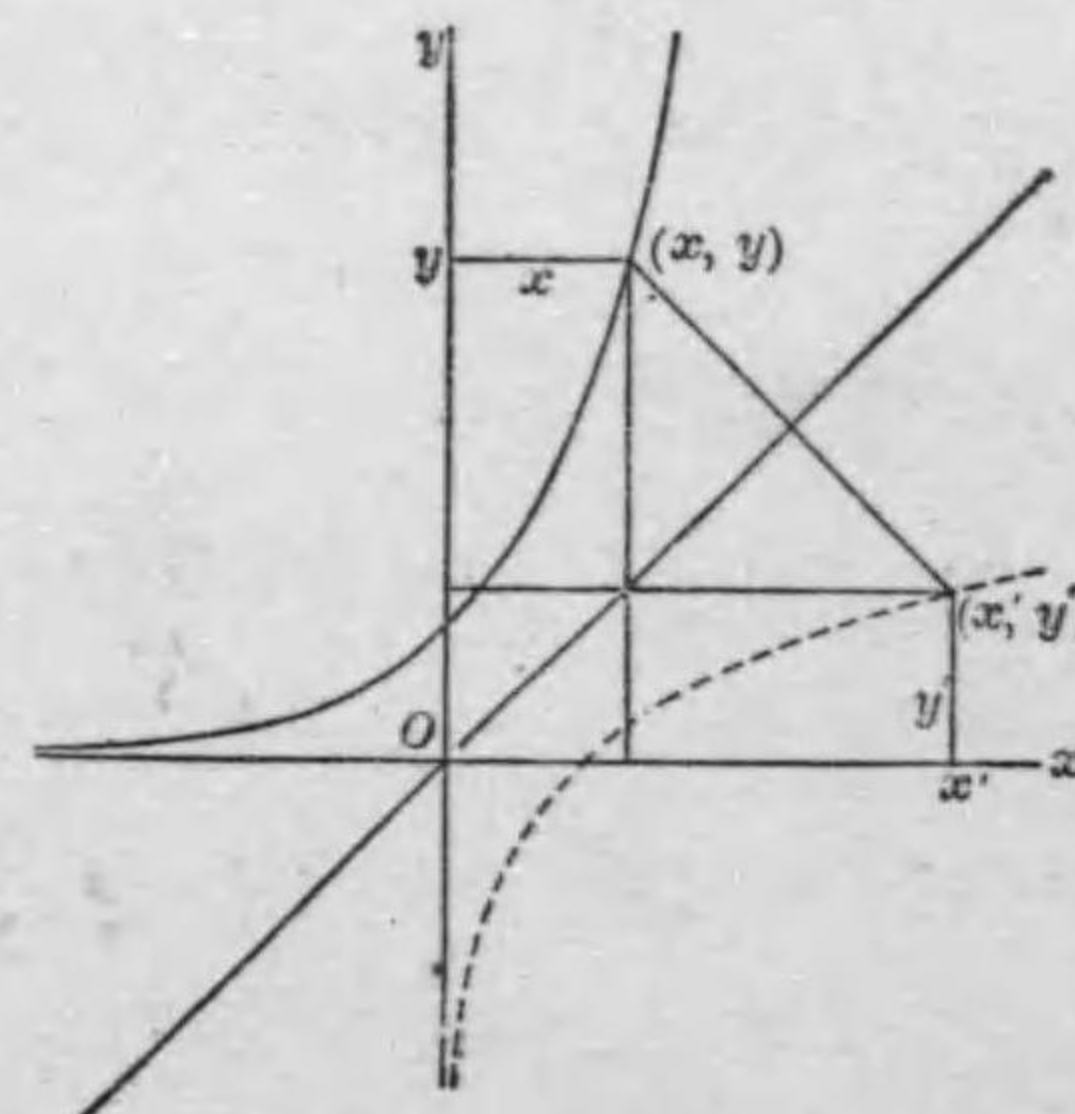
ヲ  $f(x)$  ナル函数ノ反函数ト云フ. 前ノ函数ノ「グラフ」ハ後ノ函数ノ「グラフ」ヲ作ルタメノ用ニ供セラル ( $y$  ヲ獨立變數,  $x$  ヲ屬變數トシテ).  $x$  ヲ獨立變數トシテ反函数ヲ作ルニハ  $x, y$  ナル平面ヲ變形シ, 次ノヤウナ圖ヲ作ルノデアアル.

$$x = y', \quad y = x'.$$

コレハ正ナル軸ノナス角ノ二等分線ノ周リニ  $180^\circ$  ダケ廻轉セシメルノデアアル. 之ヲ他ノ語デ云ヘバ二等分線ニ平面ヲ反射セシメルノデアアル.

反函数ノ例ハ既ニ第二編ノ第8款デ  $x^{\frac{1}{q}}$  ナル根數ノ例デ出合ツタモノデアアル.

$x$  ノ増加ノタメニ常ニ  $y$  ガ増加(或ハ常ニ減少) スルノナラバ反函数ハ單値デアアル.



此場合ニ於テ反函数ノ微係數ハ反函数ノ定義カラ得ラレル, 即チ

$$x = f(y) \quad \text{ナラバ} \quad y = \phi(x)$$

ト

$$\frac{\Delta y}{\Delta x} = \frac{1}{\frac{\Delta x}{\Delta y}}$$

ナル關係カラ得ラレル。

ソレカラ  $D_y x \neq 0$  ナレバ、

$$\lim_{\Delta x \neq 0} \frac{\Delta y}{\Delta x} = \lim_{\Delta y \neq 0} \frac{1}{\frac{\Delta x}{\Delta y}}, \quad D_x y = \frac{1}{D_y x}$$

4. 反三角函数. (a)  $\sin^{-1} x$ 

コレハ

$$(1) \quad y = \sin x$$

ノ反函数デアルカラ第3款ヲ説明シタヤウニ、此方程式ヲ解イテ  $x$  ヲ  $y$  ノ函数カラ得ラレル、即チ

$$(1') \quad x = \sin^{-1} y \quad (\text{之レヲ } y \text{ ノアンチサイント讀ム})$$

此圖ヲ作ルニハ  $y = \sin x$  ノ圖ヲ正軸ノ二等分線ノ周リニ廻轉シテ出來ル。  $x = x' (-1 < x' \leq 1)$  ナル線ハ一點ヨリ多クノ點(無限ノ點)ニ於テ曲線ニ交ル。シカシ微分法ノ多クノ目的ノタメニ(2)ナル函数ノ一値ヲ有スルモノヲ取り來リテ論ズルノヲ承認セラレ且ツ有益デアルカラ簡單ニ  $-\pi/2$  ト  $\pi/2$  トノ間ニアル値ヲ取り來リ、 $\sin^{-1} x$  ハ單値函数トシテ取扱フ。次ノ圖ノ部分ノフトキ線ヲ示サル、此後何等ノ説明ナキ

トキハ之ヲ指示スルモノト約束ス。

即チ

$$(3) \quad y = \sin^{-1} x \quad \text{ハ}$$

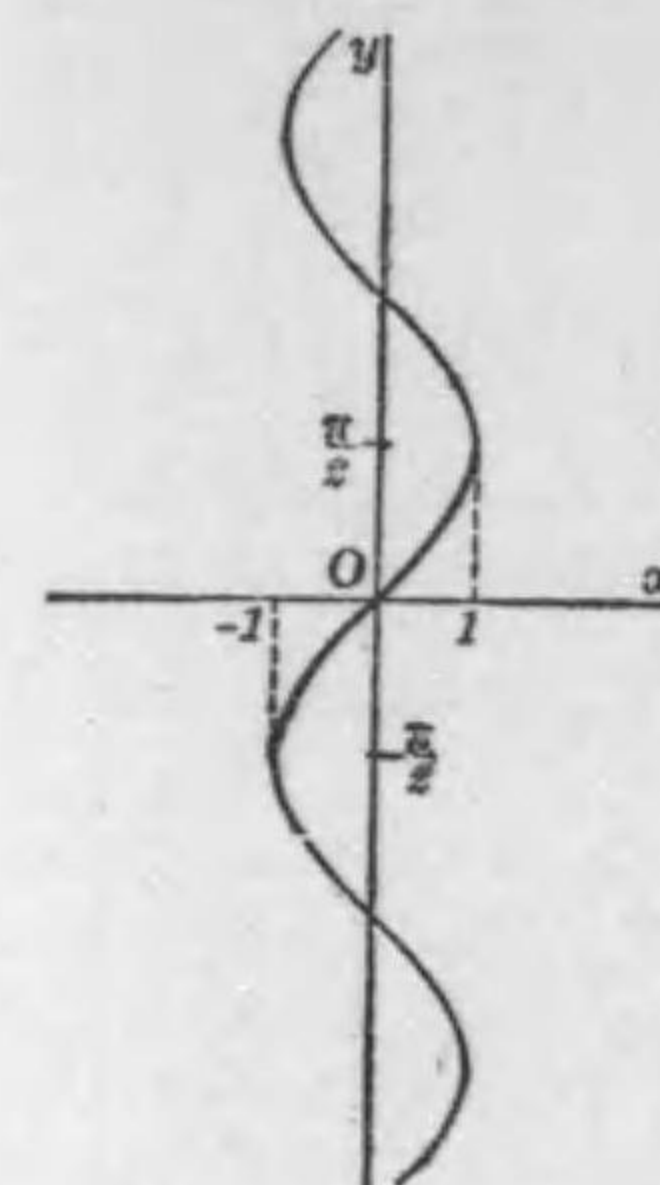
$$(3') \quad x = \sin y. \quad -\frac{\pi}{2} \leq y \leq \frac{\pi}{2}$$

ニ同値ナリ

特別ニ

$$\sin^{-1} 0 = 0, \quad \sin^{-1} 1 = \frac{\pi}{2},$$

$$\sin^{-1}(-1) = -\frac{\pi}{2}.$$



(3) ナル函数ヲ微分スルニハ陰函数狀ニ書イタ(3')ヲ微分スルニアリ、即チ

$$D_x x = D_x \sin y = D_y \sin y D_x y,$$

$$1 = \cos y D_x y \quad \therefore D_x y = \frac{1}{\cos y}.$$

$$\text{今} \quad \sin^2 y + \cos^2 y = 1 \quad \text{或ハ} \quad \cos^2 y = 1 - \sin^2 y$$

(3') ノ如ク制限セラレタ  $y$  ノ値ニ對シテ  $\cos y \geq 0$  デアルカラ

$$D_x \sin^{-1} x = \sqrt{1-x^2} \quad \text{ノ}$$

$$\text{代リニ} \quad (4) \quad D_x \sin^{-1} x = \frac{1}{\sqrt{1-x^2}}.$$

(b)  $\cos^{-1} x$  ハ同ジ様ニ微分セラレル。

(5)  $y = \cos^{-1} x$  即チ  $x = \cos y$  トス。

(6)  $0 \leq y \leq \pi$  ト云フ關係ヲ満足スル  $y$  ノ値ヲ選ミテ單值的ノ反函数ヲ作り  $\cos^{-1} x$  ヲ微分スルト

$$D_x x = D_x \cos y = D_y \cos y D_x y,$$

$$1 = -\sin y D_x y$$

$$(7) \quad D_x \cos^{-1} x = -\frac{1}{\sqrt{1-x^2}}$$

ヲ得.

(3'), (6) ナル制限ノ下ニ  $\sin^{-1} x, \cos^{-1} x$  ハ

$$(8) \quad \cos^{-1} x = \frac{\pi}{2} - \sin^{-1} x$$

ソレカラ直接ニ (8) ヲ微分シテ (7) ヲ得ル.

(c)  $\tan^{-1} x$  ヲ微分スルニハ

$$(9) \quad y = \tan^{-1} x, \quad \text{即チ} \quad x = \tan y$$

ニ於テ

$$(10) \quad -\frac{\pi}{2} < y < \frac{\pi}{2}$$

ナル制限ニテ  $y$  ヲ取ル.

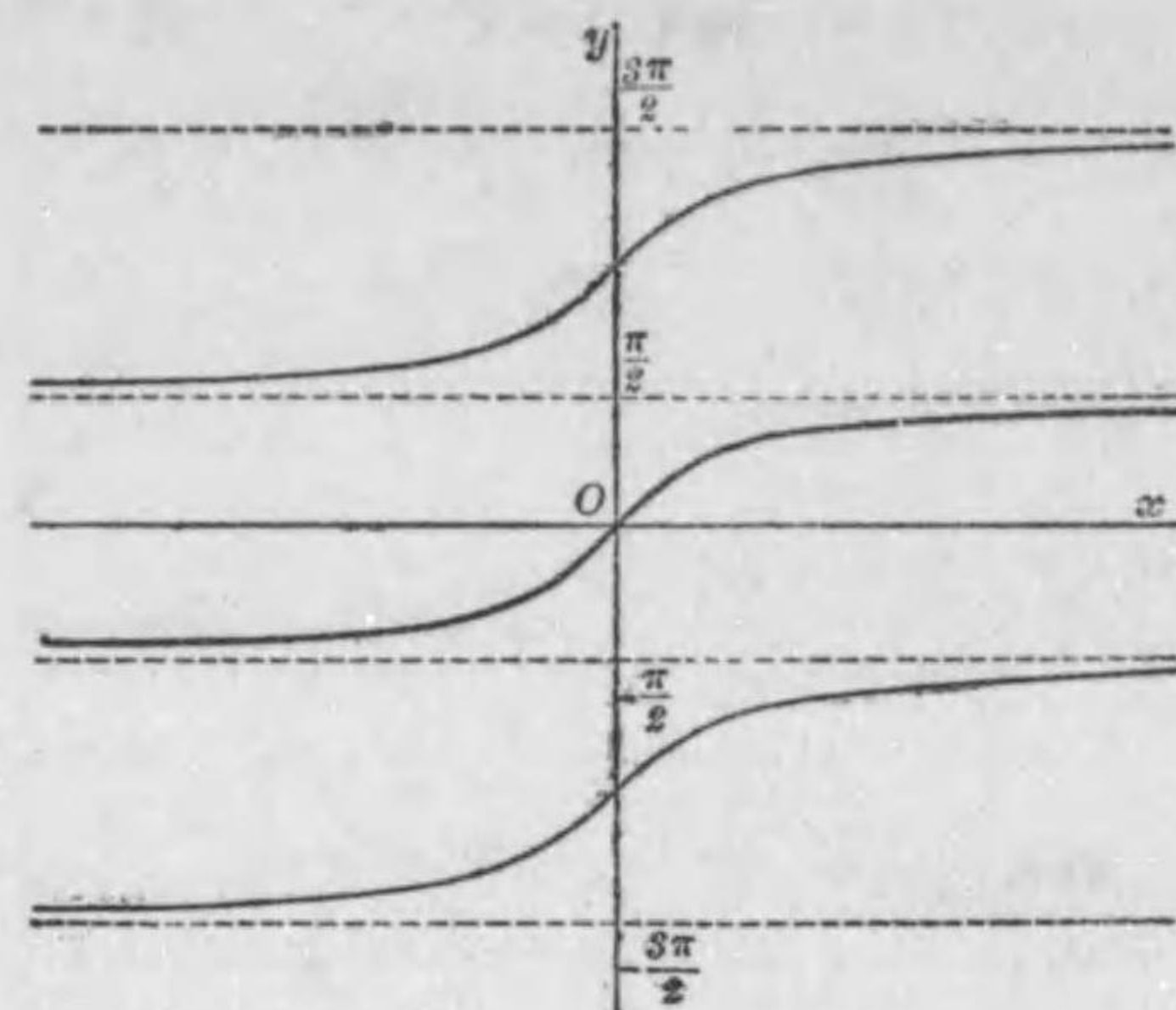
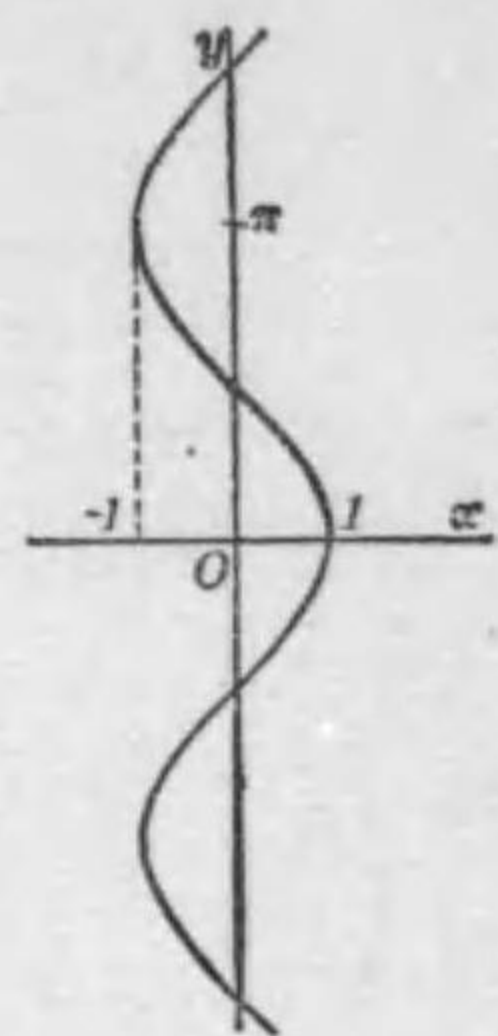
$\tan^{-1} x$  ヲ微分スルニハ陰函数狀ヲ用フ:

$$D_x x = D_x \tan y = D_y \tan y D_x y$$

$$1 = \sec^2 y D_x y,$$

$$(11) \quad D_x \tan^{-1} x = \frac{1}{1+x^2}.$$

他ノ反三角函数ハ同ジ仕方ヲ取扱ハレル. 大陸デハ



$\sin^{-1} x, \tan^{-1} x \dots \dots$  ハ  $\text{arc sin } x, \text{arc tan } x \dots \dots$  ト書カレル.

[注意] 反三角函数ハ衆價函数ナレドモ其内  $\sin^{-1} x$  ハ  $-\frac{\pi}{2}$  ト  $+\frac{\pi}{2}$  トノ間ニ取り,  $\cos^{-1} x$  ハ  $0$  ト  $\pi$  トノ間ニ取り,

$\tan^{-1} x$  ハ  $-\frac{\pi}{2}$  ト  $\frac{\pi}{2}$  トノ間ニ取りタルモノヲ主要値ト云フ.

加法定理ニ相當シテ反函数ノ基礎ノ關係ガアル, 例ヘバ  $\tan^{-1} x$  ニ就テ

$$\tan^{-1} u + \tan^{-1} v = \tan^{-1} \frac{u+v}{1-uv}.$$

シカシ此關係ハ函数ノ主要値ヲ取ルトキ必シモ眞デナイカラソレヲ用ヒナイノガヨロシイ. シカシ  $u$  ト  $v$  トガ何レモ  $1$  ヨリ小デアルト主要値ハ上ノ公式ニ用ヒラレル.

## 演習

1. (a)  $\cot^{-1} x = \tan^{-1} \frac{1}{x}$ , (b)  $\cot^{-1} x = \frac{\pi}{2} - \tan^{-1} x$ . フ證明セヨ.

2. 次ノ公式ヲ證明セヨ

$$(a) D_x \cot^{-1} x = -\frac{1}{1+x^2},$$

$$(b) D_x \sec^{-1} x = \frac{1}{x\sqrt{x^2-1}}, \text{ 但シ } 0 < \sec^{-1} x < \pi.$$

$$(c) D_x \csc^{-1} x = \frac{-1}{x\sqrt{x^2-1}}, \text{ 但シ } -\frac{\pi}{2} < \csc^{-1} x < \frac{\pi}{2}.$$

$$(d) D_x \operatorname{vers}^{-1} x = \frac{1}{\sqrt{2x-x^2}}, \text{ 但シ } 0 \leq \operatorname{vers}^{-1} x \leq \pi.$$

各場合ニ於テザツト函数ノ「グラフ」ヲ書ケ.

3. 次ノ函数ヲ微分セヨ.

$$(a) \sin^{-1} \frac{x}{2}. \quad (b) \tan^{-1} \frac{x}{a}. \quad (c) \cos^{-1} 2x.$$

5. 對數及指數. 第二編第8款ニ於テ  $n$  ノ一般ノ値ヲ有スル  $x$  ガ變數ナル函数

$$y = x^n$$

ヲ論ジタ. 縦線ニ平行ナル直線デ其圖ノ曲線ノ群ヲ切ツタトセン, 即チ

$$x = a, \quad a > 1$$

トセバ交點ノ或一ツノ縦線:

$$(1) \quad y = a^n$$

ニシテ  $n$  ガ定マルトキ其値ハ定マルカラ  $n$  ノ函数デアル. 32 頁ノ定理カラ  $n$  ガ増加スルト  $y$  モ増加ス. 又  $y$  ハ常ニ正ニシテ  $n = +\infty$  デアルト限リナク大キクナリ,  $n = -\infty$  デアルト  $0$  ニ近ヅク.

尙  $n$  ガ可度量デアルトキノミ (1) ナル函数ハ定メラレテアル. 例ヘバ  $n = \sqrt{2}$  デアルト, ドンナ値ヲ有スルデアラウカ.  $n$  ガ有理數ヲ通過スルトモ極限トシテ  $\sqrt{2}$  ニ近ヅクデアラウ, 從テ  $a^n$  モ一定ノ極限ニ近ヅク,  $a^{\sqrt{2}}$  ハ此極限トシテ定ム.

$$\lim_{n \rightarrow \sqrt{2}} a^n = a^{\sqrt{2}}.$$

指數ガ他ノ不可度量ナルトキ同様ニ取扱ハル.

カヤウニ定メラレタ函数

$$(2) \quad y = a^x$$

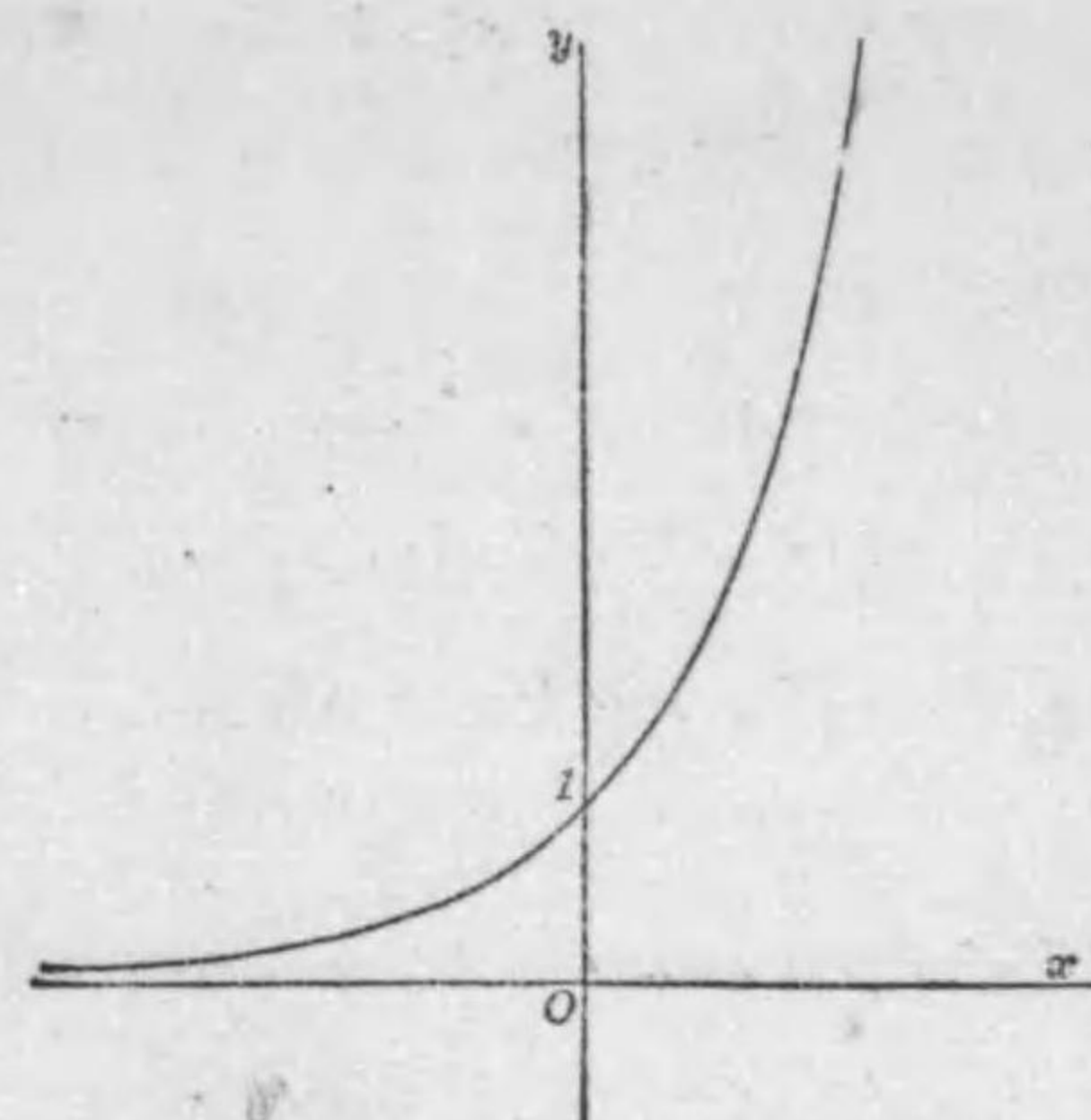
ハ連續ナリ.  $a = 2.72$  ナル特別ノ場合ニ於ケル圖ハ次圖ニ示サル.

指數函数ノ重ナル性質ハ加法定理

$$(I) \quad a^{u+v} = a^u a^v$$

デアル且ツ

$$(II) \quad (a^u)^v = a^{uv}.$$

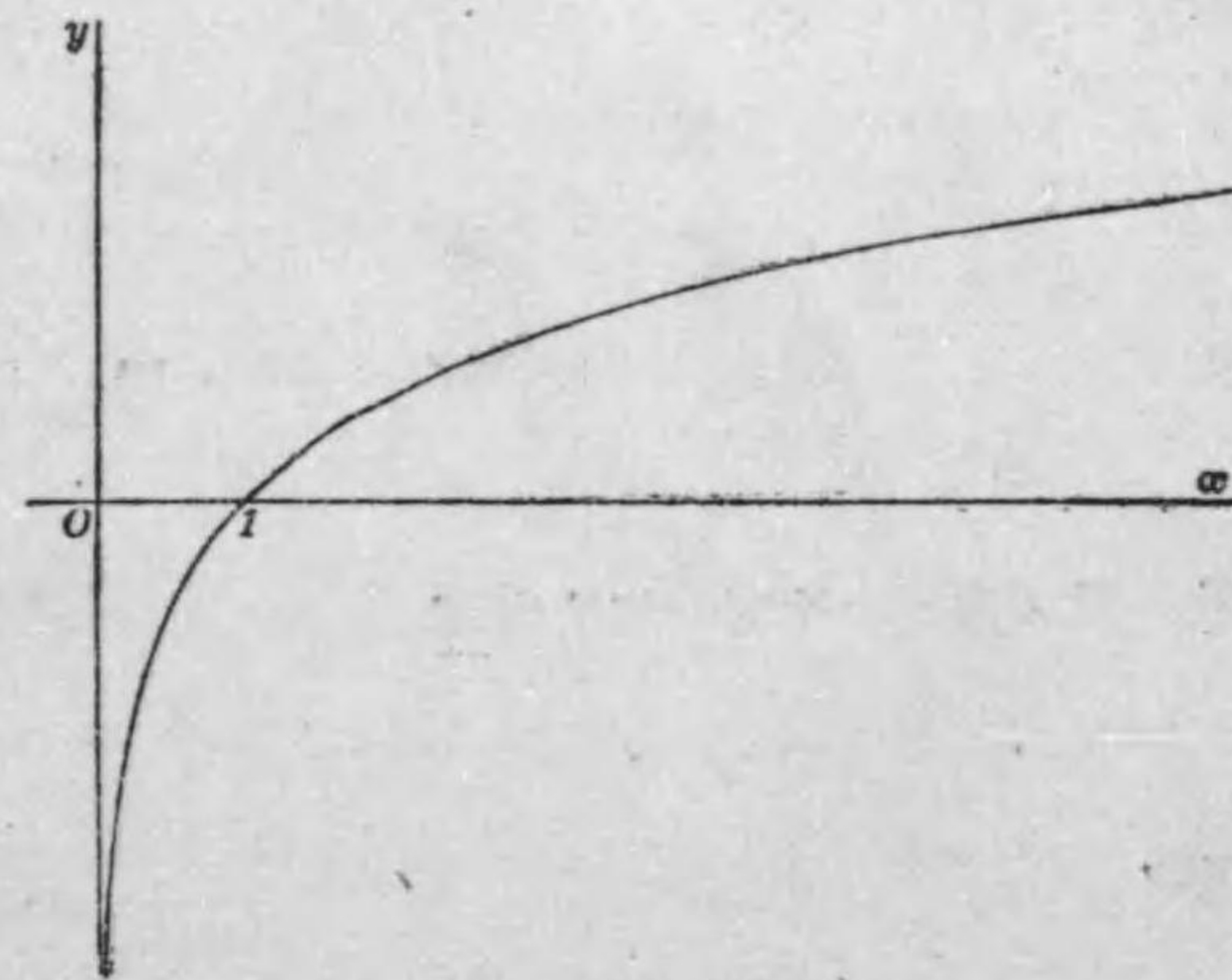


指數函数ノ逆ハ對數デアル,  $x = a^y$  ナルトキハ

$$(3) \quad y = \log_a x$$

$x$ ノ正ナル値ニ就テ單値テ、連續デアル。又

$$\log_a 1 = 0, \log_a a = 1, \log_a 0 = -\infty, \log_a (+\infty) = +\infty$$



「グラフ」ハ正軸ノ二等分線ニ反射シテ次ニ反轉シテ  $y = a^x$  ノ圖カラ作ルコトガ出來ル。

對數ノ性質ハ I ト II トカラ出テ來ル、即チ

$$(A) \quad \log_a x + \log_a y = \log_a xy,$$

$$(B) \quad \log_a x^n = n \log_a x,$$

$$(C) \quad \log_a x = \frac{\log_b x}{\log_b a}.$$

コレハ初等代數學テ證明セラルコトデアルカラ略スルコト  
スル、但シ (c) ハ底ガチガツテキル對數ヲ比較スルノニ用ヒ  
ルデアル。此 (c) ハ第二編ノ (V'') ノ公式ト似テキルカラ記  
憶スルノニ困難ハナイ。今此 (c) ダケ證明シヤウ

$$(a) \quad u = \log_a x \quad \text{或ハ} \quad x = a^u$$

$$(\beta) \quad v = \log_b x \quad \text{或ハ} \quad x = b^v$$

$$(\gamma) \quad c = \log_b a \quad \text{或ハ} \quad a = b^c$$

トシ

$$u = \frac{v}{c}$$

ナルコトヲ證明スレバヨロシ。

( $\gamma$ ) カラ

$$b = a^{\frac{1}{c}},$$

( $\beta$ ) ノ  $b$  ノ代リニ此値ヲ用フレバ

$$x = a^{\frac{v}{c}}$$

(a)ノxノ代リニ此値ヲ用フルト

$$a^u = a^{\frac{v}{c}}$$

今各對數ヲ取ルト,

$$u = \frac{v}{c} \dots\dots\dots q. e. d.$$

特ニ  $x = b$  ト置クトキハ (c) ハ

$$(4) \quad \log_a b = \frac{1}{\log_b a}$$

トナル.

次ノ恒等式ハ度々用ヒラレル, 即チ (3)  $y$  ノ値ヲ  $x = a^x$  ノ  $y$  ニ置キ換ヘルノデアアル.

(5)

$$x = a^{\log_a x}$$

又 (6)

$$x^n = a^{n \log_a x}$$

今迄ハ  $a$  ガ 1 ヨリ大ナリトシタ.  $0 < a < 1$  ノ場合ニハ  $y = a^x$  ノ「グラフ」ヲ縦線ニツキ反轉セシメ,  $y = \log_a x$  ノ「グラフ」ヲ横線ニツキ反轉セシメルト得ラレル.

### 演習

此演習題ハ初等代數學デスルコトデアアルカラ略ス. 例へ

ハ

$(a^x)^y$  ト  $(a^y)^x$  トハ同ジキカ否カ.

### 6. $\log x$ ノ微分法. 函数

$$y = \log x$$

ヲ微分スルコトヲ示ソウ

微分商ヲ作ランニ:

$$(7) \quad \frac{\Delta y}{\Delta x} = \frac{\log_a(x_0 + \Delta x) - \log_a x_0}{\Delta x} = \frac{\log_a\left(1 + \frac{\Delta x}{x_0}\right)}{\Delta x}$$

$\Delta x$  ガ 0 ニ近ヅクトキ如何ナル極限ヲ有スルカラ見ンニ,

$$\frac{x_0}{\Delta x} = \mu$$

トスルト, 上ノ式ハ

$$(8) \quad \frac{1}{x_0} \cdot \frac{x_0}{\Delta x} \log_a\left(1 + \frac{\Delta x}{x_0}\right) = \frac{1}{x_0} \mu \log_a\left(1 + \frac{1}{\mu}\right) \\ = \frac{1}{x_0} \log_a\left[\left(1 + \frac{1}{\mu}\right)^\mu\right],$$

$\Delta x$  ガ 0 ニ近ヅクトキ  $\mu$  ハ無限大トナルカラ, 問題ハ

$$\lim_{\mu \rightarrow \infty} \left(1 + \frac{1}{\mu}\right)^\mu$$

ヲ求ムルコトナル.  $\mu$  ガ唯正ナル整数ヲ通過スルモノトシ, 即チ

$$\mu = n, \quad n = 1, 2, 3, \dots\dots$$

トシ

$$\phi(\mu) = \left(1 + \frac{1}{\mu}\right)^\mu$$

トセバ, 計算ニテ

$$\phi(1) = 2,$$

$$\phi(2) = 2.25,$$

$$\phi(3) = 2.37,$$

$$\phi(10) = 2.59,$$

$$\phi(100) = 2.70,$$

$$\phi(1000) = 2.72,$$

$$\phi(10000) = 2.72,$$

$n$  が増加スルトキ  $\phi(n)$  は増加スレドモ、3 より小ナル或數ヨリ大ナルコトハナイ。コレハ如何ホド  $n$  ヲ大キクシテモ、ソウダト云フコトガワカル。二項定理:

$$(a+b)^n = a^n + na^{n-1}b + \frac{n(n-1)}{1 \cdot 2} a^{n-2}b^2 + \dots$$

ニ依ツテ

$$\begin{aligned} \phi(n) &= \left(1 + \frac{1}{n}\right)^n = 1 + n \left(\frac{1}{n}\right) + \frac{n(n-1)}{1 \cdot 2} \left(\frac{1}{n}\right)^2 \\ &\quad + \frac{n(n-1)(n-2)}{1 \cdot 2 \cdot 3} \left(\frac{1}{n}\right)^3 + \dots + (n+1) \text{項マデ} \\ &= 1 + 1 + \frac{1 - \frac{1}{n}}{1 \cdot 2} + \frac{\left(1 - \frac{1}{n}\right)\left(1 - \frac{2}{n}\right)}{1 \cdot 2 \cdot 3} + \dots \end{aligned}$$

此等ノ項ハスベテ正ニシテ  $n$  ノ増加ト共ニ増加シ、又加フベキ項ノ數モ増ス。コノ二ツノ理由ノタメニ

$$\phi(n+1) > \phi(n).$$

次ニ  $\phi(n)$  ハ 3 より小ナリ、何トナレバ第二項以後ハ

$$1 + 1 + \frac{1}{2} + \frac{1}{2^2} + \frac{1}{2^3} + \dots + \frac{1}{2^{n-1}}$$

ヨリ小ナリ、而シテ此等比級數ノ總和ヲ求ムレバ

$$1 + \frac{1}{2} + \frac{1}{2^2} + \dots + \frac{1}{2^{n-1}} = \frac{1 - \left(\frac{1}{2}\right)^n}{1 - \frac{1}{2}} = 2 - \frac{1}{2^{n-1}}.$$

カヤウニ  $\phi(n)$  ハ  $n$  ノ増大シテモ  $3 - \frac{1}{2^{n-1}}$  ヨリ小サイカラ無論 3 ヨリ小サイ。

$$\frac{0}{0} \quad \dots \quad \frac{\phi(1)}{2}$$

$n$  ノ増大ト共ニ増大スル  $n$  ナル正整数ノ函数ガ或定マリタル  $A$  ヲ超過セスナラバ  $n = \infty$  ノトキ  $A$  ヨリ大デナイ或極限ガアル筈ナリ(第十二編第二款ヲ見ヨ)。ソレカラシテ  $\phi(n)$  ハ  $e$  ト云フ或極限ニ近ヅク(3 より大キクナイ)

$$(9) \quad \lim_{n \rightarrow \infty} \left(1 + \frac{1}{n}\right)^n = e.$$

此後

$$e = 2.718$$

ナルコトヲ示スデアラウ。

$\mu$  ガ無理數デ負數デアルトキハ  $\mu$  ガ連續的ニ變化シテ正ノ無限大ニナルトキ  $\phi(\mu)$  ハ極限  $e$  ニ近ヅクコトヲ示ソウ。

今  $\mu$  ハ

$$n < \mu < n+1$$

トシヤウ.

$$1 + \frac{1}{n+1} < 1 + \frac{1}{\mu} < 1 + \frac{1}{n}$$

$$\left(1 + \frac{1}{n+1}\right)^\mu < \left(1 + \frac{1}{\mu}\right)^\mu < \left(1 + \frac{1}{n}\right)^\mu$$

此不等式ノ左邊ノ $\mu$ ヲ $n$ トシ、右邊ノ $\mu$ ヲ $n+1$ トスレバ  
不等式ハ愈強サヲ増ス、即チ

$$\frac{\left(1 + \frac{1}{n+1}\right)^{n+1}}{1 + \frac{1}{n+1}} < \phi(\mu) < \left(1 + \frac{1}{n}\right)^n \left(1 + \frac{1}{n}\right)$$

$\mu$ ト $n$ トガ共ニ無限ニ大キクナルト複不等式ノ兩端ノ式  
ハ極限 $e$ ニ近ヅクカラ中央ノ式モ $e$ ニ近ヅク

$$\lim_{\mu \rightarrow 0+x} \phi(\mu) = e.$$

終リニ $\mu = -r$ トセバ

$$\begin{aligned} \left(1 + \frac{1}{\mu}\right)^\mu &= \left(1 - \frac{1}{r}\right)^{-r} = \left(\frac{r-1}{r}\right)^{-r} = \left(\frac{r}{r-1}\right)^r \\ &= \left(1 + \frac{1}{r-1}\right)^r = \left(1 + \frac{1}{r-1}\right)^{r-1} \left(1 + \frac{1}{r-1}\right). \end{aligned}$$

$\mu = -\infty$ ,  $r = \infty$ デアルト

$$\lim_{\mu \rightarrow -\infty} \phi(\mu) = e.$$

今(7)ト(8)ナル方程式ニ歸リ且ツ $\log_a x$ ハ連続函数デア  
ルコトヲ記憶スルト

$$\begin{aligned} \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta y}{\Delta x} &= \lim_{\mu \rightarrow \pm \infty} \left[ \frac{1}{x_0} \log \left(1 + \frac{1}{\mu}\right)^\mu \right] \\ &= \frac{1}{x_0} \log \left[ \lim_{\mu \rightarrow \pm \infty} \left(1 + \frac{1}{\mu}\right)^\mu \right] = \frac{1}{x_0} \log_a e \end{aligned}$$

下ノ記號ヲ取レバ

$$(10) \quad D_x \log_a x = \frac{\log_a e}{x}.$$

對數ノ底 $a$ ハ随意デアルカラ常數因數ヲ

$$\log_a e = 1$$

トス、即チ $a = e$ トスレバ

$$(11) \quad D_x \log_e x = \frac{1}{x}.$$

此底ノ $e$ ハ自然底トイハレル、又ソレヨリ出來タ對數ヲ自  
然對數又ハ「ナビーリアン」對數ト云フ、底ガ10デアル場合  
ノ常用對數ト區別スルタメニ時ニ此名ガアルノデアル。

微分ヤ積分ニハ自然對數ヲ用ヒルノハ公式ノ上ニ簡單デ  
アルカラデアル、ソレハ丁度角ヲ「ラジアン」法デ測ルノト能  
ク似テアル。

微積分法ニハ $e$ ヲ書カスコトニシテアル、即チ $\log x$ ト書  
イテ $\log_e x$ ヲ表ハシ、普通ノモノハ $\log_{10} x$ ト書ク。

7. 複利ノ法則. 上ノ(9)ナル公式ハ複利法ニ用フルコ  
トガ出來ル. 例ヘバ1000圓ノ6分利ヲ半年毎ニ計算スルト、  
一年ノ終リニハ



$$1000 \left(1 + \frac{0.06}{2}\right)^2$$

同様ニ一年ニ3回, 4回, ……ニ利息ヲ計算スルト一年ノ終リニハ

$$1000 \left(1 + \frac{0.06}{3}\right)^3, \quad 1000 \left(1 + \frac{0.06}{4}\right)^4, \dots$$

デアルカラ  $n$  回計算スルト一年ノ終リニハ

$$1000 \left(1 + \frac{0.06}{n}\right)^n.$$

$n$  ガ無限ニ大キクナルト

$$\phi(\mu) = \left(1 + \frac{1}{\mu}\right)^\mu$$

ハ  $\mu$  ノ無限大トナルトキ  $e$  ニ近ヅクカラ

$$1000 \left[\left(1 + \frac{0.06}{n}\right)^n\right]^{0.06}$$

トスレバ

$$1000 e^{0.06} = 1061.84$$

トナル, 即チ複利息ヲ何等損毛ナク計算シタモノデアル.

### 演習

1000 圓ヲ年4分ニテ10年間貸借スルトキ毎年利息ヲ計算シタルモノト, 連続的ニ利息ヲ計算シタルモノトノ差ヲ求めヨ.

答 5.88 圓ノ差

8.  $e^x, a^x$  ノ微分法.  $a^x, \log_a x$  ハ互ニ反スル函数デアル:

$$(12) \quad x = \log_a y \text{ デアルナラバ } y = a^x$$

特ニ

$$(13) \quad x = \log y \text{ デアルナラバ } y = e^x$$

$x$  ニ關シテ第一ノモノヲ微分スルト

$$D_x x = D_x \log y = D_y \log y D_x y, \quad 1 = \frac{1}{y} D_x y$$

$$(14) \quad \therefore D_x e^x = e^x,$$

同様ニ (12) ヲ取扱ヘバ

$$1 = \frac{\log_a e}{y} D_x y,$$

第5款ノ(4)ニ依ツテ

$$\log_a e = \frac{1}{\log_e a}$$

デアルカラ

$$(15) \quad D_x a^x = a^x \log a.$$

$n$  ガ無理數ナル  $x^n$  ノ微分法. 第5款(6)ニ依ツテ

$$x^n = e^{n \log x}.$$

今  $z = n \log x$  ト置ケバ

$$D_x x^n = D_x e^z = D_x e^z \cdot D_x z = e^z n \cdot \frac{1}{x} = n x^{n-1}$$

今ハ新ラシ極限ヲ値付ケルコトナシニ初歩ノ函数ノ或モノヲ微分スルコトガ出來ルヤウニ成ツタ, 何トナレバ第二編

ノ I—V ノ定理ノ助ケデ已ニ我々ノ所領ノ特別ノ公式ニ歸着セシメ得ルヤウニ成ツタカラデアアル。シカシ微分法ノ腕前デ要用ナル助力ガ微分法デ供給セラレルコトハ次ノ編デ示スデアラウ。此編ニ於ケル練習題モ其方法ガ示サレルマデ延期シヤウ。

### 演習

次ノ函數ヲ微分セヨ：

1.  $y = \log_{10} x$ .      答  $D_x y = \frac{0.4343}{x}$ .
2.  $y = 10^x$ .      答  $D_x y = 2.303 \times 10^x$ .
3.  $y = \log \sin x$ .
4.  $y = e^{\cos x}$ .
5.  $y = \log \tan \left( \frac{x}{2} + \frac{\pi}{4} \right)$ .      答  $D_x y = \frac{1}{\cos x}$ .

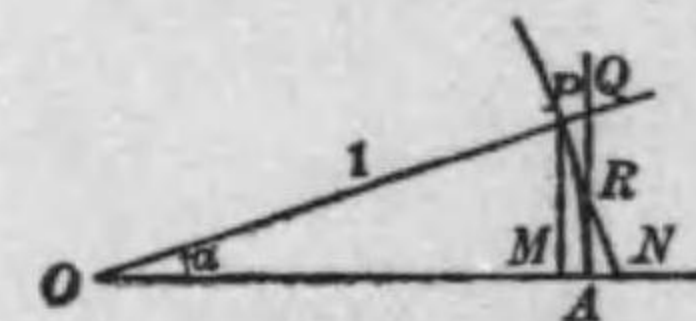
## 第五編

### 無限小及ビ微分

1. 無限小。無限小トハ數值的ニ小サイ値ノタメニ論ズル變量デアアル、而カモ從事シテアル問題ノ形式ガ或行程ニ進行シタトキ極限トシテ 0 ニ近ヅクコトヲ許容セラル、モノデアアル。

微分法ノ問題ニ於テ  $\Delta x$ ,  $\Delta y$  ハ無限小デアアル、何トナレバ  $\Delta x$  ハ其極限トシテ 0 ニ近ヅキ、 $\Delta y$  モ一般ニ 0 ニ近ヅクカラデアアル。又第四編ニ於テ  $\lim_{a \rightarrow 0} \frac{\sin a}{a}$  ヲ論ジタトキノ  $a$   $\sin a$  ハ無限小デアアル。

無限小ノ他ノ例ハ次ノ圖ヨリ見ルコトガ出來ル。



- (1)  $\alpha = \overset{\sim}{AP}$ ,       $\beta = AQ = \tan \alpha$ ,
- $\gamma = MA = 1 - \cos \alpha$ ,       $s = AN$ ,
- $\varepsilon = PQ$ ,       $\zeta = AQ + QP$ , 等

獨立變量トシテ選バレタ無限小ヲ主要無限小ト云フ。

二ツノ無限小  $\alpha$ ,  $\beta$  ノ比ガ主要無限小ガ 0 ニ近ヅクトキ 0 デナイ値ニ近ヅクト同級デアルトイハレル：

$$\lim \frac{\beta}{\alpha} = K \neq 0.$$

若シ其比が0ナル極限ニ近ヅクトキニハ  $\beta$  ハ  $a$  ヨリ高級  
ナリトイハレ、無限大デアルト低級ナリトイハレル。

例ヘバ  $\beta = \tan a$  デアルト

$$\frac{\beta}{a} = \frac{\tan a}{a} = \frac{1}{\cos a} \cdot \frac{\sin a}{a},$$

$$\therefore \lim_{a \rightarrow 0} \frac{\beta}{a} = 1 \neq 0,$$

故ニ  $\tan a$  ハ  $a$  ト同級デアル。

又  $\gamma = 1 - \cos a$  トスルト

$$\frac{\gamma}{a} = \frac{1 - \cos a}{a} = \frac{2 \sin^2 \frac{a}{2}}{a} = \sin \frac{a}{2} \cdot \frac{\sin \frac{a}{2}}{\frac{a}{2}},$$

然ルニ最後ノ分數ノ極限ハ1デアルカラ

$$\lim_{a \rightarrow 0} \frac{\gamma}{a} = 0,$$

其故  $1 - \cos a$  ハ  $a$  ヨリ高級デアル。

低級ノ無限小ノ例ハ  $\sqrt{a}$  デアル、何トナレバ

$$\frac{\sqrt{a}}{a} = \frac{1}{\sqrt{a}}, \quad \lim_{a \rightarrow 0} \frac{1}{\sqrt{a}} = \infty.$$

(之ヲ  $a$  ガ0ニ近ヅクト  $1/\sqrt{a}$  ハ無限大トナルト讀ム)

$\beta$  ト  $\gamma$  トガ同級デアルトキ或ハ  $\gamma$  ガ  $\beta$  ヨリ高級デアツテ

且  $\beta$  ガ  $a$  ヨリモ高級デアルト、 $\gamma$  ハ  $a$  ヨリ高級デアルトコトガ

ワカル。何トナレバ

$$\lim_{a \rightarrow 0} \frac{\gamma}{\beta} = K,$$

デアルカラ  $\frac{\gamma}{\beta} = K + \varepsilon$ ,  $\gamma = K\beta + \varepsilon\beta$ , 但シ  $\varepsilon$  ハ無限小デアル。

故ニ

$$\frac{\gamma}{a} = \frac{\beta}{a} (K + \varepsilon),$$

$\beta/a = 0$  ト云フ假定デアルカラ  $\lim \gamma/a = 0$ 。

同様ニ  $\beta$  ト  $\gamma$  トガ同級デアリ、 $\gamma$  ガ  $\beta$  ヨリ低級デアツテ且  
 $\beta$  ガ  $a$  ヨリ低級デアルナラバ  $\gamma$  ハ  $a$  ヨリ低級デアル。

$\beta/a^n$  ナル比ガ0デナイ極限ニ近ヅクト、 $a$  ガ主要無限小  
デアルナラ  $\beta$  ハ  $n$  級ノ無限小デアルトイハレル：

$$\lim_{a \rightarrow 0} \frac{\beta}{a^n} = K \neq 0.$$

例ヘバ  $a$  ガ主要無限小デアルト  $\sin a$ ,  $\tan a$  ハ一級ノ無  
限小、 $\sqrt{a}$  ハ  $\frac{1}{2}$  級ノ無限小、 $a^n$  ハ  $n$  級ノ無限小、 $1 - \cos a$  ハ二  
級ノ無限小デアル。何トナレバ

$$\frac{1 - \cos a}{a^2} = \frac{2 \sin^2 \frac{a}{2}}{a^2} = \frac{1}{2} \left[ \frac{\sin \frac{a}{2}}{\frac{a}{2}} \right]^2,$$

且 
$$\lim_{a \rightarrow 0} \frac{1 - \cos a}{a^2} = \frac{1}{2}$$

[定理] 二ツノ無限小  $a$  ト  $\beta$  トノ差ガ何レヨリモ高級ノ  
無限小ノ差デアルト

$$\lim \frac{\beta}{a} = 1.$$

逆ニ  $\lim \beta/a = 1$  デアルト  $a$  ト  $\beta$  トハ何レヨリモ高級ノ

無限小ノ差ヲ有スル、即チ

$$\beta - a = \varepsilon, \quad \lim \frac{\varepsilon}{a} = 0.$$

初メノ假定デ

$$\beta - a = \varepsilon, \quad \lim \frac{\varepsilon}{a} = 0.$$

デアルコトヲ證明スルタメ、初メノモノヲ  $a$  デ除スルト

$$\frac{\beta}{a} = 1 + \frac{\varepsilon}{a}$$

デアルカラ

$$\lim \frac{\beta}{a} = \lim \left(1 + \frac{\varepsilon}{a}\right) = 1, \dots \dots q. e. d.$$

逆ヲ證明スルタメ、 $\eta$  ヲ無限小トスルト、

$$\frac{\beta}{a} = 1 + \eta.$$

$a$  デ乗ズルト

$$\beta = a + \eta a, \quad \text{即チ } \beta - a = \eta a = \varepsilon.$$

此  $\varepsilon$  ハ  $a$  ヲヨリハ高級ノ無限小デアル、ソレノミデナク  $\beta$  ヲヨリハ高級デアル。

[定義]  $a$  ガ主要無限小デアリ且

$$\lim_{a \neq 0} \frac{\beta}{a} = K$$

デアルト、即チ

$$\frac{\beta}{a} = K + \varepsilon$$

ト書クト

$$\beta = Ka + \varepsilon a,$$

トナルカラ  $Ka$  ハ  $\beta$  ノ主要部分トイハレル。

## 演習

1.  $a - 2a^2$  ト  $3a + a^3$  トハ同級ノ無限小デアルコトヲ證明セヨ。
2.  $a - \sin a$  ハ  $a$  ヲヨリ高級デアルコトヲ證明セヨ。
3.  $a \sin a$  ハ第二級ノ無限小デアルコトヲ證明セヨ。
4. 97 頁ノ圖ノ PQ ト MA トハ同級ノ無限小デアルコトヲ證明セヨ。
5.  $a$  ニ關シテ AR ノ階級ヲ定メヨ。
6. AN ハ PQ ヲヨリ高級デアルコトヲ證明セヨ。
7. AQ ト MP ハ同級デアルコトヲ證明セヨ。
8.  $a$  ニ關シテ PQ ハ第二級デアルコトヲ證明セヨ。
9. 次ノ無限小ノ階級ヲ定メヨ：
  - (a)  $a + \sin a$ . (b)  $\sqrt{\sin a}$ . (c)  $\sqrt{1 - \cos a}$ .
10. ニツノ正ナル無限小ノ和(各第一級デアル)ハ第一級デアル、シカシ差ハ決シテ低級デナイコトヲ證明セヨ。差ガ高級デアルコトヲ示スタメノ例ヲ舉ゲヨ。

11. ニツノ無限小が同ジ主要部分ヲ有スルナラ、其差ハ何レカノ値ノ小サキ歩合デアアル、ソウシテ其歩合ハ無限小デアアル(主要部分が0デナケレバ)コトヲ證明セヨ。

2. 基礎ノ定理. 多クノ無限小ヲ其差ガ夫レ々々高級ノ無限小ナル他ノ無限小デ置キ換ヘルコトニ關スル基礎ノ定理ニツアリ、其中一ツハ本款ニ屬スルモノデ、他ハ第九編第6款ニ屬スルモノデアアル。

[定理] ニツノ無限小ノ比ノ極限ヲ取ルトキニ各々ヲ高級ノ無限小ダケ異ル他ノモノデ置キ換ヘ得ル、即チ

$$\lim \frac{\beta'}{\beta} = 1 \quad \text{及ビ} \quad \lim \frac{\gamma'}{\gamma} = 1$$

ナラバ 
$$\lim \frac{\beta}{\gamma} = \lim \frac{\beta'}{\gamma'}$$

トスルコトガ出來ル。

何トナレバ

$$\frac{\beta'}{\beta} = 1 + \varepsilon \quad \text{即チ} \quad \beta' = \beta(1 + \varepsilon)$$

及ビ 
$$\frac{\gamma'}{\gamma} = 1 + \eta \quad \text{即チ} \quad \gamma' = \gamma(1 + \eta),$$

但シ  $\varepsilon$  ト  $\eta$  トハ無限小デアアル。然ルトキハ

$$\frac{\beta'}{\gamma'} = \frac{\beta}{\gamma} \cdot \frac{1 + \varepsilon}{1 + \eta}$$

デアアルカラ

$$\lim \frac{\beta'}{\gamma'} = \left( \lim \frac{\beta}{\gamma} \right) \left( \lim \frac{1 + \varepsilon}{1 + \eta} \right) = \lim \frac{\beta}{\gamma}, \dots \dots q. e. d.$$

### 3. 極座標ニ於ケル切線

極座標デ曲線ノ

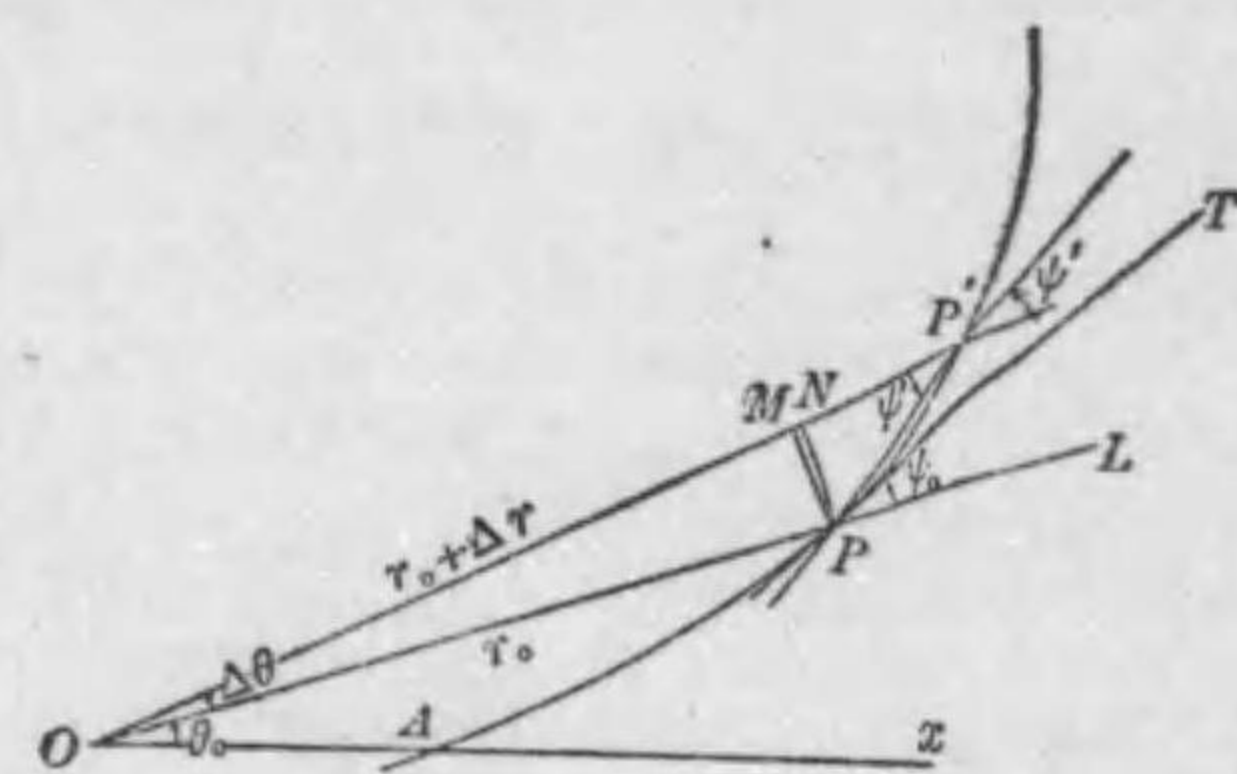
方程式ガ

$$r = f(\theta)$$

デアルトシヤウ。

切線ノ方向ヲ見

出シタイト思ヘバ又



ハ其延長「ベクター」ト切線トノナス角  $\Psi$  ヲ定メルヲガ出來タラヨロシイノデアアル。曲線ノ任意ノ點 P ノ極座標ヲ  $(r_0, \theta_0)$  トシ、曲線ノ近隣ノ點ヲ P' トシ其座標ヲ  $(r_0 + \Delta r, \theta_0 + \Delta \theta)$  トシテ弦 PP' ヲ引キ  $\angle OPP'$  ヲ  $\Psi'$  デ表ハス。然ルトキハ

$$\lim_{P' \rightarrow P} \Psi' = \Psi_0$$

$\Psi_0$  ヲ定メルタメニ P カラ OP' ナル「ベクター」ノ上ニ垂線 PM ヲ引キ、O ヲ中心トシテ PN ナル弧ヲ引ケバ直三角形 MP'P ニ於テ

$$\tan \Psi' = \frac{MP}{P'M}$$

ソレカラ 
$$\tan \Psi_0 = \lim_{P' \rightarrow P} \tan \Psi' = \lim_{P' \rightarrow P} \frac{PM}{P'M}$$

此最後ノ比ヲ、第2款ノ基礎ノ定理ニ依ツテ MP, P'M ヲ

便利ナル無限小ニ置キ換ヘ得ル。

$$MP = r_0 \sin \Delta\theta, \quad \therefore \lim_{\Delta\theta \rightarrow 0} \frac{MP}{r_0 \Delta\theta} = 1.$$

又

$$P'N = \Delta r \quad \therefore \lim_{\Delta\theta \rightarrow 0} \frac{P'M}{\Delta r} = 1$$

ソレカラシテ

$$\lim_{P \rightarrow P'} \frac{MP}{P'M} = \lim_{\Delta\theta \rightarrow 0} \frac{r_0 \Delta\theta}{\Delta r} = [r D_r \theta]_{\theta = \theta_0}$$

或ハ下ノ記號ヲ取リテ

$$(2) \quad \tan \Psi = r D_r \theta.$$

[例] 曲線

$$(3) \quad r = a e^{\lambda \theta} \quad a > 0$$

アリトシヤウ、コレハ  $\lambda = 0$  ナル場合ノ外ハ原點ノ周リニ非常ニ度々捲付キタル螺旋デアル。コヽニ

$$D_r r = a \lambda e^{\lambda \theta}, \quad D_r \theta = \frac{1}{D_r r} = \frac{1}{a \lambda e^{\lambda \theta}}, \quad \tan \Psi = \frac{1}{\lambda},$$

$$\text{或ハ } \cot \Psi = \lambda.$$

故ニ正切ハ常ニ延長シタ動徑ト同ジ角  $\cot^{-1} \lambda$  ヲナス。此ヲケデ曲線ヲ等角螺旋ト云フ。

## 演習

### 1. 曲線

$$r = \theta$$

ヲ作圖セヨ、又  $r = 2\pi$  デアルトキ第一ノ動徑ヲ截ル角ヲ定メヨ。

答  $\Psi = 81^\circ$  約

2. 極トシテ焦點ヲ取ル拋物線ノ方程式ハ

$$r(1 + \cos \theta) = m$$

デアル、 $\theta = 0$  ナルトキ  $\theta = \pi/2$  デアルトキ  $\Psi$  ノ値ヲ求メヨ。

3. 「カルジオイド」ノ方程式ハ

$$r = a(1 - \cos \theta)$$

デアル、 $\Psi$  ヲ求メヨ。

4. 微分.  $x$  ノ函數ヲ

$$y = f(x) \quad \dots \dots (1)$$

トシ、 $D_x y$  ヲ微係數トセヨ、即チ

$$\lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta y}{\Delta x} = D_x y$$

ナリ。今  $\varepsilon$  ヲ無限小トスレバ

$$\frac{\Delta y}{\Delta x} = D_x y + \varepsilon,$$

從テ

$$\Delta y = D_x y \Delta x + \varepsilon \Delta x.$$

$x$  ハ獨立變數デアルカラ  $\Delta x$  ハ主要無限小トシテ取ルコトガ出來ル、上ノ關係ハ  $\Delta y$  ハ其主要部分  $D_x y \Delta x$  ト高次ノ無限小  $\varepsilon \Delta x$  トノ和ニ等シキコトヲ表ハス。

[定義] (1) ナル函數ノ増加  $\Delta y$  ノ主要部分ハ  $y$  ノ微分ト稱セラレ、之ヲ  $dy$  デ表ハス。

(2)  $dy = D_x y \Delta x.$

特別 =  $f(x)$  ヲ  $x$  トスレバ (2) ハ

(3)  $dx = D_x x \Delta x = \Delta x.$

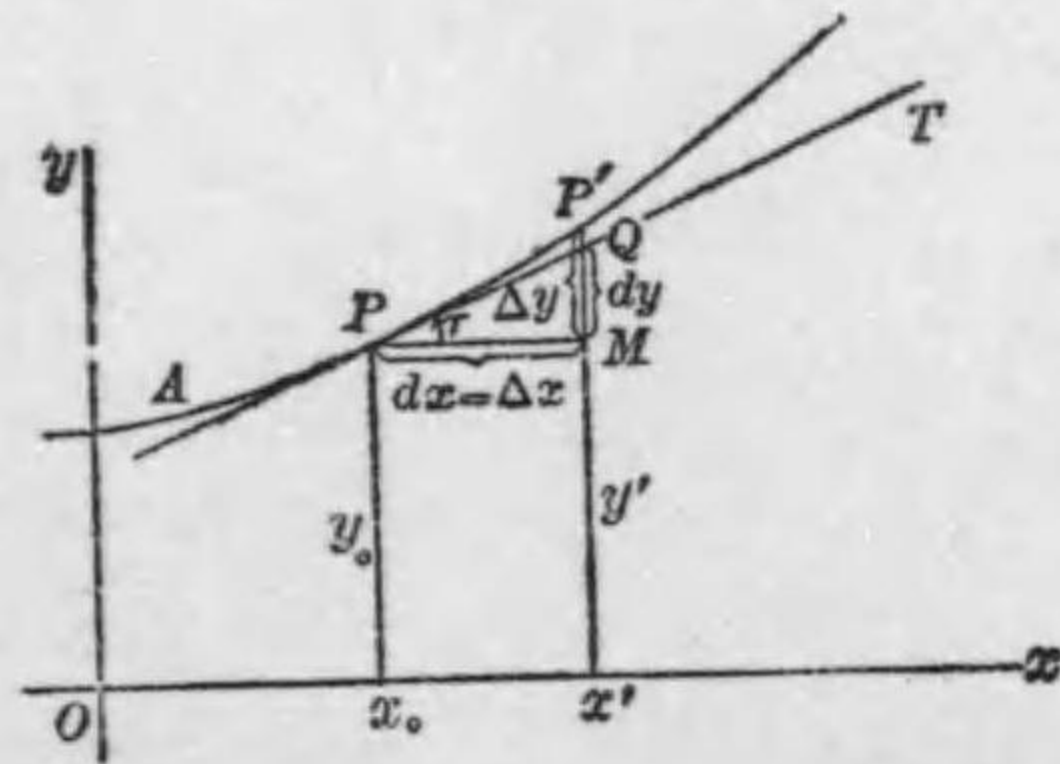
即チ獨立變數  $x$  ノ微分ハ其變數ノ増加ニ同ジ. シカシコレハ一般ニ屬變數ニ就テハ眞ナラズ, 何トナレバ  $\epsilon$  ハ一般ニ0デナイカラデアアル.

(3) ナル意味カラ (2) ハ次ノ形ニ書カレル:

(4)  $dy = D_x y dx.$

夫レカラシテ

$\frac{dy}{dx} = D_x y$



幾何學的ニイフト, 函數ノ増加  $\Delta y$  ハ  $MP'$  デ表ハサレルガ  $dy$  ナル微分ハ  $MQ$  ニ等シイ, ソウシテ  $\Delta y$  ト  $dy$  トノ差即チ  $QP'$  ハ  $PM = \Delta x$  ヨリ

モ高級ノモノデアアル. 三角形  $PMQ$  ハ  $T$  ニ關スルモノデアツテ

$\tan \tau = \frac{dy}{dx}.$

上ノ定義ニ於テ  $x$  ハ獨立變數トシテ採ラレ,  $\Delta x$  ハ主要無限小ト採ラレテアツタ.

次ノ定理ハ微分ノ理論ノ基礎デアアル.

[定理] (4) ナル關係ハ  $x$  ト  $y$  トヲ第三ノ變數  $t$  ノ函數ト

シテモ同様デアアル.

今  $x$  ト  $y$  トヲ第三變數  $t$  ノ函數トセン:

$x = \phi(t), \quad y = \Psi(t)$

此二ツノ方程式ノ間ニ  $t$  ヲ驅逐スルト (1) ナル函數ヲ得ル. 然ルトキハ上ノ定義ト一致シテ  $dx, dy$  ノ値ヲ得ル.

$t$  ハ獨立變數 ( $x$  デハナイ) デアルカラ  $\Delta t$  ハ主要無限小デアアル.

$dy = D_t y \Delta t, \quad dx = D_t x \Delta t.$

今

$dy = D_x y dx$

デアアルコトヲ證明シヤウト思フ. シカルニ

$D_t y = D_x y D_t x,$

$\Delta t$  ヲ乘ズルト

$D_t y \Delta t = D_x y \cdot D_t x \Delta t$

$\therefore dy = D_x y dx, \dots\dots\dots q. e. d.$

此定理ヲ以テ第二編ノ定理 V ノ用ヒハ全ク見エナクナル, ソレハ代數學的恒等式ノ形ヲ取ルカラデアアル:

$\frac{du}{dx} = \frac{du}{dy} \cdot \frac{dy}{dx}.$

此事實カラ微分法ノ言句ノ上ニ微分ヲ用ヒル重キ利益ガアル。

高次ノ微分. 同様ナ定義デ高次ノ微分ヲ導入スルコトガ出来ル。

$$d^2y = D_x^2 y \Delta x^2, \quad d^3y = D_x^3 y \Delta x^3,$$

シカシ第一級ノ微分ニ對シテ上ト類似ノ定理ガアルケレドモ, コヽニハ其レガ真デナイカラ第一級ノ微分ノ重モナル利益ハ損失デアアル。故ニ高級ノ微分ヲ導入スルコトヲ止メル, ソウシテ

$$\frac{d^2y}{dx^2}, \quad \frac{d^3y}{dx^3}, \dots$$

ハ比トシテハナク, 微係數ノ他ノ記法トシテ採用スル。

[注意]  $D_x$  ハ運算記號ハ  $\frac{d}{dx}$  トシテ微分形狀ニ書カレル,

即チ

$$\frac{d}{dx} \sqrt{\frac{x}{1-x}} \quad \text{ハ} \quad D_x \sqrt{\frac{x}{1-x}}$$

ヲ意味ス, 他ノモノニ於テモ同様デアアル。

5. 微分法ノ技術. 第二編ノ I—IV ナル定理ヲ微分ヲ用ヒテ書クト次ノヤウデアアル:

微分法ノ一般ノ公式

I.  $d(cu) = c du.$

II.  $d(u+v) = du + dv.$

III.  $d(uv) = u dv + v du.$

例トシテ

$$D_x(cu) = c D_x u, \quad \text{即チ} \quad \frac{d(cu)}{dx} = c \frac{du}{dx}$$

尙唯之ヲ  $dx$  デ乗ズルノミデアアル。又已ニ定理 V ノ消失ヲ注意シタ。

上ノモノニ第二編ノ特種ノ公式ト定理 IV ヲ加ヘネバナラス。初メヨリ作成シタ微係數ノ外ニ僅少ノモノヲ含マセルコトガ必要デアアル。

微分ノ特種ノ公式

1.  $dc = 0.$
2.  $dx^n = nx^{n-1} dx.$
3.  $d \sin x = \cos x dx.$
4.  $d \cos x = -\sin x dx.$
5.  $d \tan x = \sec^2 x dx.$
6.  $d \log x = \frac{dx}{x}.$
7.  $de^x = e^x dx.$
8.  $d \sin^{-1} x = \frac{dx}{\sqrt{1-x^2}}.$
9.  $d \tan^{-1} x = \frac{dx}{1+x^2}.$

此後ノモノハ多少容易デアアル。或學生ハ之ヲ公式中ニ含



マセタイト思フデアラウ:

$$10. \quad d \cos^{-1} x = \frac{-dx}{\sqrt{1-x^2}}.$$

$$11. \quad d \operatorname{vers}^{-1} x = \frac{dx}{\sqrt{2x-x^2}}.$$

$$12. \quad da^x = a^x \log a \, dx.$$

然レドモ簡單ナルタメニ却テ誤リ易イノデアル.

上述ノモノ、結合カラ出來タ所謂初歩ノ函数ハ公式ノ二組ノ助ケデ微分スルコトガ出來ル。今例ヲ以テ微分ノ用ヲ説明シヤウ。

[例 I]  $y = \sqrt[3]{a^2-x^2}$  ヲ微分スルコト。

今  $z = a^2-x^2$  トセヨ。

$$y = z^{\frac{1}{3}},$$

トナルカラ

$$dy = dz^{\frac{1}{3}} = \frac{1}{3} z^{-\frac{2}{3}} dz = \frac{1}{3} z^{-\frac{2}{3}} (-2x \, dx)$$

$$\frac{dy}{dx} = -\frac{2}{3} \frac{x}{\sqrt[3]{(a^2-x^2)^2}}.$$

シカシ手ヲ省キ且簡明スルコトガ出來ル、ソハ  $z$  ナル新文字ヲ用ヒナイコトデアル。

$$y = (a^2-x^2)^{\frac{1}{3}}$$

$$dy = \frac{1}{3} (a^2-x^2)^{-\frac{2}{3}} d(a^2-x^2) = -\frac{2}{3} x (a^2-x^2)^{-\frac{2}{3}} dx,$$

[例 II]  $y = \log \sin x$  ヲ微分スルコト。

$$z = \sin x, \quad y = \log z$$

トスルトキハ

$$dy = d \log z = \frac{dz}{z} = \frac{\cos x \, dx}{z},$$

或ハ  $\frac{dy}{dx} = \frac{\cos x}{\sin x} = \cot x.$

尙簡明ニスルニハ

$$dy = d \log \sin x = \frac{d \sin x}{\sin x} = \frac{\cos x}{\sin x} = \cot x,$$

[例 III]  $u = e^{at} \cos bt$  ヲ微分スルコト。

$$du = \cos bt \, de^{at} + e^{at} d \cos bt$$

$$= \cos bt \, e^{at} d(at) - e^{at} \sin bt \, d(bt)$$

$$= e^{at} (a \cos bt - b \sin bt) dt$$

$$\frac{du}{dt} = e^{at} (a \cos bt - b \sin bt)$$

此例ニ於テ實際微分ヲ用ヒントセバ上記ノ初メニツノ行ヲ省略スルコトガ出來ル。

[例 IV]  $y$  ヲ微分スルコト、但シ

$$x^3 - 3xy + y^4 = 1$$

ソノトキニハ

$$dx^3 - 3d(xy) + dy^4 = d1,$$

$$3x^2 dx - 3x dy - 3y dx + 4y^3 dy = 0$$

$$\frac{dy}{dx} = \frac{3x^2 - 3y}{3x - 4y^2}.$$

學生ハ一方程式ノ一項ガ微分ヲ含ムトキハ他ノ總ベテノ項モ亦同數ノ微分ヲ含マナケレバナラスコトヲ注意スルト誤ヲ避ケルコトガ出來ル、例ヘバ  $dy = x^2 - 3x$  トスルコトハ出來ナイ。

### 演習

次ノ微分ヲナスニハ前記微分ノ法ヲ用ヒヨ。

$$1. u = \sqrt{a+bx+cx^2}. \quad \frac{du}{dx} = \frac{(b+2cx)dx}{2\sqrt{a+bx+cx^2}}.$$

$$2. y = \frac{1-2x+x^2}{x}. \quad \frac{dy}{dx} = \frac{x^2-1}{x^2} dx.$$

$$3. s = \frac{1-t}{1+2t}. \quad \frac{ds}{dt} = \frac{-3}{(1+2t)^2}.$$

$$4. y = (1-x)(2-3x)(5-2x).$$

二ツノ仕方デナシ、其結果ヲ照査セヨ。

$$5. r = ac^{2\theta}. \quad 9. y = \log \cos x.$$

$$6. y = e^{-t}(2t^2+6t-3t-3), \quad 10. y = \log(e^x - e^{-x}).$$

$$7. u = \sqrt{a^2-x^2} \sqrt{a-x}. \quad 11. y = \frac{\sin x + \cos x}{e^x}.$$

$$8. y = \log \frac{a+x}{a-x}. \quad 12. u = \log \sqrt{1-\cos x}$$

$$13. x = \sqrt{1+\sin y}. \quad \frac{dy}{dx} = \frac{2}{\sqrt{2-\cos^2 y}}.$$

$$14. y = \tan^{-1} \frac{2x}{1-x^2}. \quad \frac{dy}{dx} = \frac{2}{1+x^2}.$$

$$15. y = \tan^{-1} \frac{2x+1}{3}. \quad 17. y = \cot^{-1} \frac{x}{a}.$$

$$16. y = \sin^{-1}(n \sin x). \quad 18. u = \cos^{-1} \frac{\theta}{2}.$$

$$19. y = \log \tan \left( \frac{x}{2} + \frac{\pi}{4} \right). \quad \frac{dy}{dx} = \sec x.$$

$$20. y = xe^{mx} \quad \text{ニ於テ} \quad \frac{d^2y}{dx^2}, \frac{d^3y}{dx^3} \quad \text{ヲ求メヨ。}$$

$$21. y = x^2 e^{mx} \quad \text{ニ於テ上ト同ジ。}$$

$$22. x^2 a^x \quad \text{ヲ微分セヨ。} \quad \frac{d}{dx} x^2 a^x = 2x a^x + x^2 a^x \log a.$$

$$23. \text{次ノモノヲ微分セヨ。}$$

$$(a) x 10^x, \quad (b) 10^{x^2}, \quad (c) x^n n^x.$$

24.  $y = \log_{10} x$  ナル曲線ニ就テ  $x=1, y=0$  ナル點ニ於ケル傾度ヲ求メヨ。 答  $\tan \tau = 0.4343$ .

25.  $y = 10^x$  ナル曲線ガ坐標軸ヲ截ル點ニ於テ切線及法線ノ方程式ヲ求メヨ。

[注意]  $y = [f(x)]^{g(x)}$  ナル形ノ函數ヲ微分スルニハ先ツ方程式ノ兩邊ノ對數ヲ取リ

$$\log y = \phi(x) \log f(x)$$

トス或ハ

$$f(x) = e^{\log f(x)}, \quad [f(x)]^{g(x)} = e^{(x) \log f(x)}.$$

ヲ用フ。例へバ  $y = x^x$  ヲ微分スルニハ

$$\log y = x \log x \quad \text{或ハ} \quad y = e^{x \log x}$$

トスルト

$$\frac{dy}{y} = d(x \log x) = \dots \quad \text{或ハ} \quad dy = e^{x \log x} d(x \log x) = \dots$$

$$\frac{dx^x}{dx} = x^x (1 + \log x).$$

次ノ函数ヲ微分セヨ。

26.  $y = x^{\frac{1}{n}}$ .                      28.  $y = (\cos x)^{\tan x}$ .  
 27.  $y = x^{\sin x}$ ,                      29.  $y = (\sin x)^{\sin x}$ .

6. 弧ノ微分.  $s$  ハ定點  $A$  カラ測ツタ  $y = f(x)$  ナル曲線ノ弧ノ長サデ  $PP'$  ナル弧ノ長サガ  $\Delta s$  タトスルト

$$\overline{PP'}^2 = \Delta x^2 + \Delta y^2,$$

$$\lim_{\Delta x \rightarrow 0} \left( \frac{\overline{PP'}}{\Delta x} \right)^2 = 1 + \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \left( \frac{\Delta y}{\Delta x} \right)^2.$$

第一ノ極限ヲ取リテ  $PP'$  ナル弦ヲ弧  $\Delta s$  デ置換ヘルコトガ出來ルソレハ

$$\lim_{r \rightarrow r'} \frac{PP'}{\overline{PP'}} = 1$$

デアルカラデアアル。ソレガタメニ

$$(I) \quad (D_x s)^2 = 1 + (D_x y)^2 \quad \text{或ハ} \quad ds^2 = dx^2 + dy^2$$

ト云フ關係ヲ得ル。

幾何學的ニ云フト  $ds$  ハ  $PMQ$  ナル直三角形ノ斜邊  $PQ$  デ表ハサレル。尙

$$(2) \quad \begin{cases} \sin \tau = \frac{dy}{ds} = \frac{dy}{\sqrt{dx^2 + dy^2}} = \frac{\frac{dy}{dx}}{\sqrt{1 + \frac{dy^2}{dx^2}}}, \\ \cos \tau = \frac{dx}{ds} = \frac{dx}{\sqrt{dx^2 + dy^2}} = \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{dy^2}{dx^2}}} \end{cases}$$

此等ノ公式ハ  $PI$  ナル切線ハ  $s$  ガ増加スル方向ニ引カレテアルト云フ假定ノ下ニ書カレテアル、サウシテ  $\tau$  ハ其正方向ト  $x$  ノ正方向トナス角デアアル。  $s$  ガ増加スルトキ  $x$  ガ減少スルナラバ各根數ノ前ニ負號ヲ置クヲ要スル、

極座標 同ジ論法デ  $r = f(\theta)$  ノ場合ニ對シ次ノ公式ニ導ク。(103 頁ノ圖ヲ參考セヨ)。

$$\overline{PP'}^2 = P'M^2 + MP^2, \quad \lim_{\Delta r \rightarrow 0} \left( \frac{\overline{PP'}}{\Delta r} \right)^2 = \lim_{\Delta r \rightarrow 0} \left( \frac{P'M}{\Delta r} \right)^2 + \lim_{\Delta r \rightarrow 0} \left( \frac{MP}{\Delta r} \right)^2,$$

$$(3) \quad (D_r S)^2 = 1 + r^2 (D_r \theta)^2 \quad \text{或ハ} \quad ds^2 = dr^2 + r^2 d\theta^2$$

尙切線  $PT$  ハ増加スル  $s$  ノ方向ニ引カレタモノデアアルカラ

$$(4) \quad \sin \Psi = \frac{rd\theta}{ds}, \quad \cos \Psi = \frac{dr}{ds}.$$

コレカラト第2款ノ公式カラ

$$(5) \quad \tan \Psi = \frac{rd\theta}{dr}$$

7. 比ト速度. 速度ト比トノ原則ハ既ニ第二編ニ説イタ. 今稍進ンダ問題ヲ出ス位置ニナツタ.

[例] 汽車ガ 30 哩ノ速サデ拋物線狀ヲナセル曲線ニ沿フテ走ルトセン, 其曲線ノ方程式ヲ

$$(A) \quad y^2 = 500x$$

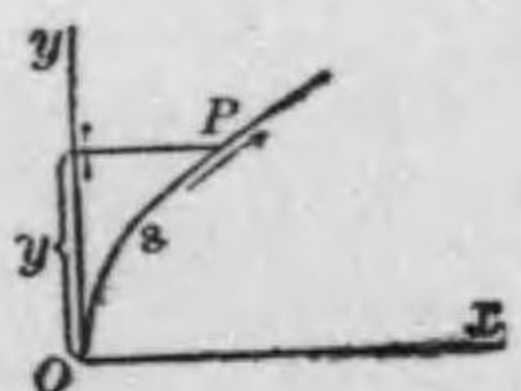
トシ拋物線ノ軸ハ東西デ, 一呎ヲ長サノ單位トセン. 太陽ハ丁度東方ニ上リツ、アリテ機關車ノ影ハ南北ノ方向ヲナス壁ニ沿フテ動キツ、アリ. コノ影ノ速サヲ求メヨ.

一時間ニ 30 哩ノ速サハ一秒ニ 44 呎デアルカラ問題ハ

$$\frac{ds}{dt} = 44$$

ヲ與ヘテ  $\frac{dy}{dt}$  ヲ求メルコトニ歸着スル.

$$(A) \quad \text{カラ} \quad 2y \, dy = 500 \, dx \quad dx = \frac{y \, dy}{250}$$



第6款ノ(1)ニ  $dx$  ノ此値ヲ入レルト,

$$ds^2 = dx^2 + dy^2 = \frac{y^2 \, dy^2}{250^2} + dy^2 \quad dy = \frac{250 \, ds}{\sqrt{250^2 + y^2}}$$

ソレカラシテ,  $dt$  ニテ除シ  $ds/dt$  ニ其値ヲ代入スルト,

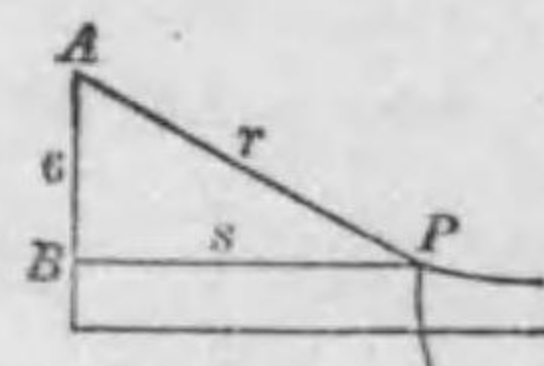
$$\frac{dy}{dt} = \frac{250 \times 44}{\sqrt{250^2 + y^2}}$$

特別ニ

$$\left[ \frac{dy}{dt} \right]_{y=250} = \frac{44}{\sqrt{2}} \text{ 呎} \quad \text{或ハ一時間ニ} 21.2 \text{ 哩}$$

[例 II] 波止場ノ上ニ静止セル人ガ一秒ニ 2 呎ノ速サデ一端ヲ船首ニ結ンデアル綱ヲ引イテヲル. 手ハ船首ヨリ 6 呎高クアル. 綱ノ長サガ 10 呎ニナツタ

トキハ「ボート」ガ速サハ何程カ.



小舟ガ或時ニ動ク呎ノ數ヲ  $r$  デ表

ハスト,

$$\frac{dr}{dt} = -2$$

デアル,  $r$  ガ時ト共ニ増スト正デ, 時ト共ニ減少スルト負デアル.

P ガ海上デ動キツ、アル割合ヲ見出ストシヤウ.  $s$  ハ小舟ガ波止場カラノ距離ヲ表ハストセバ  $ds/dt$  ハ數的ノ割合ヲ表ハス, シカシ代數的ニハ負數デ  $-ds/dt$  ノ値ヲ求メヤウ.  $s$  ト  $r$  トハ

$$s^2 = r^2 - 36$$

ナル關係ヲ結合シテヲル. 從テ

$$2s \, ds = 2r \, dr$$

$$-\frac{ds}{dt} = -\frac{r}{s} \frac{dr}{dt} = \frac{2r}{\sqrt{r^2 - 36}}$$

$$\text{依ッテ } \left[ -\frac{ds}{dt} \right]_{r=10} = \left[ \frac{2r}{\sqrt{r^2-36}} \right]_{r=10} = 2 \frac{1}{2} \text{ 呎} \dots \text{毎秒}$$

學生ハ初メ任意ノ瞬間時ノ速度ヲ求メ特別ノ値 10 ヲ得  
タ結果ニ代入スルノデアアルコトヲ知ルガヨイ。

### 演習

1. 街燈ガ十字狀ノ道ノ角カラ 10 呎ハナレテアリ、向フ側ノ町ノ家ヨリ 60 呎ハナレテアル。毎時 4 哩ノ速サデ街燈ノアル側ニ向テ其交截路ニ沿ヒテ町ヲ横ギル、向フ側ノ家ノ壁ニ其人ノ影ガ動ク。其町幅 (60 呎) ノ三分ノ二マデ來ルト其影ノ速サガドンナ割合デアアルカ、家カラ 55 呎ハナレタ處デハ如何。  
答 夫々毎時 6 哩, 96 哩。

2. 150 尺高ク上ツタ風ガアル、其絲ノ長サハ 250 尺デアアル、風ガ水平線上ニ毎時ニ 4 哩動クニハ其絲ハドンナ速サデ延バスペキカ。

3. 一人ガ圓道ヲ常速ヲ以テ行ク、其射影ガ與ヘラレタ直径ニ沿ヒテ行ク速サハ其直径カラ其點マデノ距離ニ比例スルコトヲ證明セヨ。

4. 廻轉光ガ近似的ニ平行セル光線ノ一束ヲ送ル海岸ヨリノ距離ハ半哩デアアル、ソウシテ一分間ニ一廻轉ヲナス。海岸ニ沿ヒテ其光ガ、海岸ノ最近點カラ 1 哩ノ距離ノ點ニ於テハドンナ速サデ動イテアルカ。

5. 太陽ガ瀉シツ、アルトキ真上ニ球ヲナゲタ。球ノ影ガ或家ノ最高點ハ測者ノ圓ルイ屋上ニウツツタ。圓ルイ家ノ直径 50 尺デアアル。球ノ影ハ落下後一秒時ニ何程ノ速サデアアルカ、丁度落下ヲ始メシ時ハ如何。

### 演習

次ノ函數ノ極大極小ヲ定メヨ:

1.  $x \log x$ .

2.  $x \cos x$ .

答  $x = 0.3679$  ノトキ極小,

$$0 < x < \frac{1}{2} \text{ ナルトキ } x = \cot x \text{ ナル場合ガ極大,}$$

$$-\frac{\pi}{2} < x < 0 \text{ ナルトキ } x = \cot x \text{ ナル場合ガ極小.}$$

3.  $xe^{-x}$       9.  $\sin 2x - x$       15.  $e^{-kx} \cos (nt + \gamma)$ .

4.  $x^n e^{-x}$       10.  $\sin x \cos^3 x$       16.  $x - \tan x$ .

5.  $x^2 \log \frac{1}{x}$       11.  $\frac{\cos x}{1 + \cot x}$       17.  $x + \tan x$ .

6.  $\frac{x}{\log x}$       12.  $\frac{x}{1 + x \tan x}$       18.  $x^{\frac{1}{x}}$ .

7.  $\sin x + \cos x$       13.  $x$       19.  $\left(\log \frac{1}{x}\right)^{\frac{1}{x}}$

8.  $x + \sin x$       14.  $e^x \cos 2x$       20.  $\tan x - 2 \sin x$ .

21.  $|\sin x + \cos x| \leq 2$  ナルコトヲ證明セヨ.

22.  $(\frac{5}{9}, 0)$  ナル點ヨリ曲線  $y = \frac{4}{3}x^{\frac{3}{4}}$  ニ出來ルダケ最

短キ線ヲ引ケ.

23. 一定ノ面積ヲ有スル矩形ノ地ヲ石垣デ圍ミ. 邊ノ一ツニ平行ナル石垣デ區分シテ三等分シヤウト思フ. 石垣ノ全長ガ出來ルダケ小サイ矩形ノ形ヲ問フ.

24. 圓錐狀ノ「テント」ノ經濟的ノ形ヲ示セ.

25. 「フードホール」ノ地面ガアル長サガ  $2a$  呎デ、幅ガ  $2b$  呎デアル. 此矩形ノ地面ヲ圍ミテ徒歩競争ノ路ヲ作ラントス路ノ全長ハ  $4c$  呎ナリ. 路ハ二ツ平行ナル等長ナル部分(此部分ハ前記地面ノ長サノ方向ニ平行ス) ト兩端ハ半圓周狀ヲナス. 今前記地面ト競争路トノ間(其最短距離)ヲ出來ル丈大ナラシメントス. 如何ニ路ヲ附クベキカ.

## 第六編

## 積分

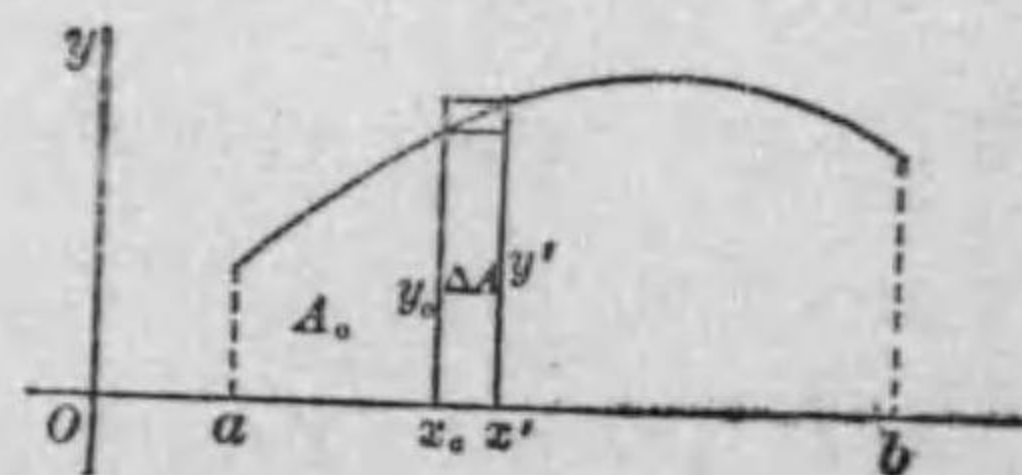
## 1. 曲線ノ下ノ面積. 今曲線

$$(1) \quad y = f(x)$$

ト  $x$  軸ト  $x = a$ ,  $x = b$  ( $a < b$ ) ナル縦線トニ圍マレタモノノ面積ヲ求メルトシヤウ. 今上記ノ四ツノ線ノ内一ツノ縦線ハ動クモノト見ルト其面積  $A$  ハ  $x$  ノ函數デアル. 何トナレバ  $x$  ヲ限界  $a, b$  ノ間ニ定メルト其面積ハ全ク定マリ. 方眼紙上ニ作ツテ切レ切レニナシテ別ニ測ル等ノ手段ヲ取リテ精密ニ計算スルコトガ出來ルカラデアル.

若シ  $x$  ノ此函數ニ對シテ  $a$  カラ  $b$  ニ至ル間ニ正シキ所ノ解析的式ヲ有スルナラ  $x = b$  ト置クコトガ出來ル. ソウシテ問題ハ解決セラレル.

ソウスルニハ  $x$  ニ任意ノ値  $x = x_0$  ヲ與ヘ. 相當スル面積ヲ  $A_0$  デ表ハシ.  $x$  ニ  $\Delta x$  ナル増加ヲ與ヘ. 面積ノ増加ヲ  $\Delta A$



トスル.

$\Delta A$  ハ二ツノ近似スル矩形デ表ハサレル

$$y_0 \Delta x < \Delta A < (y_0 + \Delta y) \Delta x,$$

$$y_0 < \frac{\Delta A}{\Delta x} < y_0 + \Delta y,$$

(モシ  $f(x)$  が  $x$  の増加ノタメニ減少スルトキニハ不等記號ハ反對ニナル),  $\Delta x$  が 0 に近ヅクト  $\frac{\Delta A}{\Delta x}$  ハ定量  $y_0$  ト變量  $y_0 + \Delta y$  トノ間ニアリ, 且  $y_0 + \Delta y$  ハ  $y_0$  に近ヅク. 従ツテ

$$\lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta A}{\Delta x} = y_0$$

或ハ下ノ記號ヲ取レバ

$$(2) \quad D_x A = y,$$

例ヘバ曲線ハ

$$y = x^2$$

ナリトシ且  $a = 1$ ,  $b = 4$  トスレバ

$$(3) \quad D_x A = x^2.$$

然ラバ問題ハ如何ナル函数ノ微係數ガ  $x^2$  トナルカラ求ムルコトナル, コレハ  $\frac{x^3}{3}$  デアルコトハ容易ニワカル, シカシコレハ唯一ツデハナイ, 何トナレバ  $x^3/3 + C$  ノヤウニ常數  $C$  ヲ加ヘタモノモ同様デアル. シカシコレハ微係數ガ  $x^2$  デアル最モ一般ノモノデアルコトハ後ニ證明スル.

實際ノ事實ニ就テ  $A$  ハ左端ノ縦線  $x=1$  ヨリ右ニアル部分ノ面積デアルカラ  $x$  ガ僅カニ 1 ヨリ大デアルトキニハ  $A$  ハタシカニ小デアツテ,  $x$  ガ 1 に近ヅクトキノ極限ハ 0 ナリ.

$$(4) \quad 0 = \frac{1}{3} + C \quad \therefore C = -\frac{1}{3}.$$

$$\text{依テ (5)} \quad A = \frac{x^3}{3} - \frac{1}{3}.$$

カヤウニ變量ヲ見出シタル故ニ  $x=4$  ト置キテ求ムル所ノ面積ヲ得ル:

$$[A]_{x=4} = \frac{64}{3} - \frac{1}{3} = 21.$$

曲線  $y=f(x)$  ノ下ノ面積ヲ求ムル仕方ハ次ノ如クスルコトガワカツタ. 初メ微分シテ  $f(x)$  ヲ得ルヤウナ函数ヲ求め, 之レニ不定ナル常數ヲ加ヘル, 次ニ  $x=a$  ノタメニ  $A$  ガ 0 トナルヤウニシテ常數ヲ定メル. ソウスルト  $A$  ハ  $x$  ノミノ函数トナルカラ  $x=b$  トシテ  $A$  ハ全ク定マル.

## 演習

1. 前ノ例ニ於テ面積ヲ  $x=2$  ヨリ測ルナラバ  $C$  ナル常數ハ  $-2\frac{2}{3}$  デアルコトヲ證明セヨ.

$$A = \frac{x^3}{3} - 2\frac{2}{3}.$$

モシ原點カラ測ラバ  $C$  ハ 0 ナルコトヲ證明セヨ

$$A = \frac{x^3}{3}.$$

2. (1) ニ於テ  $y=f(x)=x$  デアルト曲線ハ直線デアル.

$a = 6, b = 20$  デアル圖ハ梯形デアル, 之ヲ上法ニテ其面積ヲ計算シ初等幾何學ニ依テ驗メセ.

3.  $x = 10, x = 20$  ノ間ニアル曲線

$$y = x^4$$

ノ下ノ面積ヲ求メヨ.

答 620.000

4. 曲線

$$y = \sin x$$

ノ一弓形ノ面積ヲ求メヨ.

5. 曲線

$$y = 1 - x^2$$

ノ  $x$  軸上ニアル部分ノ面積ヲ求メヨ.

6. 河ガ略ボ抛物線

$$y = x - 4x^2$$

ノ形ヲナシテ牧場ノ周リニ曲ツテアル. (但シ  $x$  軸トシテ河ヲ横切ツテアル路ニ就テ). 上ノ式ハ一哩ヲ單立トフレバ河ト路トノ間ノ面積如何.

2. 積分. 上ノ各編ニ於テハ函数ヲ與ヘテ微係數ヲ求ムルノデアツタ. 前款ノ例ハ逆ノ問題ヲ取扱ヒ函数ノ微係數ヲ知ツテ元函数ヲ求メルノデアツタ. 之ヲ方程式ニ書表ハスト

$$D_x U = u \quad \text{或ハ} \quad dU = u dx,$$

ソウシテ  $u$  ヲ與ヘテ  $U$  ヲ求メルノデアアル.

**積分ノ定義**  $U$  ヲ  $x$  ニ關スル  $u$  ノ積分ト云フ, 之ヲ次ノヤウニ表ハス:

$$U = \int u dx$$

與ヘラレタル函数ヲ「インテグランド」ト云フ.

尙精密ニ云フト,  $U$  ハ  $u$  ノ一積分デアルト云フコトガ出來ル, 何トナレバ  $c$  ガ常數ナル  $U + c$  ハ又積分デアルカラデアアル. 例ヘバ

$$(6) \quad \int x^n dx = \frac{x^{n+1}}{n+1} + c.$$

何トナレバ

$$U = \frac{x^{n+1}}{n+1} + c$$

ヲ  $x$  ニ就テ微分スレバ

$$D_x U = x^n$$

ヲ得ルカラデアアル. 故ニ所求ノ積分元子ハ  $x^n$  デアル.

次ノ定理ハ積分ノ定理ノ基礎デアル.

**[定理 A]** 二ツノ函数ガ同ジ微係數ヲ有スルトキ, 即チ

$$D_x f(x) = D_x \phi(x)$$

ナルトキハ二ツノ函数ハ常數ノ差ヲ有ス.

差ノ微係數ハ 0 デアルカラ, 即チ

$$\text{[定理 B]} \quad D_x [f(x) - \phi(x)] = 0$$



デアルカラ一函数ノ微係數ガ0 デアルトキハ其函数ハ常數デ  
アル。

幾何學的ニ此定理ノ真ナルコトハ明カデアル。

$$y = \phi(x) = c$$

ナル函数ノ「グラフ」ハ  $x$  ノ軸ニ平行ナル直線デアル、逆ニ曲  
線ノ傾度ガ0 デアルナラバ  $x$  軸ニ平行ナルモノ以外ニ如何ナ  
ル曲線ガアルデアラウカ。此等ノ定理ノ解析的證明ニハ平均  
ノ法則ニ於ケル定理ヲ比較セヨ。

定理 A カラ與ヘラレタ函数ノ積分ハ加ヘル常數ニ依テ  
異ル、何トナレバ  $U$  ト  $U'$  ハ  $f(x)$  ノ積分デアルト、即チ

$$D_x U = f(x), \quad D_x U' = f(x)$$

デアルト  $U$  ト  $U'$  トハ同ジ微係數ヲ有スル。

積分ト微分トハ互ニ逆デアルカラ：

$$D_x \int u dx = u \quad \text{或ハ} \quad d \int u dx = u dx,$$

$$\int D_x U dx = U + c \quad \text{或ハ} \quad \int dU = U + c.$$

[定理 I.] 常數因數ハ之ヲ積分ノ記號ノ外ニ出サレル：

$$(I) \quad \int c u dx = c \int u dx$$

(I) ニ入リタル二ツノ函数ヲ論ジヤウ。

$$D_x \int c u dx = c u$$

$$D_x \left[ c \int u dx \right] = c D_x \int u dx = c u,$$

二ツノ函数ノ微係數ハ等シイカラ二ツノモノハ常數ノ差ヲ有  
スル。故ニ

$$\int c u dx = c \int u dx + k$$

故ニ左邊ノ積分常數ヲ適當ニ選ンデ  $k=0$  トナスコトガ出來  
ル。

[定理 II.] 二ツノ函数ノ和ノ積分ハ各積分ノ和ニ等シ。

$$(II) \quad \int (u+v) dx = \int u dx + \int v dx.$$

其證明ハ定理 (I) ノ證明ニ同ジ。

$$D_x \int (u+v) dx = u+v$$

$$D_x \left[ \int u dx + \int v dx \right] = D_x \int u dx + D_x \int v dx = u+v.$$

(II) ノ兩邊ノ函数ハ  $k$  ナル常數ニ依テ異ルバカリデア  
ル。ソウシテ或二ツノ積分ノ常數ハ隨意ニ選ブコトガ出來  
ルカラ第三ノ積分ノ常數ハ  $k=0$  トナスコトガ出來ル。

多項式ノ積分 上ノ定理ニ依ツテ多項式ヲ積分スルコト  
ガ出來ル。例ヘバ

$$\begin{aligned} \int (a+bx+cx^2) dx &= \int a dx + \int bx dx + \int cx^2 dx \\ &= a \int dx + b \int x dx + c \int x^2 dx \end{aligned}$$

$$= ax + b \frac{x^2}{2} + c \frac{x^3}{3} + C.$$

曲線ノ下ノ面積 第一款ニ研究シタル面積ハ次ノ形ニ置  
クコトガ出来ル:

$$(7) \quad A = \int y dx \quad \text{或ハ} \quad A = \int f(x) dx.$$

### 演習

次ノ積分ヲ算セヨ.

$$1. \int (3-4x-9x^2) dx. \quad \text{答} \quad 3x-2x^2-x^3+c.$$

$$2. \int \sqrt{x} dx. \quad \text{答} \quad \frac{2}{3} x^{\frac{3}{2}} + c.$$

$$3. \int \frac{dx}{x^2}. \quad 4. \int \frac{1+x+x^2}{3} dx.$$

$$5. \int \frac{dx}{\sqrt{x}}. \quad 6. \int (x^{\frac{2}{3}} + x^{-\frac{2}{3}}) dx.$$

7. 次ノ  $y = (x^2-1)(4-x^2)$  曲線ニテ圍マレテアル  $x$  軸  
ノ正ノ部分上ニアル面積ヲ求ム.

8. 次ノ  $y=x^2, y^2=4$  ナル二ツノ拋物線ノ間ニ含マレタル  
面積ヲ見出セ.

3. 積分ノ特別ノ公式 第四編ノ微分法ノ特別ノ公式ニ  
相當シテ積分ノ特別ノ公式ノ表ヲ書下スコトガ出来ル.

此編ニ記シタ一般ノ方法ト共ニスベテノ積分ハ計算シ得  
ラレル. 各公式ハ方程式ノ兩邊ヲ微分シテ證明セラレル.

### 積分ノ特別ノ公式

$$1. \int x^n dx = \frac{x^{n+1}}{n+1}. \quad n \neq -1$$

$$2. \int \sin x dx = -\cos x.$$

$$3. \int \cos x dx = \sin x.$$

$$4. \int \frac{dx}{x} = \log x.$$

$$5. \int e^x dx = e^x.$$

$$6. \int \frac{dx}{1+x^2} = \tan^{-1} x.$$

$$7. \int \frac{dx}{\sqrt{1-x^2}} = \sin^{-1} x.$$

$$8. \int \sec^2 x dx = \tan x.$$

$$9. \int \frac{\csc^2 x}{\csc x} dx = -\cot x.$$

コレ等ノモノニ次ノモノヲ公式トシテ加ヘテモヨロシ

イ:

$$10. \int \frac{dx}{\sqrt{2a-x^2}} = \text{vers}^{-1} x$$

$$11. \int a^x dx = \frac{a^x}{\log a}.$$

簡單ノタメニ加フ可キ積分ノ常數ヲ捨テタケレドモ此公式ヲ用フルトキ之ヲ挿入スルコトヲ忘レテハナラス。マタ次ノ公式ヲ上ニハ入レナカツタ。

$$\int c dx = c.$$

4. 代入法 多クノ積分ハ新變數ヲ導入シテ第3款カラ得ラレル。

[例 1]  $\int \sqrt{a+bx} dx$  ヲ求メヨ。

$$a+bx=y \quad \text{トセバ} \quad bdx=dy \quad \text{トナリ}$$

$$\sqrt{a+bx} dx = \frac{1}{b} y^{\frac{1}{2}} dy.$$

此方程式ノ各邊ヲ積分スレバ

$$\int \sqrt{a+bx} dx = \frac{1}{b} \int y^{\frac{1}{2}} dy = \frac{1}{b} \frac{y^{\frac{3}{2}}}{\frac{3}{2}} + c.$$

其レカラシテ

$$\int \sqrt{a+bx} dx = \frac{2\sqrt{(a+bx)^3}}{3b} + c.$$

[例 2]  $\int \cos ax dx$  ヲ見出セ。

$$ax = y \quad \text{トセバ} \quad adx = dy,$$

$$\cos ax dx = \frac{1}{a} \cos y dy,$$

$$\int \cos ax dx = \frac{1}{a} \int \cos y dy = \frac{1}{a} \sin y + c = \frac{1}{a} \sin ax + c.$$

[例 3]  $\int x\sqrt{a^2+x^2} dx$  ヲ求メヨ。

$$x^2=y \quad \text{トオケバ} \quad 2x dx = dy,$$

$$x\sqrt{a^2+x^2} dx = x\sqrt{a^2+y} \frac{dy}{2x} = \frac{1}{2} \sqrt{a^2+y} dy,$$

$$\int x\sqrt{a^2+x^2} dx = \frac{1}{2} \int \sqrt{a^2+y} dy.$$

此最後ノモノハ例一ノ特種ノモノデ、 $a$  ヲ  $a^2$  ニ、 $b$  ヲ 1

ニ、 $x$  ヲ  $y$  ニオキカヘタモノデアル。故ニ

$$\int x\sqrt{a^2+x^2} dx = \frac{1}{3} (a^2+x^2)^{\frac{3}{2}} + c.$$

但シ  $a^2+x^2=y$  トシテモヨロシイ。

[例 4]  $\int \tan x dx$  ヲ見出セ。

コゝニ

$$\int \tan x dx = \int \frac{\sin x}{\cos x} dx = \int \frac{-d \cos x}{\cos x} = -\log \cos x + c.$$

本来  $\cos x=y$  ヲ代入シタノデアルガ、シカシ實際ノ場合ニハ可成新ラシキ文字ヲ用ヒナイ法ガヨイノデアル。

[注意] 上ノ例ニテハ暗ニ  $x$  ト  $y$  トガ何レカ、他ノ函數デアルコトトシタ、モシ  $f(x)$  ト  $\phi(y)$  トガ

$$f(x) dx = \phi(y) dy$$

ノヤウナ二ツノ函數デアルト

$$\int f(x) dx = \int \phi(y) dy.$$

何等ノ困難ナク此假定ヲ確メ得ル。何トナレバ

$$D_x \int f(x) dx = f(x),$$

$$D_x \int \phi(y) dy = D_y \int \phi(y) dy, D_x y = \phi(y) D_x y,$$

マタ  $f(x) = \phi(y) \frac{dy}{dx}$

デアル、即チ  $\int f(x) dx, \int \phi(y) dy$  ノ二ツヲ微分シテ同ジモノヲ得タカラ二ツノ積分ハ同ジ、但シ常數  $k$  ヲ加ヘネバナラス。元來二ツノ積分常數ノ内前者ヲ任意ニ選ビ後後ノ常數ヲ  $k=0$  トスルコトガ出來ル。

此定理ハ微分法ニ於ケル第二編ノ定理 V ニ相當ス。前ノ定理ノ場合ニ於テ微小數ノ用ヒハ形式上ノ定理ヲ代數的恒等式ニ變ズルコトデアツテ、ソコニ必要モアルノデアル：

$$\int u dx = \int \left[ u \frac{dx}{dy} \right] dy$$

### 演習

次ノ積分ヲ計算セヨ。

1.  $\int \sqrt{1-x} dx.$  答  $-\frac{2}{3} (1-x)^{\frac{3}{2}} + c.$

2.  $\int \sqrt[3]{1+2x} dx.$  答  $\frac{3}{8} (1+2x)^{\frac{4}{3}} + c.$

3.  $\int \frac{dx}{\sqrt{3-2x}}.$  4.  $\int \frac{dx}{\sqrt[3]{a+bx}}.$

5.  $\int (a+bx)^n dx.$

6.  $\int \sin ax dx.$

7.  $\int \cos \frac{x}{2} dx.$

8.  $\int \sin (\pi x + \gamma) dx.$

9.  $\int \frac{dx}{a^2+x^2}.$

答  $\frac{1}{a} \tan^{-1} \frac{x}{a} + c.$

10.  $\int \frac{dx}{\sqrt{a^2-x^2}}.$

答  $\sin^{-1} \frac{x}{a} + c.$

11.  $\int \frac{x dx}{\sqrt{a^2-x^2}}.$

答  $-\sqrt{a^2-x^2} + c.$

12.  $\int x^2 \sqrt{a^3+x^3} dx.$

13.  $\int x e^{-x^2} dx.$

14.  $\int \frac{dx}{a+bx}.$

15.  $\int \frac{x dx}{a+bx^2}.$

16.  $\int x \sin x^2 dx.$

17.  $\int \frac{dx}{(1-x)^2}.$

18.  $\int \cot x dx.$

答  $\log \sin x + c.$

### 5. 巧妙ナ工夫テ出來ル積分法.

[例 1]  $\int \cos^2 \theta d\theta$  ヲ見出セ.

$$\cos^2 \theta = \frac{1}{2} (1 + \cos 2\theta),$$

$$\int \cos^2 \theta d\theta = \frac{1}{2} \int (1 + \cos 2\theta) d\theta = \frac{1}{2} \theta + \frac{1}{4} \sin 2\theta + c,$$

(8)  $\therefore \int \cos^2 \theta d\theta = \frac{1}{2} (\theta + \sin \theta \cos \theta) + c.$

同様ニシテ  $\int \sqrt{a^2-x^2} dx$  ヲ求ムルコトガ出来ル。

$$x = a \sin \theta, \quad dx = a \cos \theta d\theta$$

$$\therefore \int \sqrt{a^2-x^2} dx = a^2 \int \cos^2 \theta d\theta = \frac{a^2}{2} (\theta + \sin \theta \cos \theta) + c,$$

$$(9) \therefore \int \sqrt{a^2-x^2} dx = \frac{1}{2} \left( x \sqrt{a^2-x^2} + a^2 \sin^{-1} \frac{x}{a} \right) + c.$$

[例 2]  $\int \frac{dx}{a^2-x^2}$  ヲ求メヨ。

積分元子ハ次ノヤウニ書カレル。

$$\frac{1}{a^2-x^2} = \frac{1}{2a} \left[ \frac{1}{x+a} - \frac{1}{x-a} \right].$$

$$\begin{aligned} \text{故ニ} \int \frac{dx}{a^2-x^2} &= \frac{1}{2a} \int \frac{dx}{x+a} - \frac{1}{2a} \int \frac{dx}{x-a} \\ &= \frac{1}{2a} \left[ \log(x+a) - \log(x-a) \right] + c \end{aligned}$$

$$(10) \therefore \int \frac{dx}{a^2-x^2} = \frac{1}{2a} \log \frac{x+a}{x-a} + c.$$

但シ  $-a < x < a$  ノ場合ニハ (10) ノ中ニ負量ノ對數ヲ生ズルカラ此場合ニハ括弧内ニ  $1/(a-x)$  ノ項ヲ用フレバヨシ。

[例 3]  $\int \frac{d\theta}{\sin \theta}$  ヲ求メヨ。

第一法  $\int \frac{d\theta}{\sin \theta} = \int \frac{d\theta}{2 \sin \frac{\theta}{2} \cos \frac{\theta}{2}}$  トシ、次  $= \frac{\theta}{2} = \phi$

トスレバ

$$\int \frac{d\phi}{\sin \phi \cos \phi} = \int \frac{\sec^2 \phi d\phi}{\tan \phi} = \int \frac{d \tan \phi}{\tan \phi} = \log \tan \phi + c.$$

$$(11) \therefore \int \frac{d\theta}{\sin \theta} = \log \tan \frac{\theta}{2} + c.$$

第二法

$$\int \frac{d\theta}{\sin \theta} = \int \frac{\sin \theta}{\sin^2 \theta} d\theta = - \int \frac{d \cos \theta}{1 - \cos^2 \theta} = - \frac{1}{2} \log \frac{1 + \cos \theta}{1 - \cos \theta} + c.$$

但シ

$$\frac{1 + \cos \theta}{1 - \cos \theta} = \frac{\cos^2 \frac{\theta}{2}}{\sin^2 \frac{\theta}{2}} = \frac{1}{\tan^2 \frac{\theta}{2}}.$$

$$(11') \therefore \int \frac{d\theta}{\sin \theta} = \log \tan \frac{\theta}{2} + c.$$

## 演習

1.  $\int \sin^2 \theta d\theta$ . 答  $\frac{1}{2} (\theta - \sin \theta \cos \theta) + c.$

2.  $\int \frac{d\theta}{1 + \cos \theta}$ . 3.  $\int \frac{d\theta}{1 - \cos \theta}$ .

4.  $\int \frac{d\theta}{\cos \theta}$ . 答  $\log \tan \left( \frac{\pi}{4} + \frac{\theta}{2} \right) + c.$

或ハ  $\frac{1}{2} \log \frac{1 + \sin \theta}{1 - \sin \theta} + c$ , 或ハ  $\log (\sec \theta + \tan \theta) + c.$

5.  $\int \frac{dx}{\sqrt{x^2+a^2}}$ . 答  $\log (x + \sqrt{x^2+a^2}) + c.$

暗示  $x = a \tan \theta$  トセヨ.

6.  $\int \frac{dx}{\sqrt{x^2 - a^2}}$  答  $\log(x + \sqrt{x^2 - a^2}) + c$ .

6. 部分積分法 微分法ノ公式

$$d(uv) = u dv + v du$$

ハ積分ノ公式

$$\int u dv = uv - \int v du$$

ヲ導入ス, 之ヲ部分積分法ト云フ.

[例 1]  $\int x e^x dx$  ヲ求メヨ.

$$u = x, \quad dv = e^x dx \quad \text{トスレバ}$$

$$du = dx, \quad v = \int e^x dx = e^x \quad \text{トナル, 從テ}$$

$$\int x e^x dx = x e^x - \int e^x dx = (x-1) e^x + c.$$

[例 2]  $\int \log x dx$  ヲ求メヨ.

$$u = \log x, \quad dv = dx \quad \text{トスレバ}$$

$$du = \frac{dx}{x}, \quad v = x \quad \text{トナル從テ}$$

$$\int \log x dx = x \log x - \int x \frac{dx}{x} = x(\log x - 1) + c.$$

[例 3]  $\int \sqrt{a^2 + x^2} dx$  ヲ求メヨ.

$$u = \sqrt{a^2 + x^2}, \quad dv = dx \quad \text{トスレバ}$$

$$du = \frac{x}{\sqrt{a^2 + x^2}}, \quad v = x \quad \text{トナル, 從テ}$$

$$\int \sqrt{a^2 + x^2} dx = x \sqrt{a^2 + x^2} - \int \frac{x^2 dx}{\sqrt{a^2 + x^2}}.$$

$$\text{再ビ } \sqrt{a^2 + x^2} = \frac{a^2 + x^2}{\sqrt{a^2 + x^2}} \quad \text{デアルカラ}$$

$$\int \sqrt{a^2 + x^2} dx = a^2 \int \frac{dx}{\sqrt{a^2 + x^2}} + \int \frac{x^2 dx}{\sqrt{a^2 + x^2}}.$$

此等ノ二ツノ方程式ヲ邊々相加ヘルト, 前ノ演習ノ分ヲ用ヒテ次ノ結果ヲ得ル:

$$(12) \quad \int \sqrt{a^2 + x^2} dx = \frac{1}{2} [x \sqrt{a^2 + x^2} + a^2 \log(x + \sqrt{a^2 + x^2})] + c.$$

### 演習

次ノ積分ヲ求メヨ.

1.  $\int x e^{ax} dx.$

2.  $\int x^2 e^{ax} dx.$

3.  $\int x^3 e^{ax} dx.$

4.  $\int x \sin x dx.$

5.  $\int x \cos ax dx.$

6.  $\int \sin^{-1} x dx.$

7.  $\int \tan^{-1} x dx.$

8.  $\int x \sin^{-1} x dx.$

9.  $\int x \tan^{-1} x dx.$

10.  $\int x \log x dx.$

$$11. \int e^{ax} \sin x \, dx. \quad 12. \int e^{ax} \cos x \, dx.$$

$$13. \int \sqrt{x^2 - a^2} \, dx.$$

$$\text{答 } \frac{1}{2} \left[ x \sqrt{x^2 - a^2} - a^2 \log(x + \sqrt{x^2 - a^2}) \right] + c.$$

7. 表ノ用法 通例實際ニ起ル問題デ初步ノ函数ヲ用ヒテ計算セラレル積分ハ「バラス」ノヤウナ積分ノ表デ出來ル。此ワケデ本書ニハ餘リ深ク積分ノ理論ニハ立至ル要ガナイ。初步函数ヲ微分スル方法ヲ論ジタガアラユル初步函数ヲ積分スルコトガ出來ルトハ限ラナイ。例ヘバ

$$\int \frac{dx}{\sqrt{1+x^4}} \quad \text{或ハ} \quad \int \frac{d\phi}{\sqrt{1-k^2 \sin^2 \phi}} \quad 0 < k^2 < 1$$

ハ積分楕圓函数ト云フ超越函数ノ新階級ヲ誘導ス、コレハ代数函数トカ sine トカ cosine トカ云フ初步函数ヲ用ヒテハ出來ナイモノデアアル。シカシ初步函数ヲ用ヒテ積分シテ得ラル、函数ノ大ナル種類ガアル、ソウシテ實際ニ必要ナモノハ表ニ作ラレテアル、學生ハソノ表ノ分類ニ就テ大ナル注意ヲ拂ハネバナラス。

$$\text{[例 1]} \quad \int \frac{x \, dx}{(1-x)^3} \quad \text{ヲ發見セヨ。}$$

積分因子ハ  $x$  ノ有理函数デアアル。

$$\frac{x}{(1-x)^3} = \frac{A}{(1-x)^3} + \frac{B}{(1-x)^2} + \frac{C}{(1-x)}$$

トシ所謂不定係數法ニテ A, B, C ヲ求メ、積分スルノデアアル、然ルトキハ

$$\int \frac{x \, dx}{(1-x)^3} = -\frac{1}{1-x} + \frac{1}{2(1-x)^2} + c.$$

$$\text{[例 2]} \quad \int \frac{dx}{1+x+x^2} \quad \text{ヲ求メヨ。}$$

$$\frac{1}{1+x+x^2} = \frac{1}{\left(x + \frac{1}{2}\right)^2 + \frac{3}{4}}$$

コレカラ

$$\int \frac{dx}{1+x+x^2} = \frac{2}{\sqrt{3}} \tan^{-1} \frac{2x+1}{\sqrt{3}} + c$$

$$\text{[例 3]} \quad \int \frac{dx}{\sqrt{1+x+x^2}} \quad \text{ヲ計算セヨ。}$$

135 頁演習 5 ニ導クノデアアル。

$$\text{[例 4]} \quad \int \sin^n x \, dx \quad \text{ヲ求メヨ。}$$

先ヅ

$$\int \sin^n x \, dx = -\frac{\sin^{n-1} x \cos x}{n} + \frac{n-1}{n} \int \sin^{n-2} x \, dx$$

ナル公式ヲ作レ、コレハ兩邊ヲ微分スルト正シイコトハツカ  
ル。依ツテ  $\int \sin^6 x \, dx$  ヲ求メルコトハ此公式デ  $\int \sin^4 x \, dx$   
ヲ有スルモノニ變ズルヤウニセヨ。

$$\text{[例 5]} \quad \int \frac{dx}{5-4 \cos x} \quad \text{ヲ求メヨ。}$$

$$\tan \frac{x}{2} \quad \text{ヲ代用スレバ}$$

$$\int \frac{dx}{5-4 \cos x} = \frac{2}{3} \tan^{-1} \left[ 3 \tan \frac{x}{2} \right] + c$$

## 演習

次ノ積分ヲ算セヨ。

1.  $\int \frac{x dx}{(4-5x)^2}$ . 答  $\frac{1}{25} \left[ \log(4-5x) + \frac{4}{4-5x} \right] + c$ .

2.  $\int \frac{dx}{x^2(1-x)}$ . 答  $-\frac{1}{x} + \log \frac{x}{1-x} + c$ .

3.  $\int \frac{dx}{5+3x^2}$ . 答  $\frac{1}{\sqrt{15}} \tan^{-1} \left( x \sqrt{\frac{3}{5}} \right) + c$ .

4.  $\int \frac{dx}{x+x^2+x^3}$ .  
答  $\frac{1}{2} \log \frac{x^2}{1+x+x^2} - \frac{1}{\sqrt{3}} \tan^{-1} \frac{2x+1}{\sqrt{3}} + c$ .

5.  $\int \frac{\sqrt{1-x}}{x} dx$ . 答  $2\sqrt{1-x} + \log \frac{\sqrt{1-x}-1}{\sqrt{1-x}+1} + c$ .

6.  $\int \sqrt{-1+4x-x^2} dz$ .  
答  $\left( \frac{1}{2}x-1 \right) \sqrt{-1+4x-x^2} + \frac{3}{2} \sin^{-1} \frac{x-2}{\sqrt{3}} + c$ .

8. 曲線ノ弧ノ長サ. 第五編第6款ニ於テ曲線ノ弧ノ微小數ハ

$$ds = \sqrt{dx^2 + dy^2} = \sqrt{1 + \frac{dy^2}{dx^2}} dx$$

テ與ヘラレルコトヲ示シタ. 故ニ弧ノ長サハ

$$(13) \quad s = \int \sqrt{1 + \left( \frac{dy}{dx} \right)^2} dx$$

ヲ求メラレル.

[例 1] 拋物線

$$y = x^2$$

ノ弧ノ長サヲ求ムベシ.

$$dy = 2x dx, \quad \sqrt{dx^2 + dy^2} = \sqrt{1+4x^2} dx$$

$$s = \int \sqrt{1+4x^2} dx.$$

此積分ハ第6款(12)ニ歸着シ次ノ結果ヲ得ル:

$$s = 2 \int \sqrt{\frac{1}{4} + x^2} dx = x \sqrt{\frac{1}{4} + x^2} + \frac{1}{4} \log \left( x + \sqrt{\frac{1}{4} + x^2} \right) + c.$$

今頂點カラ弧ノ長サヲ計ルト,  $x=0$ ノトキ  $s=0$  テアルカラ  
ラニ定メルコトガ出來ル.

$$0 = \frac{1}{4} \log \frac{1}{2} + c, \quad c = \frac{1}{4} \log 2$$

故ニ

$$s = \frac{1}{2} x \sqrt{1+4x^2} + \frac{1}{4} \log (2x + \sqrt{1+4x^2}),$$

特ニ(1, 1)ナル點ニ至ル弧ノ長サハ

$$[s]_{x=1} = \frac{1}{2} \sqrt{5} + \frac{1}{4} \log (2 + \sqrt{5}) = 1.45.$$



シカルニ弦ノ長サハ  $\sqrt{2} = 1.41$  デ、一方ニハ横線ト縦線トノ長サノ和ハ2デアリ。従テ問題ニ於ケル弧ノ長サハ1.41ト2トノ間ニアリ。

[例2] 等角螺旋ノ弧ノ長サヲ求ムベシ。

$$r = ae^{\lambda\theta}, \quad \lambda = \cot a$$

第五編ノ第6款ニ依リ

$$ds = \sqrt{dr^2 + r^2 d\theta^2}, \quad dr = a\lambda e^{\lambda\theta} d\theta$$

$$\therefore ds = \sqrt{1 + \lambda^2} ae^{\lambda\theta} d\theta = \frac{\sqrt{1 + \lambda^2}}{\lambda} dr = dr \sec a,$$

$$s = \sec a \int dr = r \sec a + k$$

$r = a, \theta = 0$  デアル點カラ弧ヲ測ルトキハ  $r = a$  ナルトキ  $s = 0$  デアルカラ

$$0 = a \sec a + k \quad \therefore s = (r - a) \sec a$$

$\theta = -\infty$  ナルトキハ  $r = 0$  ナル極ノ周リニ螺旋ガ無限ニ巻キ付キ  $r$  ハ其極限トシテ0ヲ有ス。  $s$  ノ數値ハ  $r < a$  デアルト

$$|s| = -s = (a - r) \sec a.$$

カヤウニ螺旋ノ長サハ  $\theta = -\infty$  ノトキ、スベテノ極限外ニ増加シナイデ

$$\lim_{\theta \rightarrow -\infty} |s| = a \sec a$$

トナル。

## 演習

1. 心臟線  $r = a(1 - \cos \theta)$  ノ長サヲ求ム。 答  $8a$ .
2. 極ヨリ  $\theta = 2\pi$  即チ初メノ動經ヲ切ル點マデノ螺旋  $r = \theta$  ノ長サヲ求ム。 答 21.3
3. 曲線  $27y^2 = x^3$  デ原點ト其横線ガ15デアリ點マデノ弧ノ長サヲ求メヨ。 答 19.
4. 螺旋  $r = 1/\theta$  デ  $\theta = 1, r = 1$  ナル點カラ計ツタ弧ノ長サヲ求メヨ。
5. 懸鏈線

$$y = \frac{a}{2} \left( e^{\frac{x}{a}} + e^{-\frac{x}{a}} \right)$$

ノ弧ノ長サヲ  $x = 0$  ナル頂點カラ計ツタモノハ

$$s = \frac{a}{2} \left( e^{\frac{x}{a}} - e^{-\frac{x}{a}} \right) \text{ デアルコトヲ證明セヨ.}$$

6. 焦點ヲ極トシテ拋物線ノ方程式ハ

$$r = \frac{m}{1 - \cos \phi}$$

デアルコトヲ假定シ通徑(焦點ヲスギテ横軸ニ垂直ナル線)デ切トツタ部分ノ周圍ヲ求ム。

## 演習

次ノ積分ヲ求メヨ.

1.  $\int \sqrt{2mx} dx.$     9.  $\int \frac{\log x dx}{x}.$     17.  $\int \frac{\sin x dx}{a+b \cos x}.$   
 2.  $\int \frac{dx}{\sqrt{1-x}}.$     10.  $\int \frac{t^2+1}{t-1} dt.$     18.  $\int e^{e^x} \sin x dx.$   
 3.  $\int (a-x)^2 dx.$     11.  $\int \frac{dx}{x \log x}.$     19.  $\int \sin^3 x dx.$   
 4.  $\int (a^{\frac{2}{3}} - x^{\frac{2}{3}})^3 dx.$     12.  $\int \frac{e^x - e^{-x}}{e^x - e^{-x}} dx.$     20.  $\int \frac{dx}{e^x - e^{-x}}.$   
 5.  $\int \frac{x dx}{1-x^2}.$     13.  $\int 10^x dx.$     21.  $\int \frac{\sin \theta}{\cos^2 \theta} d\theta.$   
 6.  $\int \frac{x^2 dx}{1+x}.$     14.  $\int (e^x - e^{-x})^2 dx.$     22.  $\int \frac{dx}{1+\sin x}.$   
 7.  $\int \frac{x-1}{x+1} dx.$     15.  $\int \frac{(r^2-1)^2}{r^3} dr.$     23.  $\int \sec^4 x dx.$   
 8.  $\int \frac{x^{n-1}}{a+bx^n} dx.$     16.  $\int x \cos x^2 dx.$     24.  $\int \cos^3 x dx.$

25. Aガ曲線

$$r = f(\theta)$$

ニ於テ定動徑  $\theta = \theta_0$  ト變動徑  $\theta$  トノ間ニ含マレタ面積デア  
 ルト

$$(14) \quad D_\theta A = \frac{1}{2} r^2, \quad \text{從テ} \quad A = \frac{1}{2} \int r^2 d\theta$$

ナルコトヲ證明セヨ.

26. 心臟線  $r = a(1 - \cos \phi)$  ノ面積ヲ求メヨ.  
 27. 等角螺旋  $r = ae^{i\theta}$  ニ於テ 0 ト  $\frac{1}{2}\pi$  トノ間ノ  $\theta$  ニ相  
 當スル弧ニ含マレタ第一象限ノ面積ヲ求メヨ.  
 28. 「レムニスケート」 $r^2 = a^2 \cos 2\theta$  ノ一葉ノ面積ヲ求ム.  
 29.  $r = a \sin 3\theta$  ニ就テ上ト同ジコトヲ求ム.  
 30.  $r = a \cos n\theta$  ニ同上.  
 31.  $\frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1$  ナル楕圓ノ面積ヲ求ム. 答  $\pi ab.$   
 32. 原点カラ計ツタ  $y = a \log \frac{a^2}{a^2 - x^2}$  ノ弧長ハ  
 $s = a \log \frac{a+x}{a-x} - x$  デアルコトヲ證明セヨ.  
 33. 曲線  $8a^2 y^2 = x^2(a^2 - x^2)$  ノ弧ノ長サハ  
 $s = y + \frac{a}{\sqrt{2}} \sin^{-1} \frac{x}{a}$  デアルコトヲ證明セヨ.  
 34.  $(y - \frac{x^2}{a})^2 = a^2 - x^2$  ナル曲線ノ面積ハ  $\pi a^2$  デアルコト  
 ヲ證明セヨ.  
 35. 曲線  $y^2 = x^2 + x^3$  ノ自閉線ノ面積ヲ定メヨ. 答  $\frac{8}{15}.$

## 第七編

## 曲率縮閉線

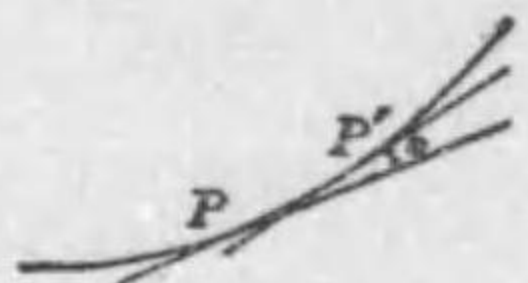
1. 曲率. 鐵道ノ曲ガリカタニ就テ即チ性質ニ就テ論ズルコトガアル. 一般ニ曲線ノ曲ガリカタニ就テ量的定メカタヲ得ルコトガ出来ナイカラ論ジヤウ.

一點ガPカラP'ニ, 曲線ヲ畫クトキ曲線

ノ切線ガ方向ヲ變ズル所ノ角ハ曲線ノ曲

リ方ニ關スルバカリデナク, PトP'トノ

距離ニ關係ス. シカシ此後者ハP'ガPニ極メテ近ヅクトキ弧ノ一單位毎ノ角ノ變化ノ平均變化ヲ取ルトソレヲ論外ニ措クコトガ出来ル.



$$\frac{\phi}{\overline{PP'}} = \text{PP' 弧ノ平均曲率.}$$

此平均變化ガ近ヅク所ノ極限ハPニ於ケル曲率ト稱セラレルモノデアアル. 之ヲκニテ示スト

$$(1) \quad \kappa = \lim_{P' \rightarrow P} \frac{\phi}{\overline{PP'}} = P \text{ニ於ケル實際ノ曲率.}$$

例ヘバaナル半徑ノ圓ニ於テ

$$\overline{PP'} = a\phi, \quad \frac{\phi}{\overline{PP'}} = \frac{1}{a}, \quad \lim_{P' \rightarrow P} \frac{\phi}{\overline{PP'}} = \frac{1}{a} = \kappa,$$

即チ平均曲率ハP'ト共ニ變ジナイ. 圓ノ曲率ハスベテノ點

ニ同ジコトデアアル, 即チ半徑ノ反數ニ等シイ. 又直線ノ曲率ハ0デアアル.

$y = f(x)$ ナル曲線ニ於テ(1)ノ極限ヲ計算スルニハ

$$\overline{PP'} = \Delta s, \quad \phi = \Delta \tau$$

デアアルコトヲ見ルナラバ

$$\kappa = \lim_{\Delta s \rightarrow 0} \frac{\Delta \tau}{\Delta s} = D_s \tau,$$

但シテハ普通切線ガx軸トナス角ヲ表ハス. モット精密ニ云フト要スルモノハ  $D_s \tau$ ノ絶對値デアアル, 何トナレバκハ本來正量デアアルカラデアアル. ソレカラシテ

$$(2) \quad \kappa = \pm \frac{d\tau}{ds} \quad \text{或ハ} \quad \kappa = \left| \frac{d\tau}{ds} \right|.$$

上ノ定義カラ曲率ハ一點ガ單位速度デ曲線ヲ畫クトキ切線ガ回轉スル比デアアル.

$d\tau/ds$ ヲ計算スルタメ微係數ニ關スル最簡ノ記法ヲ導入スルノガ便利デアアル:

$$(3) \quad \tan \tau = \frac{dy}{dx}, \quad \text{或ハ} \quad \tau = \tan^{-1} \frac{dy}{dx}$$

$$y = f(x)$$

$$\frac{dy}{dx} = y' = f'(x), \quad \frac{d^2 y}{dx^2} = y'' = f''(x), \dots\dots\dots$$

$$\frac{d^n y}{dx^n} = y^{(n)} = f^{(n)}(x).$$

故に

$$dy' = \frac{dy'}{dx} dx = \frac{d^2y}{dx^2} dx = y'' dx$$

$$ds = \sqrt{dx^2 + dy^2} = \sqrt{1 + y'^2} dx.$$

3 (= 歸り且ツ微分シテ)

$$\tau = \tan^{-1} y', \quad d\tau = \frac{dy'}{1+y'^2} = \frac{y'' dx}{1+y'^2},$$

$$\frac{d\tau}{ds} = \frac{y''}{(1+y'^2)^{\frac{3}{2}}},$$

$$(4) \quad K = \frac{(y'')}{(1+y'^2)^{\frac{3}{2}}} = \frac{\left[ \frac{d^2y}{dx^2} \right]}{\left[ 1 + \frac{dy^2}{dx^2} \right]^{\frac{3}{2}}}.$$

曲率ノ反數ハ曲率半徑ト名ヅケ  $\rho$  ニテ表ハス.

$$(5) \quad \rho = \frac{1}{K} = \frac{(1+y'^2)^{\frac{3}{2}}}{|y''|} = \frac{\left[ 1 + \frac{dy^2}{dx^2} \right]^{\frac{3}{2}}}{\left| \frac{d^2y}{dx^2} \right|},$$

圓ノ曲率半徑ハ其半徑デアツテ「インフレクション」ノ點ニ於テハ 0 デアル何トナレバ  $y''$  ガ連続デアルト、カヤウナ點ニ於テ  $y''=0$  デアルカラデアル。

[例] 次ノ拋物線ノ曲率ヲ求メヨ。

$$y^2 = 2mx.$$

然ルトキハ

$$2y dy = 2m dx, \quad y' = \frac{m}{y},$$

$$dy' = -\frac{m}{y^2} dy, \quad y'' = -\frac{m^2}{y^3}$$

$$K = \frac{m^2 |y|^{-3}}{\left| 1 + \frac{m^2}{y^2} \right|^{\frac{3}{2}}} = \frac{m^2}{(m^2 + y^2)^{\frac{3}{2}}}, \quad \rho = \frac{(m^2 + y^2)^{\frac{3}{2}}}{m^2}$$

## 演習

次ノ曲線ノ曲率ヲ求メヨ。

1.  $y = x^2$ . 答  $K = \frac{2}{(1+4x^2)^{\frac{3}{2}}}$ .

2.  $y = x^3$ . (但シ原點ニ於テ).

3.  $y = \log \cos x$ . 答  $K = |\sin x|$ .

4.  $\frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1$ . 答  $K = \frac{a^4 b^4}{(b^4 x^2 + a^4 y^2)^{\frac{3}{2}}}$ .

5.  $\frac{x^2}{a^2} - \frac{y^2}{b^2} = 1$ . 答  $K = \frac{a^4 b^4}{(b^4 x^2 + a^4 y^2)^{\frac{3}{2}}}$ .

6. 等邊双曲線  $xy = \frac{a^2}{2}$ . 答  $K = \frac{a^2}{(x^2 + y^2)^{\frac{3}{2}}}$ .

7.  $y = x^{\frac{3}{2}}$  ナル曲線ノ曲率半徑ハ P ガ尖頭ニ近迫スルト

キ 0 ニ近迫スルコトヲ證明セヨ。

8. 曲線

$$54y = 10x^5 - 19x^4 + 11x^3 + x^2 - 72x$$

ノ原点ニ於ケル曲率半径ヲ求メヨ. 答 P = 125

9. 懸鍵線

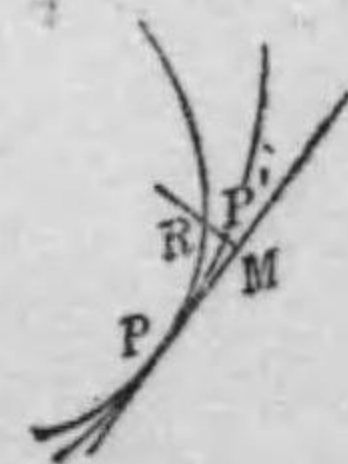
$$y = \frac{a}{2} \left( e^{\frac{x}{a}} + e^{-\frac{x}{a}} \right)$$

ノ頂點ニ於ケル曲率半径ヲ求メヨ.

10.  $y = x^3$  ナル曲線ノドンナ點ニ於テ曲率半径ガ最大ナルカ.

11.  $y = x^n, x > 0, n > 0$  ナルトキ, 曲率半径ガ最大ナル點ハ何デアルカ. 答  $x = \left[ \frac{n-2}{(2n-1)n^2} \right]^{\frac{1}{2n-2}}, y = \left[ \frac{n-2}{(2n-1)n^2} \right]^{\frac{n}{2n-2}}$ .

2. 切觸圓. 曲線上ノ任意ノ點 Pニ於テ法線ヲ曲線ノ凹ナル側ニ引キ曲率半径  $\rho$ ニ等シキ長サヲ取リタル點ヲ Qトシテ其點ヲ曲率ノ中心ト名ヅケヤウ. Qヲ中心トシ曲率半径  $\rho$ ヲ以テ半径トシテ畫イタ圓ハ曲線ニ關シテ重要ナ關係ヲモツテアル. 此圓ヲ切觸圓ト稱スル, 而カモカヤウナ圓ハ他ノ圓ヨリモ精密ニ曲線ヲ表ハス. 今曲線上ノ點ヲスギテ凹ナル側ニ中心ヲ有スル切圓ヲ引クトセバ其半径ガ小サクナルホド曲ガリカタ大キナリ終リニ曲線ヨリモ曲ガリカタ甚シクナル. 無論中間ノ圓ハ其兩極端ノモノ、間ニアル. 其内ノ一ツヲ他



ノモノヨリモ能ク其性質ヲ明確ニスルコトノ出來ルヤウナ標準ガアル. Pニ於テ切線ヲ引キ, P'カラ垂直線ヲ下シ, ソレニ Mニ於テ交ラシ, 任意ノ圓ニ R'ニテ交ラシメルトシヤウ. PP'

ヲ一級ノ主要ナル微小量トセバ P'Rハ二級ノ微小量デアル. シカシ P'Rガ第三級ノ微小量トナルヤウニ任意ノ圓ヲ見出スコトガ出來ル, ソウシテコレハ切觸圓デアルコトハ後ニ證明スル.

切觸圓ハ一般ニ切點ニ於テ曲線ヲ切ル. シカシ除外セラレ、モノモアル, カヤウナ點デハ P'Rガ第三級ヨリモ高キ(一般ニ四級)ノ微小量デアル.

演習

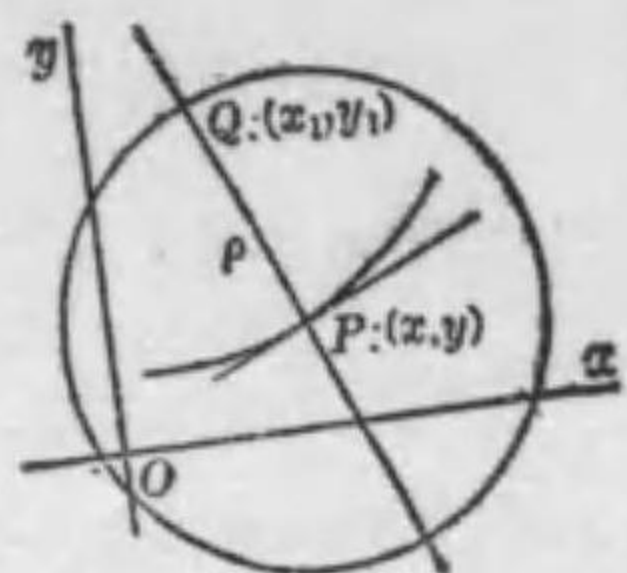
$-\frac{3}{4} < x < \frac{3}{4}$  ナル  $x$ ノ値ニ於テ  $y = x^2$  ナル拋物線ヲ作レ(10「センチメートル」ヲ單位トシテ).  $x = \frac{1}{2}, y = \frac{1}{4}$  ナル點或ハ頂點ニ於テ切觸圓ヲ作レ.

3. 縮閉線. 上述ノ P點ガ曲線ヲ畫クト, Q點ガ第二ノ曲線ヲ畫ク. 此ヤウナ Q點ノ軌跡ヲ與ヘラレタ曲線ノ縮閉線ト名ヅケル.

Q點ハ Pニ於ケル法線, 中心 P, 半径  $\rho$  ナル圓トノ交點トシテ定ムルコトヲ得, コノヤウナ Q點ハ次ノヤウニシテ解折的ニ求メルコトガ出來ル. 然ルニ法線ノ方程式ハ

$$(6) \quad X - x + y'(Y - y) = 0$$

デアル、但シ  $X, Y$  ハ其線上ノ動座標  
デアル、即チ法線上ニ變ズル點ノ座  
標デアル、但シ  $x, y$  ハ  $P$  點ノ座標ニ  
シテ次ノ研究中一定ノ値ヲ有スベキ  
モノデアル。



圓ノ方程式ハ

$$(7) \quad (X-x)^2 + (Y-y)^2 = \rho^2 = \frac{(1+y'^2)^3}{y''^2}.$$

(6) ト (7) トガ何處デ相交ハルカラ見出スタメニ  $X$  ヲ驅逐  
スル:

$$(1+y'^2)(Y-y)^2 = \frac{(1+y'^2)^3}{y''^2} \quad Y-y = \pm \frac{1+y'^2}{y''}$$

此正負ノ何レヲ採用スルカト云フニ、モシ曲線ガ上ノ方ニ凹  
デアルナラバ圖ヲ見テワカルヤウニ

$$Y-y > 0 \quad \text{及ビ} \quad y'' = \frac{d^2y}{dx^2} > 0,$$

故ニ此場合デハ上ノ記號ヲ用ヒテ

$$(8) \quad Y-y = \frac{1+y'^2}{y''}$$

トスル、シカシ下ノ方ニ凹ヲ向ケルト

$$Y-y < 0 \quad \text{及ビ} \quad y'' = \frac{d^2y}{dx^2} < 0,$$

デアルカラ、矢張り上ノ正號ヲ用ヒル。即チ

$$Y = y + \frac{1+y'^2}{y''}.$$

(6) ト (8) トカラ

$$X = x - \frac{y'(1+y'^2)}{y''}$$

カヤウニ定メタ  $X, Y$  ハ  $Q$  點ノ座標  $(x_1, y_1)$  デアル:

$$(9) \quad x_1 = x - \frac{\frac{dy}{dx} \left(1 + \frac{dy^2}{dx^2}\right)}{\frac{d^2y}{dx^2}}, \quad y_1 = y + \frac{1 + \frac{dy^2}{dx^2}}{\frac{d^2y}{dx^2}},$$

此等ノ公式ハ根號ヲ有セズ。

(9) ノ方程式ト  $y = f(x)$  ナル原方程式トノ間ニ  $x, y$  ヲ除  
去スルト

$$F(x_1, y_1) = 0$$

ト云フ形ノ縮閉線ノ方程式ヲ得ル。シカシ必ズシモ驅逐セズ  
トモ與ヘラレタ曲線ノ多クノ點ニ相應スル  $x, y, y', y''$  ノ値ヲ  
求メ、ソレヲ (9) ニ代入スルト縮閉線上ノ任意ノ多クノ點ヲ作  
圖スルコトガ出來ル。

[例 1] 拋物線 (10)  $y^2 = 2mx$  ノ縮閉線ヲ見出セ。

コゝニ

$$\frac{dy}{dx} = \frac{m}{y}, \quad 1 + \frac{dy^2}{dx^2} = \frac{m^2 + y^2}{y^2}, \quad \frac{d^2y}{dx^2} = -\frac{m^2}{y^3},$$

$$\text{從テ} \quad x_1 = x - \frac{m(m^2 + y^2)}{y^3} \Bigg/ -\frac{m^2}{y^3} = x + \frac{m^2 + y^2}{m},$$

$$y_1 = y + \frac{m^2 + y^2}{y^2} \Bigg/ -\frac{m^2}{y^3} = -\frac{y^3}{m^2}.$$

之レカラ  $x, y$  ヲ驅逐スルト

$$x_1 = \frac{y^2}{2m} + \frac{m^2 + y^2}{m} = m + \frac{3y^2}{2m}$$

$$\frac{2m}{3}(x_1 - m) = y^2.$$

此第二ノ方程式カラ

$$-m^2 y_1 = y^2.$$

最終ノ方程式カラ  $y$  ヲ除去セバ

$$m^4 y_1^2 = \frac{8m^3}{27}(x_1 - m)^3$$

下ノ記號ヲ除去シテ拋物線ノ縮閉線ノ方程式ヲ得:

$$(11) \quad y^2 = \frac{8}{27m}(x-m)^3,$$

此曲線ヲ半立方拋物線ト云フ.

[例 2] 橢圓

$$(12) \quad \frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1$$

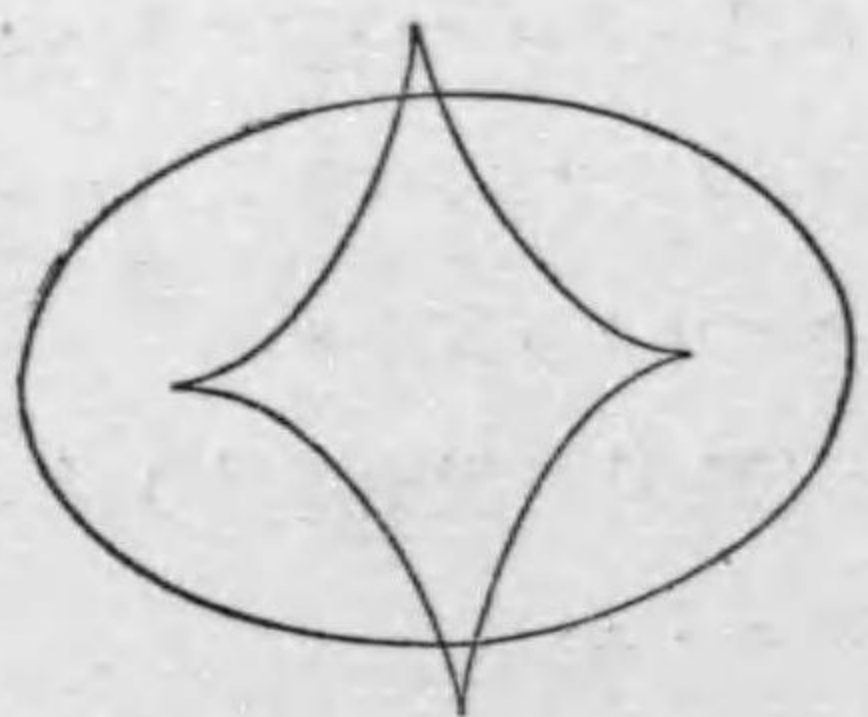
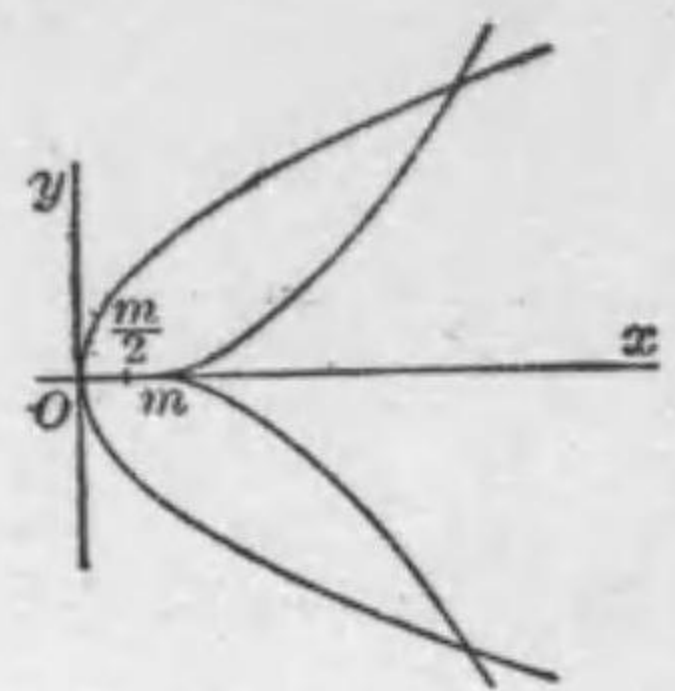
ノ縮閉線ヲ求メヨ.

コレカラ容易ニ

$$\frac{dy}{dx} = -\frac{b^2 x}{a^2 y}, \quad \frac{d^2 y}{dx^2} = -\frac{b^4}{a^2 y^2}$$

$$x_1 = x - \frac{x(b^4 x^2 + a^4 y^2)}{a^4 b^2}, \quad y_1 = y - \frac{y(b^4 x^2 + a^4 y^2)}{a^2 b^4}.$$

此等ノ方程式ト (12) トカラ  $x, y$  ヲ驅逐スルニハ少シク巧



ミナ方法ガ入ル.

$$b^2 x^2 + a^2 y^2 = a^2 b^2 \quad a^4 y^2 = a^2 b^2 (a^2 - x^2)$$

$$b^4 x^2 + a^4 y^2 = b^2 (a^4 - a^2 x^2 + b^2 x^2).$$

$$\text{夫レカラ} \quad x_1 = x - \frac{b^2 x (a^4 - a^2 x^2 + b^2 x^2)}{a^4 b^2} = \frac{a^2 - b^2}{a^4} x^3,$$

$$\text{同様ニ} \quad y_1 = y - \frac{a^2 y (b^4 - b^2 y^2 + a^2 y^2)}{a^2 b^4} = -\frac{a^2 - b^2}{b^4} y^3.$$

コレカラ  $x^2, y^2$  ヲ求メテ (12) ニ入レルト

$$\left(\frac{ax_1}{a^2 - b^2}\right)^{\frac{2}{3}} + \left(\frac{by_1}{a^2 - b^2}\right)^{\frac{2}{3}} = 1.$$

$x, y$ , ノ下ノ記號ヲ取ルト橢圓ノ縮閉線ノ方程式ヲ得:

$$(13) \quad (ax)^{\frac{2}{3}} + (by)^{\frac{2}{3}} = (a^2 - b^2)^{\frac{2}{3}}.$$

## 演習

次ノ曲線ノ縮閉線ノ方程式ヲ見出セ.

1. 双曲線  $\frac{x^2}{a^2} - \frac{y^2}{b^2} = 1$ . 答  $(ax)^{\frac{2}{3}} - (by)^{\frac{2}{3}} = (a^2 + b^2)^{\frac{2}{3}}.$

2. 双曲線  $2xy = a^2$ . 答  $(x+y)^{\frac{2}{3}} - (x-y)^{\frac{2}{3}} = 2a^{\frac{2}{3}}.$

3. 懸鏈線  $y = \frac{1}{2}(e^x + e^{-x})$ . 答  $x_1 = x - \frac{1}{4}(e^{2x} - e^{-2x}), y_1 = 2y,$

$$x = \log \left[ \frac{y}{2} \pm \sqrt{\frac{y^2}{4} - 1} \right] \mp \frac{y}{2} \sqrt{\frac{y^2}{4} - 1}.$$

4.  $x^{\frac{2}{3}} + y^{\frac{2}{3}} = a^{\frac{2}{3}}$ . 答  $(x+y)^{\frac{2}{3}} + (x-y)^{\frac{2}{3}} = 2a^{\frac{2}{3}}.$

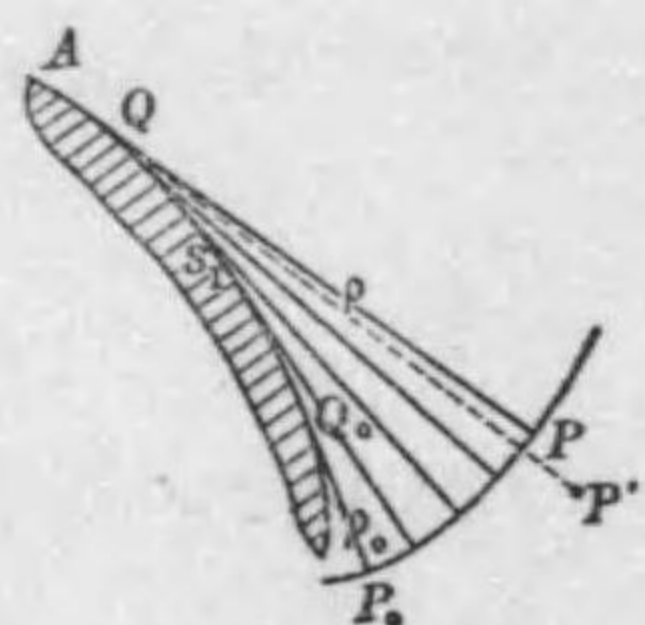
$$5. \quad x = a(\cos \theta + \theta \sin \theta), \quad \text{答} \quad x^2 + y^2 = a^2,$$

$$y = a(\sin \theta - \theta \cos \theta).$$

$$6. \quad x = a \cos^3 \theta, \quad y = a \sin^3 \theta. \quad \text{答} \quad (x+y)^{\frac{2}{3}} + (x-y)^{\frac{2}{3}} = 2a^{\frac{2}{3}}.$$

4. 縮閉線ノ性質. 縮閉線ト名付ヅクワケハ其性質カラ  
デアル. 縮閉線ノ凹ナル方ニ金屬ノ圓柱體ヲ作り, ソレヲ絲  
デシツカリト卷キ付ケルトセヨ.

絲ノ終リニ鉛筆ヲ附ケ, ハヅレヌ  
様ニ絲ノ他ノ端ヲ A ニ附ケルトセヨ.  
鉛筆ノ縮閉線ヲ卷キタル絲ヲ卷キモド  
スヤウニスルト鉛筆ノ尖端ハ與ヘラレ  
曲線ヲ畫ク.



コレヲ證明スルニハ P ガ與ヘラレタ曲線ノ任意ノ點デ  
アツテ Q ハ縮閉線ノ相當ノ點デアルトスルト, 絲ガ Q ヲ離レ  
ルトキ鉛筆ノ位置 P' ガソノ P ト一致スルコトヲ示セバヨロ  
シイノデアル. 之レヲ證明スルニハ, (a) QP ハ縮閉線ニ切ス  
ルコト從ツテ P' ハ QP ノ上ニアルコトト, (b) QP' = QP = ρ ナ  
ルコト、ヲ證スルニアリ

(a) 方程式(9)ハ

$$x_1 = x - \frac{y'(1+y'^2)}{y''}, \quad y_1 = y + \frac{1+y'^2}{y''}.$$

ノヤウニ書キ x ニ就テ微分スルト

$$\frac{dx_1}{dx} = x_1' = \frac{y'(1+y'^2)y'''}{y''^2} - 3y'^2 = \frac{y'(1+y'^2)y'''}{y''^2} - 3y'^2,$$

$$\frac{dy_1}{dx} = y_1' = 3y' - (1+y'^2)\frac{y'''}{y''^2} = \frac{3y'y''^2 - (1+y'^2)y'''}{y''^2},$$

$$\therefore \frac{dy_1}{dx_1} = -\frac{1}{y'} = -\frac{1}{\frac{dy}{dx}}.$$

カヤウニ Q ニ於ケル縮閉線ノ傾斜ハ P ニ於ケル原曲線  
ノ傾斜ノ反數ノ記號ヲ變ジタモノニ等シイコトカラ QP ハ縮  
閉線ニ切スルコトガワカル.

(b) S<sub>1</sub> ガ Q<sub>0</sub>Q ノ弧ノ長サヲ表ハスト, QP' = S<sub>1</sub> + ρ ナリ, 今  
此量ハ ρ ニ等シイコトヲ證明センニ

$$\frac{dS_1}{dx} = \frac{d\rho}{dx}$$

デアルコトヲ證明スレバヨイノデアル.

$$\text{今} \quad dS_1^2 = dx_1^2 + dy_1^2,$$

$$\text{今} \quad \frac{dS_1^2}{dx^2} = x_1'^2 + y_1'^2 = y_1'^2 \left(1 + \frac{x_1'^2}{y_1'^2}\right) = y_1'^2(1+y'^2)$$

$$\text{又} \quad \frac{d\rho}{dx} = \pm \frac{3y'y''^2 - (1+y'^2)y'''}{y''^2} \sqrt{1+y'^2} = \pm y_1' \sqrt{1+y'^2},$$

$$\text{故ニ} \quad \frac{dS_1}{dx} = \pm \frac{d\rho}{dx},$$

ρ ガ大キクナルトキ S<sub>1</sub> ハ大キクナル様ニ取ツタカラ上ノ記號  
ヲ採用スル, 即チ

$$dS_1 = d\rho, \quad S_1 = \rho + C,$$



然ルニ  $Q_0$ ニ於テ  $S_1 = 0$ ,  $\rho = \rho_0$  デアルカラ  $o = \rho_0 + C$ ,

故ニ  $\rho = S_1 + \rho_0$ .

上ニハ與ヘラレタ曲線ノ法線ハ縮閉線ノ切線デアルコトヲ偶然ニ得タ、即チ縮閉線ハ與ヘラレタ曲線ノ包圍線デアルコトガワカッタ。コノ性質ハ縮閉線ノ定義トシテ用ヒラレルソウシテ第十七編ノ方法デ其方程式ヲ作ルコトガ出來ル。

### 演習

1. 曲線ノ方程式ガ極坐標デ與ヘラレ  $r = f(\theta)$  デアルト

$$\Delta \tau = \Delta \Psi + \Delta \theta$$

$$\frac{d\tau}{dS} = \frac{d\Psi}{dS} + \frac{d\theta}{dS}$$

$$r' = dr/d\theta \text{ トスレバ } \tan \Psi = r \frac{d\theta}{dr} = \frac{r}{r'}$$

ナルコトヲ記憶スルト次ノ方程式ガ出來ル。

$$(14) \quad \rho = \pm \frac{\left[ r^2 + \frac{dr^2}{d\theta^2} \right]^{\frac{3}{2}}}{r^2 - r \frac{d^2 r}{d\theta^2} + 2 \frac{dr^2}{d\theta^2}}$$

次ノ各曲線ノ曲率半徑ヲ求メヨ。

2. 「アーキメデス」ノ螺旋  $r = a\theta$ . 答  $\rho = \frac{(r^2 + a^2)^{\frac{3}{2}}}{r^2 + 2a^2}$ .

3. 心臟線  $r = 2a(1 - \cos \phi)$ . 答  $\rho = \frac{4}{3} \sqrt{ar}$ .

4. 「レムニスケート」  $r^2 = a^2 \cos 2\theta$ . 答  $\rho = \frac{a^2}{3r}$ .

5. 等邊双曲線  $r^2 \cos 2\theta = a^2$ . 答  $\rho = \frac{r^2}{a^2}$ .

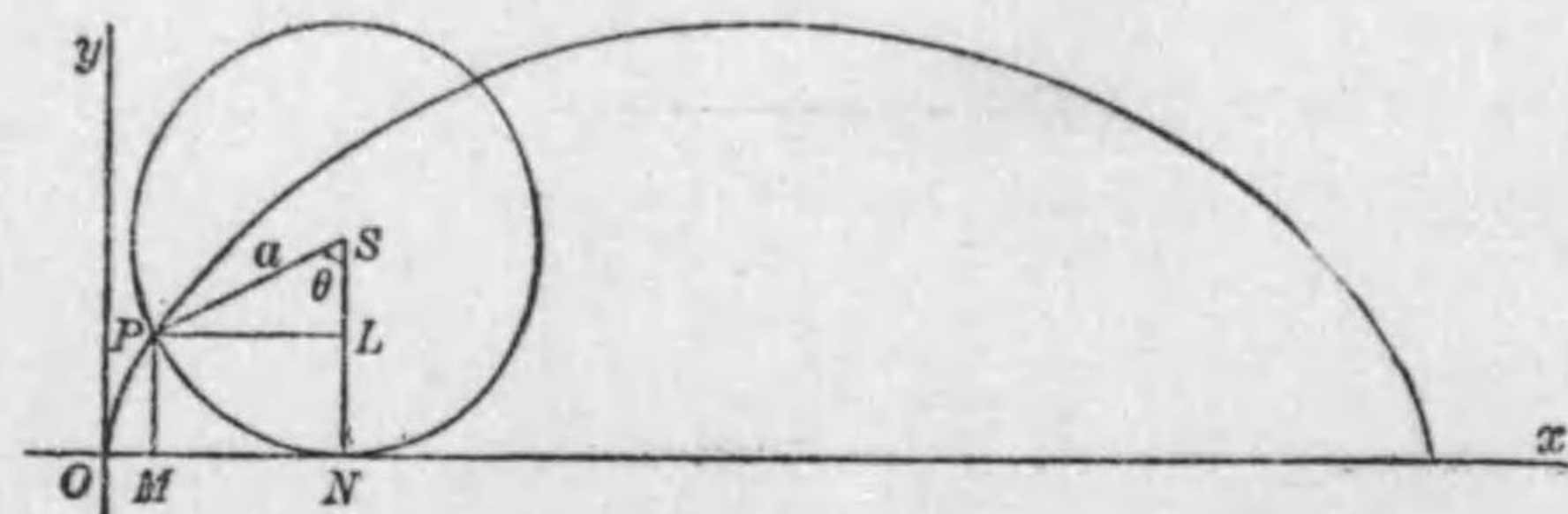
6. 等角螺旋  $r = ae^{k\theta}$ .

7. 三等分曲線  $r = 2a \cos \theta - a$ . 答  $\rho = \frac{a(5 - 4 \cos \theta)^{\frac{3}{2}}}{9 - 6 \cos \theta}$ .

## 第八編

## 擺線

1. 擺線ノ方程式. 擺線ト云フノハ車輪ガ廻轉スルトキ其線ノ上ノ點ガ畫ク路デアル, 即チ圓周ガ滑ベルコトナク直線ノ上ヲ同平面上ニ廻轉スルトキ其上ノ點ガ畫ク路デアル其直線ヲ  $x$  軸トナシ,  $P$  點ガ最終ニ  $O$  點デ直線ニ接シタ後圓ガ廻轉シタ角ヲ  $\theta$  トス.



$P$ ニ於ケル坐標ハ  $x = OM$ ,  $y = MP$  ハ  $\theta$ ヲ用ヒテ表ハサレル, 即チ圓周ノ弧  $NP = a\theta$  ハ圓ハ滑ベルコトガナイカラ直線ノ部分  $ON$  ト等シイ, 故ニ

$$OM = ON - MN = a\theta - a \sin \theta,$$

$$MP = NS - LS = a - a \cos \theta,$$

故ニ擺線ノ方程式ハ

$$(1) \quad \begin{cases} x = a(\theta - \sin \theta), \\ y = a(1 - \cos \theta). \end{cases}$$

此等ノ方程式ノ内カラ  $\theta$ ヲ除去シテ單ニ  $x, y$ ノ關係式ヲ

作ルコトガ出來ル. シカシ此儘ニ置クコトガ簡單デアルバカリデナク, 曲線ノ性質ヲ研究スルノニ都合ガヨロシイ.

## 演習

1. 擺線ノ方程式ヲ頂點即チ最高キ點ヲ新原點トシ平行軸ニ關係セシムルトキハ

$$(2) \quad \begin{cases} x = a\theta + a \sin \theta, \\ y = -a + a \cos \theta, \end{cases}$$

但シ  $\theta$ ハ  $P$  點ガ頂點ニアリタル後廻轉シタル角デアル.

初メ作圖シテ幾何學的ニ此等ノ方程式ヲ作レ, 又(1)ニ變形シテ解析的ニ結果ヲタメセ:

$$x = x' + \pi a, \quad y = y' + 2a, \quad \theta = \theta' + \pi.$$

2. 頂點ヲ原點トシ, 裏返ヘシニシタ擺線ノ方程式ハ:

$$(3) \quad \begin{cases} x = a\theta + a \sin \theta, \\ y = a - a \cos \theta. \end{cases}$$

圖ヲ引キ  $\theta$ ヲ説明セヨ.

2. 擺線ノ性質. 曲線ノ傾度ハ

$$\frac{dy}{dx} = \frac{a \sin \theta d\theta}{a d\theta - a \cos \theta d\theta} = \frac{\sin \theta}{1 - \cos \theta}$$

$$= \frac{2 \sin \frac{1}{2} \theta \cos \frac{1}{2} \theta}{2 \sin^2 \frac{1}{2} \theta} = \cot \frac{1}{2} \theta,$$

或ハ  $\tan \tau = \cot \frac{1}{2} \theta.$

此結果カラ P ニ於ケル切線ハ弦 PN ニ垂直デアアルコトガワカル、何トナレバ弦 PN ハ x 軸ノ負方向ト  $\frac{1}{2} \theta$  ナル角ヲナス。カラ其傾斜ハ  $-\tan \frac{1}{2} \theta$  デアル、即チ切線ノ傾斜ノ記號ヲ變ジタモノヲ加ヘタモノデアアルカラデアアル。カヤウニ P ニ於ケル法線ハ母圓ノ最低點ヲスギルコトガワカツタ、從テ切線ハ最高點ヲスギルコトモワカル。

$(x_0, y_0)$  ナル點ニ於ケル切線ノ方程式ハ  $\theta = \theta_0$  ト

$$(4) \quad y - y_0 = \cot \frac{1}{2} \theta_0 (x - x_0),$$

デ法線ノ方程式ハ

$$(5) \quad x - x_0 + \cot \frac{1}{2} \theta_0 (y - y_0) = 0$$

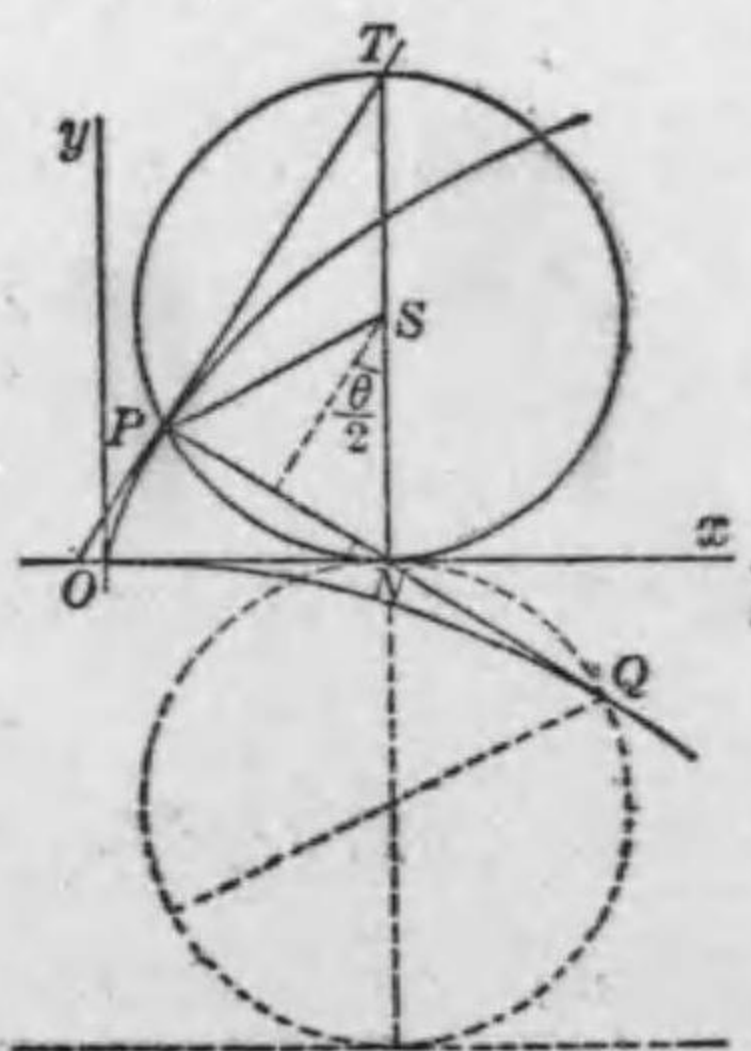
縮閉線ハ

$$\frac{dy}{dx} = \cot \frac{1}{2} \theta. \quad \text{從テ}$$

$$1 + \frac{dy^2}{dx^2} = \csc^2 \frac{1}{2} \theta$$

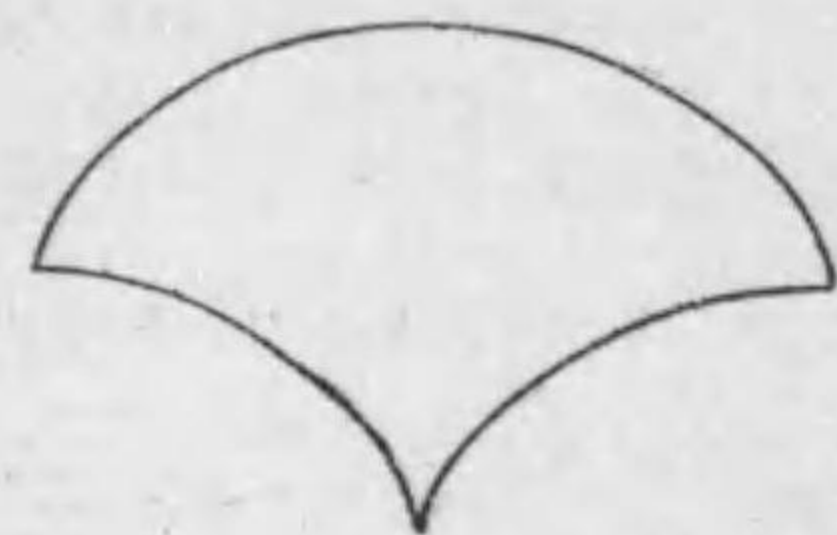
及ビ  $\frac{d^2y}{dx^2} = \frac{d \frac{dy}{dx}}{dx}$

$$= \frac{-\frac{1}{2} \csc^2 \frac{1}{2} \theta d\theta}{a d\theta - a \cos \theta d\theta} = -\frac{1}{4a \sin^4 \frac{1}{2} \theta},$$



$$(6) \quad \rho = \frac{4a \sin^4 \frac{1}{2} \theta}{\sin^3 \frac{1}{2} \theta} = 4a \sin \frac{1}{2} \theta.$$

曲率ノ中心ヲ作ルコトハ容易デアアル、從テ縮閉線ヲ見出すコトモ容易デアアル。第一ノモノニ對シテハ PN ナル法線ノ上ニ  $PQ = 4a \sin \frac{1}{2} \theta$  ヲ作レバヨロシイ即チ PN ノ二倍ヲ作レバヨロシイ、從テ第二ノモノ即チ縮閉線ハ O ヲ頂トスル等シキ擺線デアアルコトハ容易ニ證明ガ出來ル。



弧ハ

$$ds^2 = dx^2 + dy^2 = a^2 [(1 - \cos \theta)^2 + \sin^2 \theta] d\theta^2 \\ = 4a^2 \sin^2 \frac{1}{2} \theta d\theta^2$$

$$s = 2a \int \sin \frac{1}{2} \theta d\theta = 4a \int \sin \frac{1}{2} \theta d\left(\frac{1}{2} \theta\right) \\ = -4a \cos \frac{1}{2} \theta + c.$$

原點カラ弧ヲ測ルト

$$0 = -4a + c, \quad c = 4a$$

$$(7) \quad \therefore s = 4a \left(1 - \cos \frac{1}{2} \theta\right) = 8a \sin^2 \frac{1}{4} \theta.$$

故ニ擺線ノ一切リノ全長ハ  $8a$  デアル。

一切ノ面積ハ最初「ガリレオ」ニ見出サレタモノデア  
ツテ、ソレハ其レダケノ部分ヲ切り其目方ヲ計ツテ得タモノ  
デアツタ。今積分法ニテ求メルコトガ出来ル。

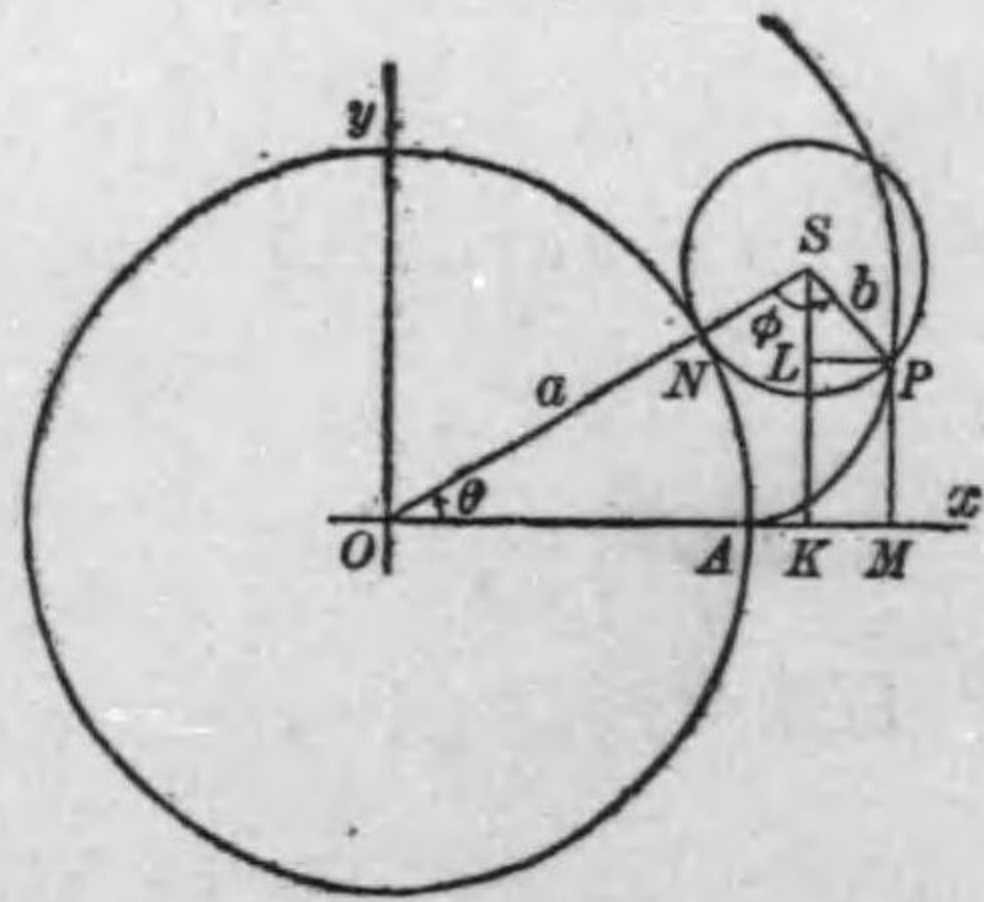
$$\begin{aligned} A &= \int y dx = \int [a - a \cos \theta] [a d\theta - a \cos \theta d\theta] \\ &= a^2 \int (1 - 2 \cos \theta + \cos^2 \theta) d\theta \\ &= a^2 \left[ \theta - 2 \sin \theta + \frac{1}{2} (\theta + \sin \theta \cos \theta) \right] + c \\ &o = o + c \end{aligned}$$

$$(8) \quad \therefore A = a^2 \left( \frac{3}{2} \theta - 2 \sin \theta + \frac{1}{2} \sin \theta \cos \theta \right).$$

故ニ完全ナル擺線ノ一切リノ面積ハ  $3\pi a^2$  デ、母圓ノ3倍  
ニ等シイ。

3. 外擺線, 内擺線.

一ツノ圓ガ定メラレ  
テアル第二ノ平面上ニア  
リテ滑ベルコトナク, 切  
シナガラ廻轉スルトキ第  
一圓ノ周上ノ一點ハ外擺  
線ト名ヅケル曲線ヲ畫ク,  
上圖カラ



$$x = OK + KM = (a+b) \cos \theta + b \sin \left[ \phi - \left( \frac{\pi}{2} - \theta \right) \right],$$

$$y = KS - LS = (a+b) \sin \theta - b \cos \left[ \phi - \left( \frac{\pi}{2} - \theta \right) \right].$$

尙  $\tilde{AN} = a\theta, \tilde{NP} = b\phi$  ハ等シク, 即チ  $a\theta = b\phi$  デアルカ  
ラ外擺線ノ方程式トシテ

$$(9) \quad \begin{cases} x = (a+b) \cos \theta - b \cos \frac{a+b}{b} \theta, \\ y = (a+b) \sin \theta - b \sin \frac{a+b}{b} \theta \end{cases}$$

動圓ガ定圓ニ内接スルトキ内擺線ト稱スルモノガ出来ル  
其方程式ハ上ト同様ニシテ作り得ラレル。

$$(10) \quad x = (a-b) \cos \theta + b \cos \frac{a-b}{b} \theta,$$

$$y = (a-b) \sin \theta - b \sin \frac{a-b}{b} \theta.$$

次ノ特別ノ場合ハ興味アルモノデアル。

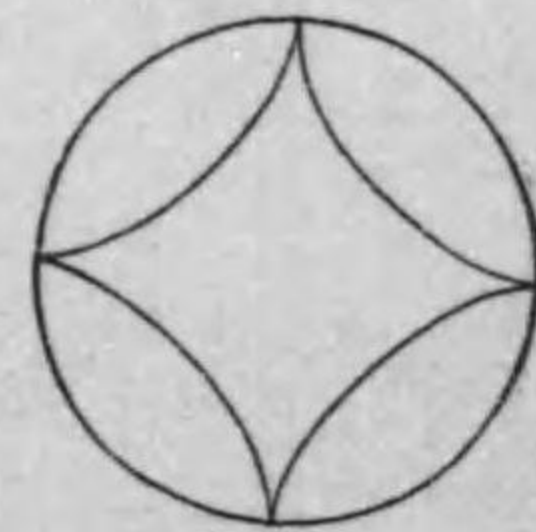
(1)  $a = 2b$  デアルト, 内擺線ハ直線ノ部分トナル, 即チ  $y = 0$   
トナリ, 圓ノ直径トナル。即チ圓運動ガ直線運動トナル。

(2)  $a = 4b$  デアルトキハ内擺線ハ次ノモノトナル:

$$\begin{cases} x = 3b \cos \theta + b \cos 3\theta = a \cos^3 \theta, \\ y = 3b \sin \theta - b \sin 3\theta = a \sin^3 \theta. \end{cases}$$

ソレカラシテ

$$x^{\frac{2}{3}} + y^{\frac{2}{3}} = a^{\frac{2}{3}}$$



コレハ四尖頭内擺線ト稱セラレルモノデアル。

諸擺線ハ應用重學ヲ要ナル部分ヲ有ス、即チ齒車ノ齒ガ切ラレル形ノ理論ニ於テ必要ナモノデアアル。

### 演習

1. (5)ナル擺線ノ法線ノ方程式ヲ用ヒテ法線ハ母圓ノ最低點ヲスグルコトヲ證明セヨ。

2. 擺線ヲ生ズル點ノ速度ヲ見出セ

答  $v = 2a\omega \sin \frac{1}{2}\theta = 2V \sin \frac{1}{2}\theta$ . 但シ $\omega$ ハ車輪ノ

角速度、 $V$ ハ轂ノ直線速度ナリ。頂點ニ於テハ $v=2V$ 、即チ車輪ノ最高點ノ速度ハ轂ノ速度ノ2倍ナリ。

3. 擺線ノ弓狀ト縮閉線トノ間ニ含マレタ面積ヲ見出セ。

4. (3)ナル反擺線ノ弧ノ長サヲ頂點カラ計レバ

$S=4a \sin \tau$ ナルコトヲ證明セヨ。

5. 擺線ノ縮閉線ノ方程式ヲ(第七編ノ(9)ヲ用ヒテ)解析的ニ作レ。

6. 餘擺線

$$x = a\theta - b \sin \theta, \quad y = a - b \cos \theta$$

ハ如何ナル點デ峻シクナルカ。

7. 上問ノ餘擺線ノ弓狀間ノ面積ヲ求ム。

8.  $b = a$ ナル外擺線ハ心臟線トナル:

$$r = 2a(1 - \cos \phi)$$

但シ尖頭ヲ極トシタルモノデアアル。此結果ヲ(9)ナル方程式カラ得ヨ。

9. 上問ヲ直接ニ幾何學的ニ得ヨ。

10. 外擺線デ  $b = \frac{1}{2}a$ デアルト直線デアルコトヲ證明セ

ヨ。

11. 廻轉スル圓ガ心臟線ヲ畫クニハ何程ノ廻轉ヲナスカ。四個ノ尖頭ヲ有スル外擺線ハ如何。月ハ一月(舊曆ノ)中ニ何程ノ廻轉ヲナスカ。

12.  $a$ ト $b$ トガ可度デアルトキ内擺線ガ何程ノ尖頭ヲ有スルカ。 $a$ ト $b$ トガ不可度デアルトキ其曲線ヲ何ト云フカ。

## 第九編 定積分

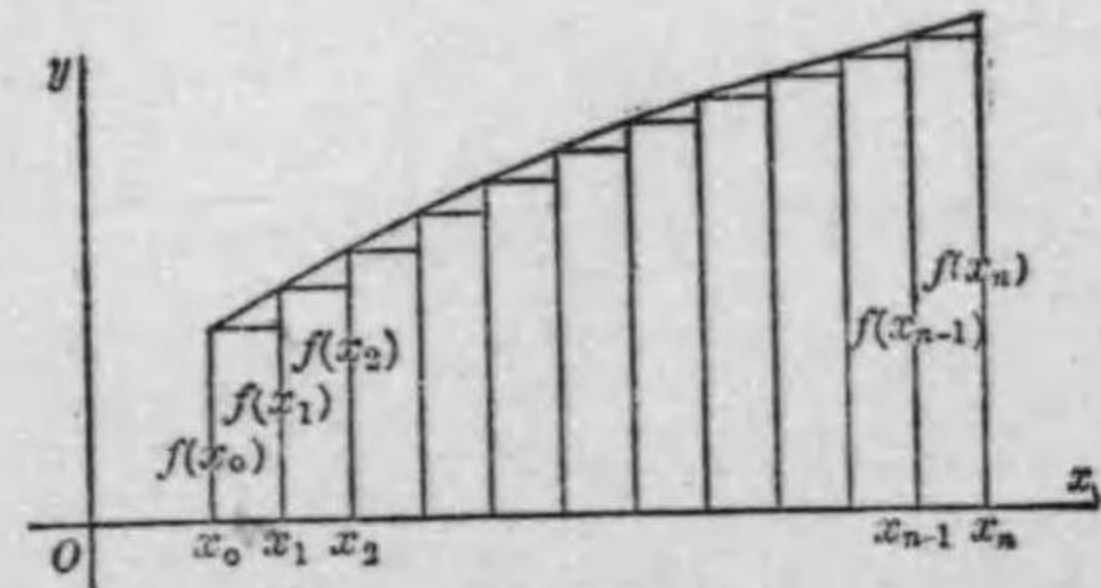
1. 曲線ノ下ノ面積ノ新ラシキ式. 第六編ニ於テ連続曲線ノ下ノ面積  $A$  ヲ積分法ニテ計算スルコトヲ説イタ. ソウシテ

$$D_x A = y, \quad A = \int y dx + c,$$

從テ

$$(1) \quad A = \left[ \int y dx \right]_{x=a}^{x=b} - \left[ \int y dx \right]_{x=a}^{x=a} = \left[ \int y dx \right]_{x=a}^{x=b}$$

今同シ面積ヲ計算スル新法ヲ説コウ.  $x$  軸ノ間隙  $(a, b)$   $a \leqq x \leqq b$  ヲ  $n$  個ニ等分シ其分點ヲスギテ縦線ヲ引クトシヤウ. 各小間隙ノ上ニ其左端ノ縦線ヲ高サトスル矩形ヲ作ルトセバ此等矩形ノ和ハ問題ノ  $A$  面積ノ近似値デアル, ソウシテ  $n$  ガ極限ナク増加スレバ



ル程  $A$  ニ近迫ス. 其證明ハ此編ノ終リニ説クデアラウ.

解析的ニ上ノ和ヲ説明シヤウ. 此第一ノ矩形ノ面積ハ

$$f(a) \Delta x \quad \text{或ハ} \quad f(x_0) \Delta x$$

ナリ, 但シ  $\Delta x$  ハ底ノ長サヲ表ハシ  $x_1 - x_0 = (b-a)/n$  ナリト

ス. 第二ノ矩形ハ  $f(x_1) \Delta x$  デアルヤウニ以下同法ヲ繰返ヘストキハ其面積ノ和ハ

$$(2) \quad f(x_0) \Delta x + f(x_1) \Delta x + f(x_2) \Delta x + \dots + f(x_{n-1}) \Delta x,$$

$n$  ガ無限ニ増大スレバ

$$(3) \quad A = \lim_{n \rightarrow \infty} [f(x_0) \Delta x + f(x_1) \Delta x + \dots + f(x_{n-1}) \Delta x]$$

[例]  $y = f(x) = \sin x$  ニ於テ間隙  $(a, b)$  ハ  $0 \leqq x \leqq \pi/2$  デアルトセバ  $n=10$  ナルトキ  $\Delta x = 3.14/20 = 0.157$  デアル. 今

$$\sin 0 \Delta x + \sin 9^\circ \Delta x + \dots + \sin 81^\circ \Delta x$$

ヲ計算シヤウ. コノニ

$\sin 0^\circ = 0.000$	$\sin 45^\circ = 0.707$
$\sin 9^\circ = 0.156$	$\sin 54^\circ = 0.809$
$\sin 18^\circ = 0.309$	$\sin 63^\circ = 0.891$
$\sin 27^\circ = 0.454$	$\sin 72^\circ = 0.851$
$\sin 36^\circ = 0.588$	$\sin 81^\circ = 0.988$
<hr style="width: 50%; margin: 0 auto;"/>	<hr style="width: 50%; margin: 0 auto;"/>
1.507	4.346

$$(1.507 + 4.346) \times 0.157 = 0.92$$

2. 第1款ニ見出シタ  $A$  ノ二ツノ値ヲ等シトオケバ

$$(4) \quad \lim_{n \rightarrow \infty} [f(x_0) \Delta x + f(x_1) \Delta x + \dots + f(x_{n-1}) \Delta x] \\ = \left[ \int f(x) dx \right]_{x=a}^{x=b}$$

(1) ト (3) トノ公式ハ幾何學的觀察ヨリ導カレタモノデア

ルケレドモ性質ニ於テハ純粹ナ解析的ノモノデアル。

積分法ノ基礎ノ定理.  $f(x)$  ハ  $a \leq x \leq b$  ナル間隙ニ於テ  $x$  ノ連続函数デアルトシヤウ。此間隙ヲ  $n$  個ニ等分シタ點

ヲ  $x_0 = a, x_1, x_2, x_3, \dots, x_{n-1}, x_n = b$  トセヨ, ソウシテ

$$f(x_0) \Delta x + f(x_1) \Delta x + \dots + f(x_{n-1}) \Delta x$$

ヲ作り  $n$  ヲ無限ニ増大ナラシムレバ其和ハ極限ニ近ヅク。此極限ハ  $f(x)$  ヲ積分シ, 而カモ  $x=a$  ト  $x=b$  トノ間ニ取リタルモノニ等シ:

$$\left[ f(x) dx \right]_{x=a}^{x=b}$$

之ヲ公式トシテ記スルト

$$(5) \lim_{n \rightarrow \infty} [f(x_0) \Delta x + f(x_1) \Delta x + \dots + f(x_{n-1}) \Delta x] \\ = \left[ \int f(x) dx \right]_{x=a}^{x=b}.$$

第1款ニ於テ矩形ノ高サヲ左リノ縦線トシナイデ, 右ノ縦線ヲ用ヒテ (3) ノ代リニ

$$A = \lim_{n \rightarrow \infty} [f(x_1) \Delta x + f(x_2) \Delta x + \dots + f(x_n) \Delta x]$$

トシテモヨロシイ。從テ (4) ハ

$$(6) \lim_{n \rightarrow \infty} [f(x_1) \Delta x + f(x_2) \Delta x + \dots + f(x_n) \Delta x] \\ = \left[ f(x) dx \right]_{x=a}^{x=b}.$$

又此等ノ高サトシテ 其中間ノ縦線ヲ選ビ來ルモ隨意ナリ。

又各間隙ノ  $(x_0, x_1), (x_1, x_2), \dots$  ハ等シクナクトモヨロシイ, 唯其長サ  $\Delta x_0, \Delta x_1, \dots$  ノ最大ナルモノデモ  $n$  ガ無限ニ大ナルトキニ  $0$  ニ近ヅクコトが必要デアル,

[定義] (3) 或ハ (5) ナル和ノ極限ヲ  $f(x)$  ノ定積分ト云ヒ次ノヤウニ表ハサレル,

$$\int_a^b f(x) dx$$

和ノ極限デアル定積分カラ區別シテ微係數ノ逆デアルモノヲ不定積分ト云フ。

積分ノ記號ハ古ルイ字形ノ長イ  $s$  ノ字カラ出來タモノデ, 即チ和 (Summa) ノ首字デアル, 畢竟和ノ極限カラ起ツタモノデアル。

此様ナ (2) 或ハ (5) ニ入ツタヤウナ和ハ度々次ノ様ニ表ハサレル。

$$\sum_{k=0}^{n-1} f(x_k) \Delta x, \quad \sum_{k=1}^n f(x_k) \Delta x.$$

## 演習

1.  $0 \leq x \leq 1$  ニ於テ

$$f(x) = \frac{1}{1+x^2}, \quad \Delta x = 1$$

デアルトキ (2) ナル和ヲ書ケ, (2) ナル和ノ極限ヲ不定積分デ表ハセ。

2.  $0 \leq x \leq \frac{1}{2}$  トシ,

$$f(x) = \frac{1}{\sqrt{1-x^2}}, \quad \Delta x = 0.05$$

トシテ

$$\sum_{k=0}^9 \frac{\Delta x}{\sqrt{1-x_k^2}}, \quad \sum_{k=1}^{10} \frac{\Delta x}{\sqrt{1-x_k^2}}$$

ヲ計算シ次ニ  $\Delta x$  ガ 0 ニ近ヅクトキ和ノ極限ヲ定メヨ。又此極限ハ前ノ二ツノ和ノ間ニアルコトヲ證明セヨ。

3. 廻轉體ノ體積 平面曲線ガ其平面ノ上ニアル軸ノ周リニ廻轉スルト廻轉體ト云フ立體ガ出來ル。

軸ニ垂直ナル平面ヲ各底トシテ立體ノ體積ヲ定メルトシヤウ。

廻轉ノ軸ヲ横線トシ  $x_0 = a_1, x_1, x_2, \dots, x_n = b$  デ底ト底トノ間ニアル軸ヲ  $n$  等分シ, 各分點ヲスギテ軸ニ垂直ナル平面ヲ作リテ廻轉體ヲ  $n$  個ノ薄片トナセバ  $k$  番目ノ圓柱體ノ體積ハ

$$\pi y_k^2 dx.$$

デアツテ所題ノ立體ノ體積ハ此等薄片ノ圓柱體ノ體積ノ和ノ極限デアアル:

$$V = \lim_{n \rightarrow \infty} [\pi y_0^2 \Delta x + \pi y_1^2 \Delta x + \dots + \pi y_{n-1}^2 \Delta x],$$

即チ

$$(7) \quad V = \pi \int_a^b y^2 dx,$$

但シ  $y = \phi(x)$  ハ母線ノ方程式ナリ。

例ハバ球ノ一平面ニテ截テ生ズル饅頭形ニ於テ

$$x^2 + y^2 = r^2$$

ナル母線デアアル。  $h$  ハ部分ノ高サヲ表ハストセバ, 底ノ縦線ハ  $r-h$  及ビ  $r$  デアル。

$$V = \pi \int_{r-h}^r (r^2 - x^2) dx = \pi \left[ r^2 x - \frac{x^3}{3} \right]_{r-h}^r = \frac{\pi}{3} (3r-h) h^2.$$

特ニ  $h=r$  デアルトキハ全球トナリ何人モ知ツテオル  $\frac{4}{3} \pi r^3$  ヲ得。

## 演習

1. 廻轉ノ橢圓體ノ體積ハ  $a$  ガ軸ノ半分ヲ表ハストシテ  $\frac{4}{3} \pi a l^2$  デアル, コトヲ示セ。

2. 「スピンドル」トハ

$$y = \sin x$$

ガ其底ノ周リニ廻轉シタモノデアアル, 體積ヲ求メヨ。

答 4.93480

3. 圓錐體ノ體積ハ  $\frac{1}{3} \pi r^2 h$  デアル, 又截頭圓錐體ノ體積ハ



$$\frac{\pi}{3} h (r^2 + rR + R^2)$$

デアルコトヲ示セ.

4. 任意ノ高さヲ持ツテキル廻轉ノ拋物體ノ體積ハ外接圓柱體ノ半ニ等シキコトヲ示セ.

5. 擺線ガ底ノ周リニ廻轉スル其體積如何.

6. 四ツノ尖頭ヲ有スル内擺線

$$x^{\frac{2}{3}} + y^{\frac{2}{3}} = a^{\frac{2}{3}}$$

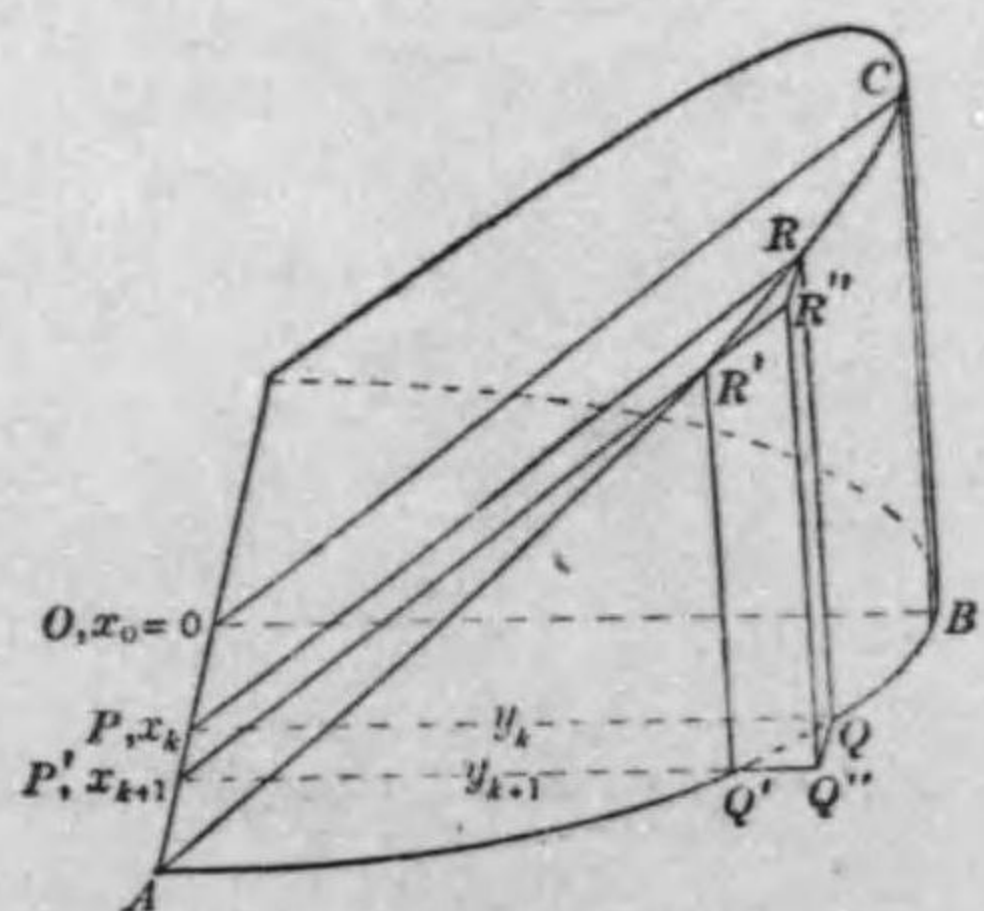
ガx軸ノ周リニ廻轉スルト體積何程デアルカ. 答  $\frac{32\pi a^3}{105}$ .

7. 懸鏈線  $y = \frac{1}{2}(e^x + e^{-x})$  ノx軸ノ周リニ生ズル廻轉カラ生ズル體積ノ内一底ハ  $x=0$  ナルトキノ體積ヲ求ム.

答  $\frac{\pi}{8}(e^{2h} - e^{-2h} + 4h)$ .

4. 他ノ體積 次ノ例ヲ始メヤウ.

伐木者ガアル. 直徑4尺ノ木ヲ伐ラウトシテ半分ダケ伐ツタ, 截リ口ノ半面ハ水平デ, 他ノ一面ノ傾斜ハ45度ナリ, 木ノ碎片何程ヲ損スルカ.



計算シャウトスル立體

ハ對稱デアルカラ OABC ダケ計算スレバヨロシ. OA ナル稜ヲn等分シ各分點ヲスギテソレニ垂直ナ平面ヲ作り殆ンド柱體ニ近イ薄片ニ分ツトシャウ. QRR'Q' ハ曲ツタ面デアルカラ困難ガアルヤウデアルガ PQR ヲ底トシ PP' ヲ高サトシタ柱體ト見ルト其困難ヲ除去スルコトガ出來ル. ソウシタ柱體ノ和ハ實際ノ薄片ノ和ヨリハ輕微ノ差ガアル.

各柱體ノ體積ヲ解析的ニ求メヤウ. 底 PQR ハ 45° ノ直三角形デアルカラ  $OP=x_k, PQ=y_k$  トセバ「ピタゴラス」ノ定理ニ依リ

$$x_k^2 + y_k^2 = 4.$$

ソレカラ此柱體ノ體積ハ

$$\frac{1}{2} y_k^2 \Delta x = \frac{1}{2} (4 - x_k^2) \Delta x,$$

從テ計算シャウトスル立體ノ體積ノ和ハ

$$(8) \quad \lim_{k \rightarrow \infty} \left[ \frac{1}{2} (4 - x_0^2) \Delta x + \frac{1}{2} (4 - x_1^2) \Delta x + \dots + \frac{1}{2} (4 - x_{k-1}^2) \Delta x \right].$$

今(8)ナル極限ヲ求ムルコトニ歸着スル. 然ルニ此極限ヲ觀察シテ第1款ノ(3)ナル極限ト同ジ形式ヲナス, 即チ

$$f(x) = \frac{1}{2} (4 - x^2)$$

トシタモノデアル. 故ニ  $x=a=0$  ト  $x=b=2$  トノ間ニ積分シタモノデアル, 即チ

$$\int_0^2 \frac{1}{2}(4-x^2) dx = \frac{2}{3}$$

依テ全體積ハ其2倍ニ當ル  $5\frac{1}{3}$  立方尺ナリ。

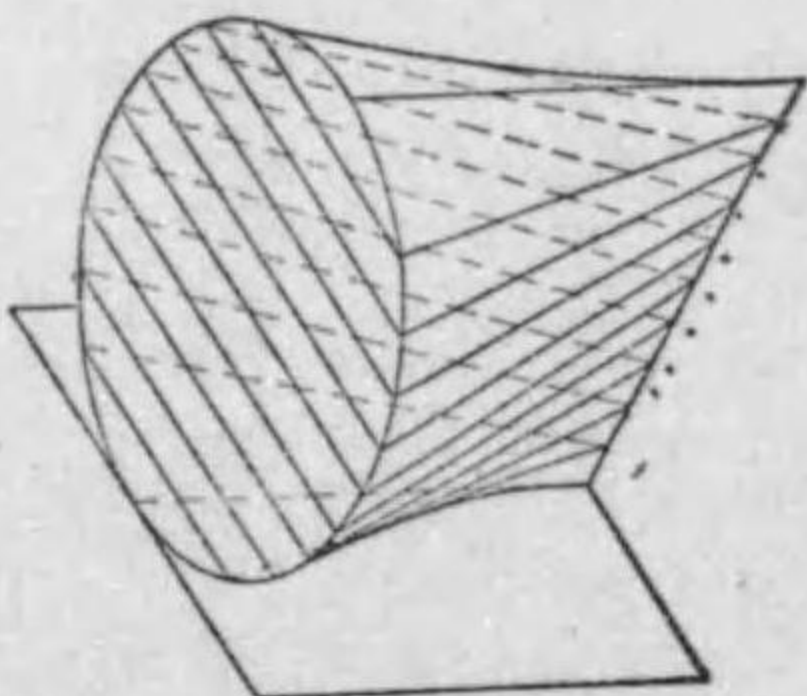
演習

1. 「コノイド」ト云フ錐體ハ一平面ニ垂直ナ平面上ニア  
ル圓ノ周上ノ一點ト垂直ナ直線上ノ一點トヲ結び付ケタル直  
線ガ常ニ前ニイッタ平面ニ平行ト  
ナツテ曲稜面ヲ形成スルモノヲ云  
フ。其體積ヲ求メヨ。

答  $\frac{1}{2} \pi a^2 h$ .

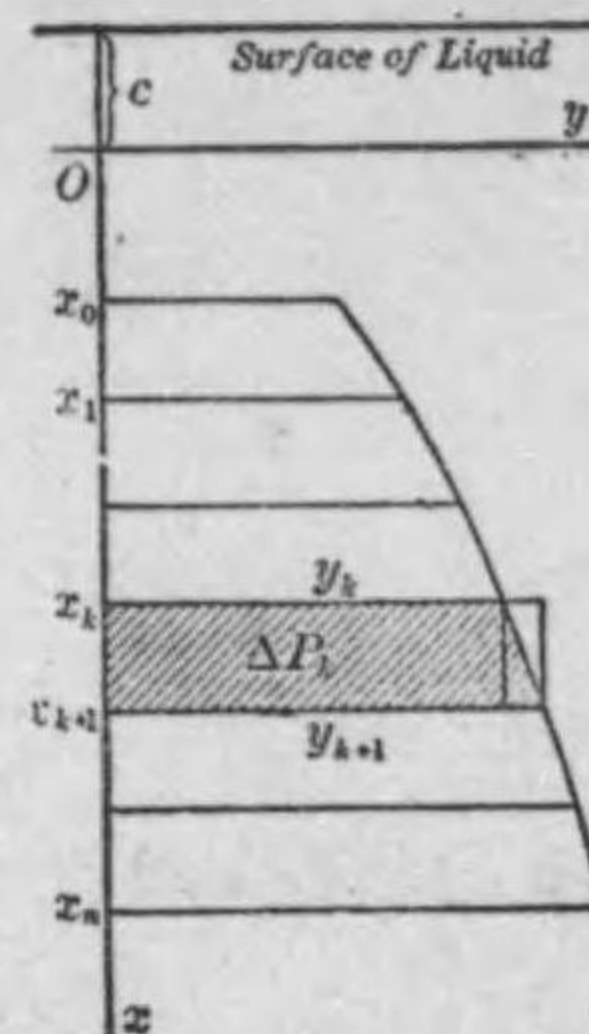
2. 其半軸ガ  $a, b, c$  ナル橢圓  
體ノ體積ヲ求メヨ。

答  $\frac{4}{3} \pi abc$ .



5. 水壓 鉛直ナ壁面ニ於ケル水ノ壓力ノ問題ヲ論ジヤ  
ウ。面ヲ圖ニ表ハシタヤウニ界セラレタモノト見テ、コレヲ  
等シク距タツタ縦線デ  $n$  個ノ長片ニ分ツタモノトシ其  $k$  番  
目ノ長片ノ壓力ヲ  $\Delta P_k$  トセヨ。次ノヤウニ  $\Delta P_k$  ニ近キモ  
ノヲ得ル。  $(x_k, y_k)$  ナル點ヲスギテ  $x$  軸ニ平行ナ直線ヲ引キ其  
小長片カラ矩形ヲ作ルトセバ其壓力ハ與ヘラレタ小長片ニ於

ケルモノヨリハ小サイモノヲ得ル。シ  
カシ其差ガ何程デアルカヲ知ラナイ。  
シカシ上ノ邊即チ  $y_k$  ニ沿ヒテ  $90^\circ$  ダ  
ケ其矩形ヲ廻轉サセルト明カニ壓力ハ  
一層減ズルデアラウ。此新位置ニ於ケ  
ル矩形ノ上ニ及ボス壓力ハ容易ニ計算  
ガ出來ル。



精密ニ此矩形ヲ底トシテ立ツ所ノ  
液體ノ柱體ノ重サデアル。カヤウナ柱體ノ體積ハ  
 $(x_k+c)y_k \Delta x$  デアル、然ルニ1立方單位ノ液體ノ重サガ  $w$   
デアルト、其問題ノ柱體ノ重サハ

$$w(x_k+c)y_k \Delta x.$$

此レハ  $\Delta P_k$  ヨリモ小サイ。

同様ニ與ヘラレタ小長片ヲ取圍ンダ高サガ  $y_{k+1}$  デアル  
矩形ヲ論ズルコトガ出來ル。此新位置ニ於ケル壓力ハ

$$w(x_{k+1}+c)y_{k+1} \Delta x$$

デ、而カモコレハ  $\Delta P_k$  ヨリモ大キイ。カヤウニシテ

$$(9) \quad w(x_k+c)y_k \Delta x < \Delta P_k < w(x_{k+1}+c)y_{k+1} \Delta x$$

$k=0, 1, \dots, n-1$  トシテ (9) ナル關係ヲ書キ上ゲルト

$$w(x_0+c)y_0 \Delta x < \Delta P_0 < w(x_1+c)y_1 \Delta x$$

$$w(x_1+c)y_1 \Delta x < \Delta P_1 < w(x_2+c)y_2 \Delta x,$$

.....

$$w(x_{n-1}+c)y_{n-1}\Delta x < \Delta P_{n-1} < w(x_n+c)y_n\Delta x.$$

之ヲ加へルト壓力 P ハ

$$(10) \quad w(x_0+c)y_0\Delta x + w(x_1+c)y_1\Delta x + \dots + w(x_{n-1}+c)y_{n-1}\Delta x,$$

ト

$$(11) \quad w(x_1+c)y_1\Delta x + w(x_2+c)y_2\Delta x + \dots + w(x_n+c)y_n\Delta x$$

トノ間ニアルコトガワカル。

n ヲ無限ニ増加サセルト (10) ト (11) トハ定積分

$$w \int_a^b (x+c)y dx$$

ニ近ヅク、從テ壓力 P ハ共通ノ此極限ト一致スルカラ

$$(12) \quad P = w \int_a^b (x+c)y dx.$$

此結果ハ x ガ増加スルトキ之ヲ界スル曲線ノ縦線ハ決シテ減少シナイト云フコトノ假設カラ導イタモノデアアル、シカシ此條件ガ満足セラレナイトキデモ第6款ニ示スヤウニ此公式ハ眞デアアル。

[例 1] 満シタ直方體ノ水槽ノ一側面ノ受ケル壓力ヲ求めヨ。

水面ニ y ノ軸ヲ取ルコトガ便利デアアル。其境ノ曲線ノ方程式ハ  $y=k$  デアル、ソウシテ

$$P = w \int_0^h xk dx = wk \left[ \frac{x^2}{2} \right]_0^h = \frac{wk^2h}{2}.$$

矩形ノ面積ハ  $hk$  デアルカラ此結果ヲ

$$P = w \cdot hk \cdot \frac{h}{2}$$

ト云フ形ニ書クナラバ

全壓力ハ其矩形ノ重心ヲスギ且其面上ニアル水平線ノ周リニ  $90^\circ$  タケ廻轉シテ側面ヲ持ち來タシテ受ケル壓力即チ此側面ヲ底面トシテ  $\frac{1}{2}h$  ノ高さノ液體ノ柱ノ壓力ト同ジモノデアアル。

[例 2] 直徑 6 呎デ半分水ヲ滿タシタ大管ガアル。其管ヲ閉ヂタ水門ノ壓力ヲ問フ。

水門ノ半分ノ上ノ壓力ハ

$$w \int_0^3 x\sqrt{9-x^2} dx,$$

ナリ但シ w ハ水ノ一呎立方ノ重サデ  $62\frac{1}{4}$  「ポンド」アリ。今

$$\int x\sqrt{9-x^2} dx = -\frac{1}{3}(9-x^2)^{\frac{3}{2}}$$

デアアルカラ

$$\int_0^3 x\sqrt{9-x^2} dx = -\frac{1}{3}(9-x^2)^{\frac{3}{2}} \Big|_0^3 = 9,$$

從テ  $2 \times 62\frac{1}{4} \times 9 = 1120$  「ポンド」デアアル。

## 6. 「ツウハメル」ノ定理 第一ノ級數

$$a_1 + a_2 + \dots + a_n$$

ハ n ガ無限大トナルトキーツノ極限ニ近ヅクモノデ、第二ノ

級數

$$\beta_1 + \beta_2 + \dots + \beta_n$$

ノ  $\beta_k$  ハ  $a_k$  トハ高次ノ無限小ノ差ヲ有スルモノ：即チ

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\beta_k}{a_k} = 1, \quad \frac{\beta_k}{a_k} = 1 + \varepsilon_k, \quad \beta_k = a_k + \varepsilon_k a_k,$$

但シ  $\varepsilon_k$  ハ無限小ナリ。然ルトキハ

$$\lim_{n \rightarrow \infty} [\beta_1 + \beta_2 + \dots + \beta_n] = \lim_{n \rightarrow \infty} [a_1 + a_2 + \dots + a_n].$$

定理ノ假设ニ依ツテ

$$\begin{aligned} \beta_1 + \beta_2 + \dots + \beta_n &= a_1 + a_2 + \dots + a_n \\ &\quad + \varepsilon_1 a_1 + \varepsilon_2 a_2 + \dots + \varepsilon_n a_n, \end{aligned}$$

從テ此方程式ノ最後ノ行ノ數ノ和ガ  $n \rightarrow \infty$  ナルトキ  $0$  ニ近ヅクコトヲ證明スレバヨロシイ。  $\eta$  ガ  $\varepsilon_k$  ノ内ノ最大キイモノヲ表ハストキハ

$$\left. \begin{aligned} -\eta &\leq \varepsilon_1 \leq \eta, \\ -\eta &\leq \varepsilon_2 \leq \eta, \\ \dots &\dots \\ -\eta &\leq \varepsilon_n \leq \eta, \end{aligned} \right\} \begin{aligned} -\eta a_1 &\leq \varepsilon_1 a_1 \leq \eta a_1 \\ -\eta a_2 &\leq \varepsilon_2 a_2 \leq \eta a_2 \\ \dots &\dots \\ -\eta a_n &\leq \varepsilon_n a_n \leq \eta a_n \end{aligned}$$

故ニ

$$\begin{aligned} -(a_1 + a_2 + \dots + a_n) \eta &\leq \varepsilon_1 a_1 + \dots \\ &\quad + \varepsilon_n a_n \leq (a_1 + a_2 + \dots + a_n) \eta \end{aligned}$$

然ルニ  $\eta \rightarrow 0$  ニ近ヅキ  $a_1 + a_2 + \dots + a_n$  ハ有限デアルカラ證明ノ目的ハ達セラレタ。

[應用] 「ツウハメル」ノ定理ノ應用トシテ(12)ナル公式

ノ證明ノ完全ナモノヲ與ヘル。  $y'_k$

ハ  $k$  番目ノ薄片ノ最小縦線デ、  $y''_k$

ハ最大縦線ナリトセヨ。

第5款ノ理論ト同様ニ

$$\begin{aligned} w(x_k + c) y'_k \Delta x &< \Delta P_k \\ &< w(x_{k+1} + c) y''_k \Delta x, \end{aligned}$$

故ニ  $P$  ハ二ツノ變數ノ間ニアリ。

$$(13) \quad w(x_0 + c) y'_0 \Delta x + w(x_1 + c) y'_1 \Delta x + \dots + w(x_{n-1} + c) y'_{n-1} \Delta x,$$

$$(14) \quad w(x_1 + c) y''_0 \Delta x + w(x_2 + c) y''_1 \Delta x + \dots + w(x_n + c) y''_{n-1} \Delta x.$$

此等變數ノ何レモ第2款ノ基礎ノ定理ガ適用セラレ、形式ヲ有シナイガ

$$(15) \quad w(x_0 + c) y_0 \Delta x + w(x_1 + c) y_1 \Delta x + \dots + w(x_{n-1} + c) y_{n-1} \Delta x$$

ノヤウナ變數ノ極限ガ(12)ナル定積分デアリ且(13), (14)ノ極限モ同ジ定積分デアルコトヲ知ルコトガ出來ル。

$$a_k = w(x_k + c) y_k \Delta x, \quad \beta_k = w(x_k + c) y'_k \Delta x$$

$$\lim_{n \rightarrow \infty} (a_1 + a_2 + \dots + a_n) = \int_a^b w(x+c)y dx$$

$$\text{然ルニ } \frac{\beta_n}{a_n} = \frac{w(x_k + c) y'_k \Delta x}{w(x_k + c) y_k \Delta x} = \frac{y'_k}{y_k}, \quad \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{y'_k}{y_k} = 1.$$

故ニ  $\beta_1 + \beta_2 + \dots + \beta_n$  即チ(13)ナル變數ハ上ノ積分ヲ極限

